

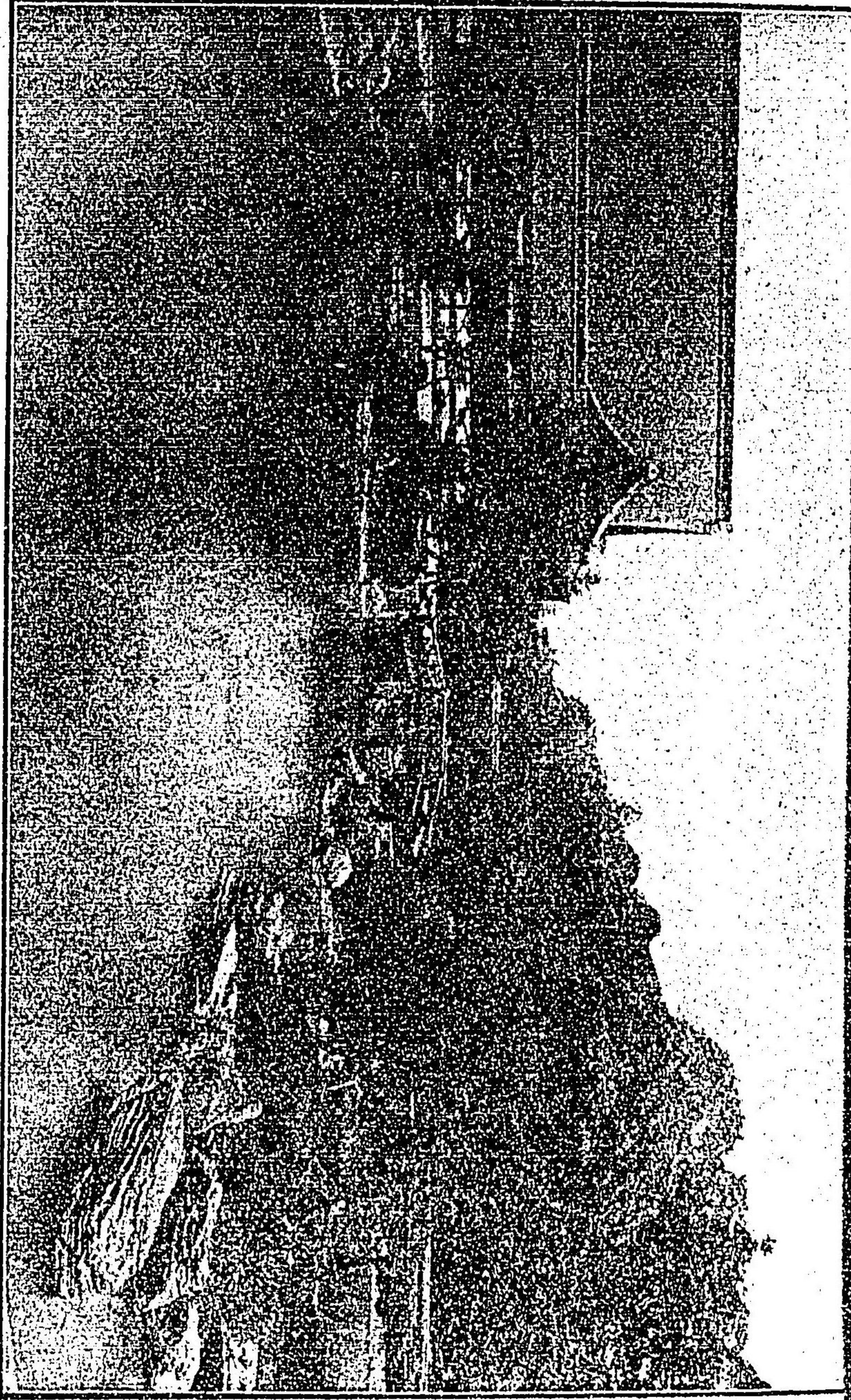
金森陸一編纂

京都名勝案内記全

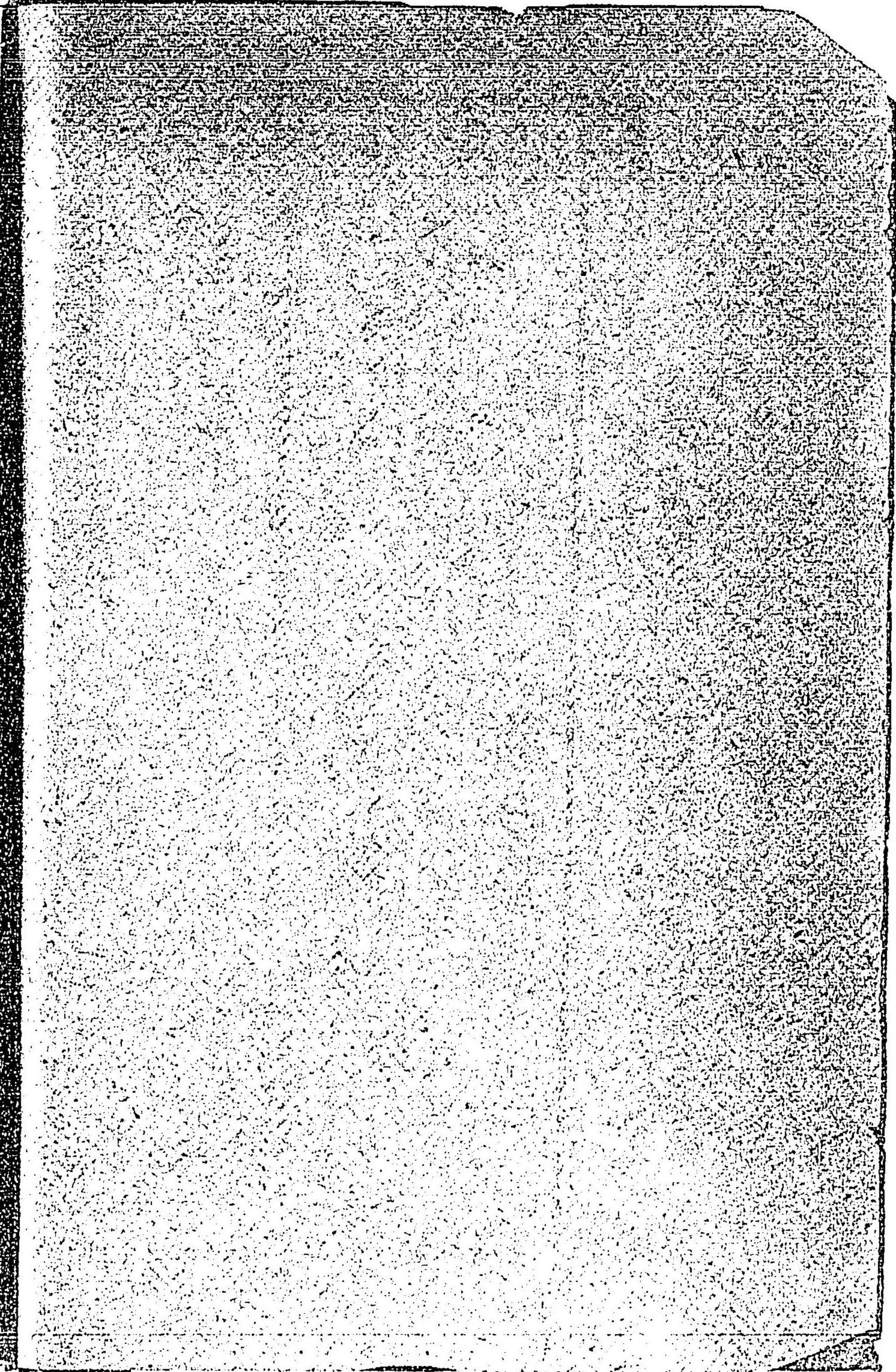
附  
聯合府縣

京都 飯田信文堂藏版

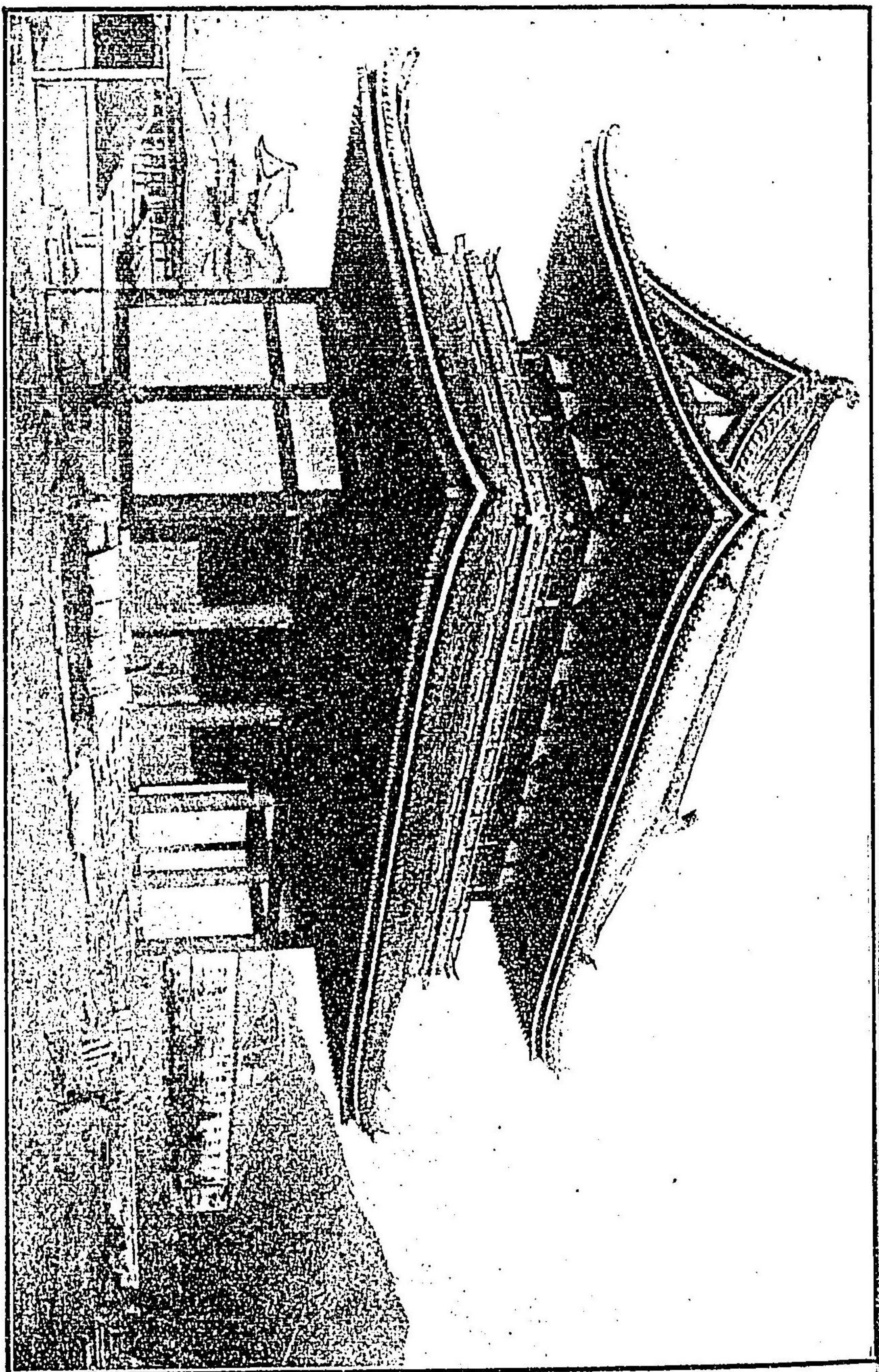




（殿 聚 樂） 所 御 都 京



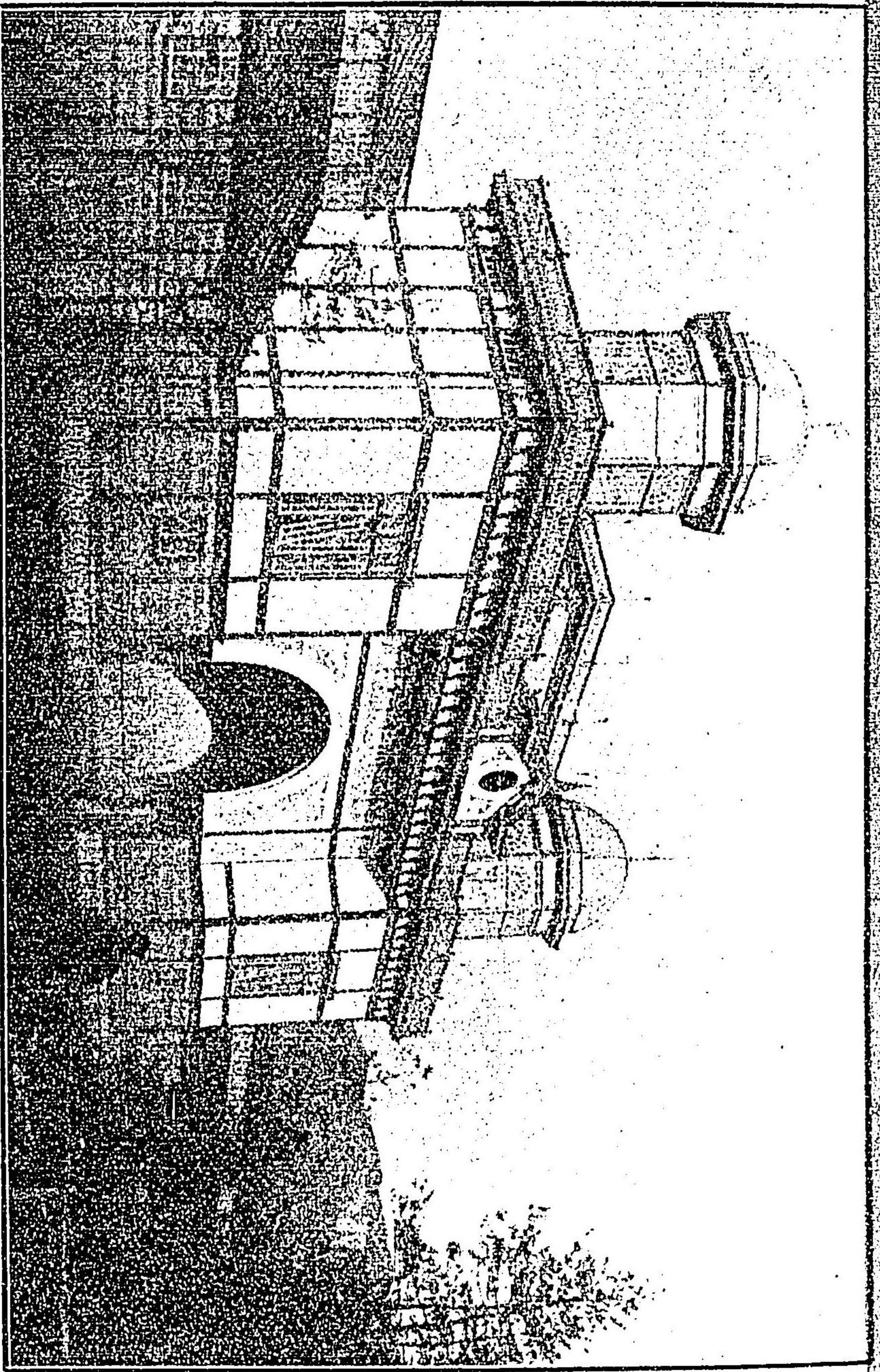




平安神宮 (大極殿)

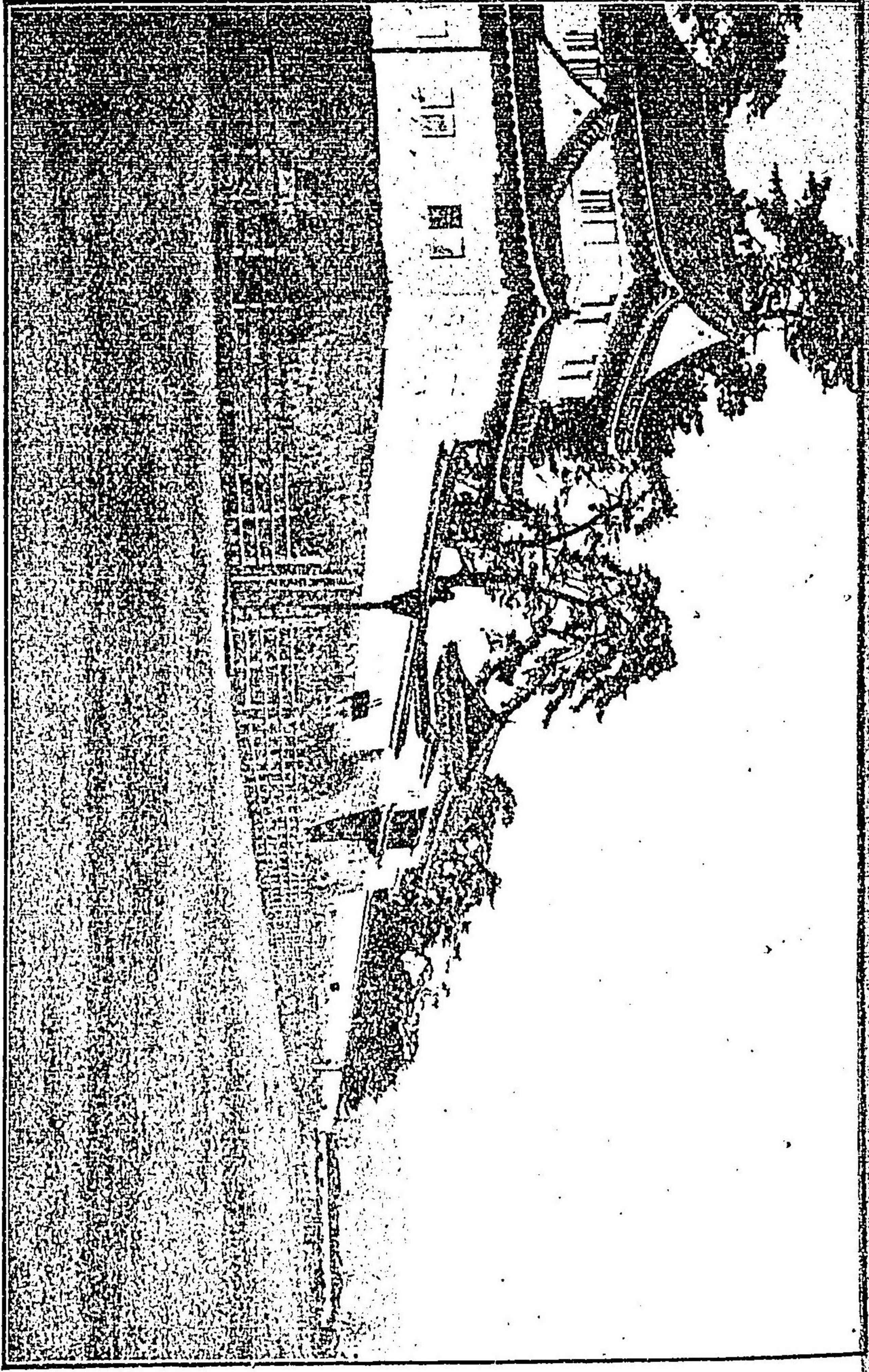
小川一真寫真彫銅版及印刷





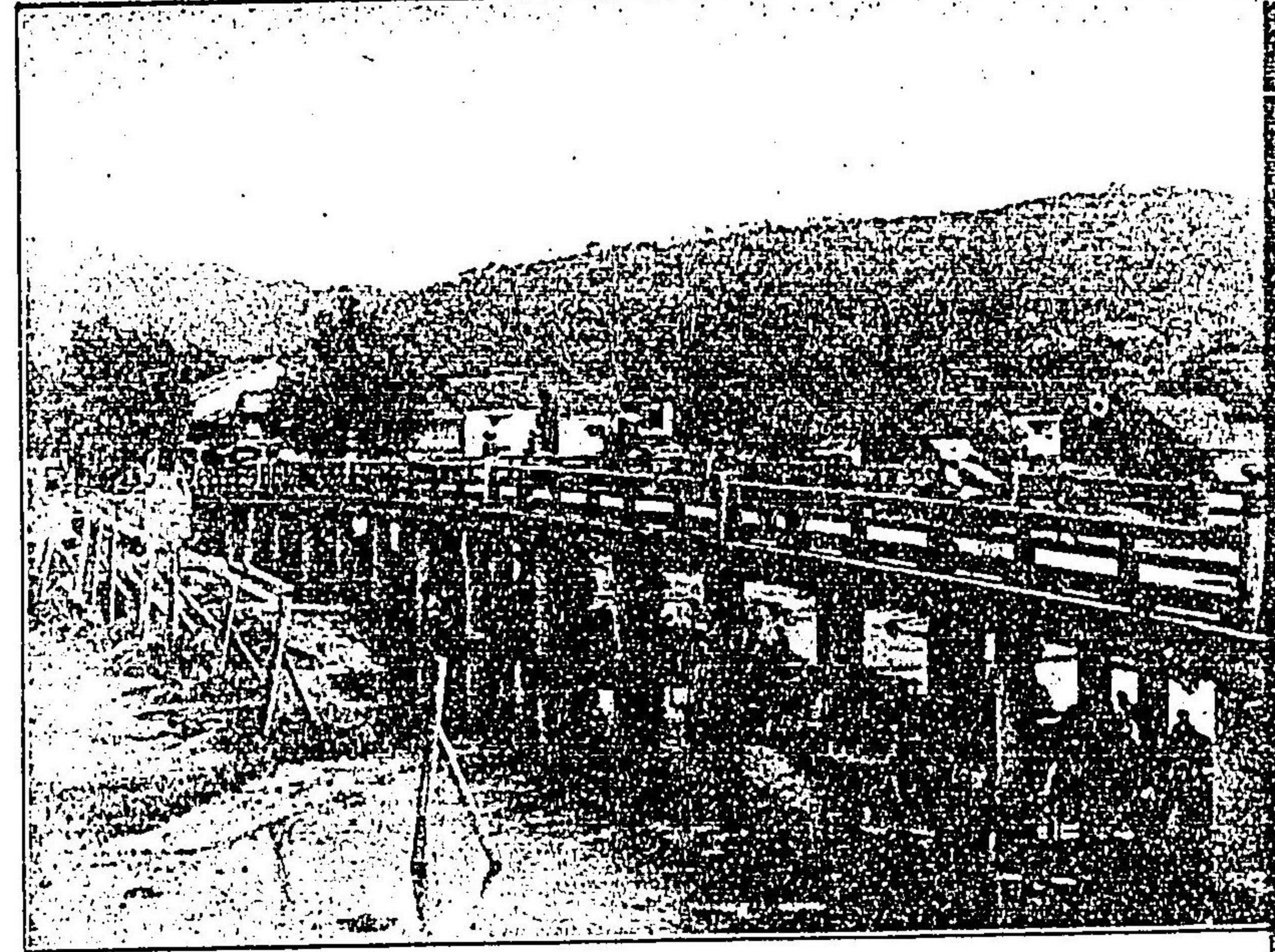
第四回 國內勸業博覽會



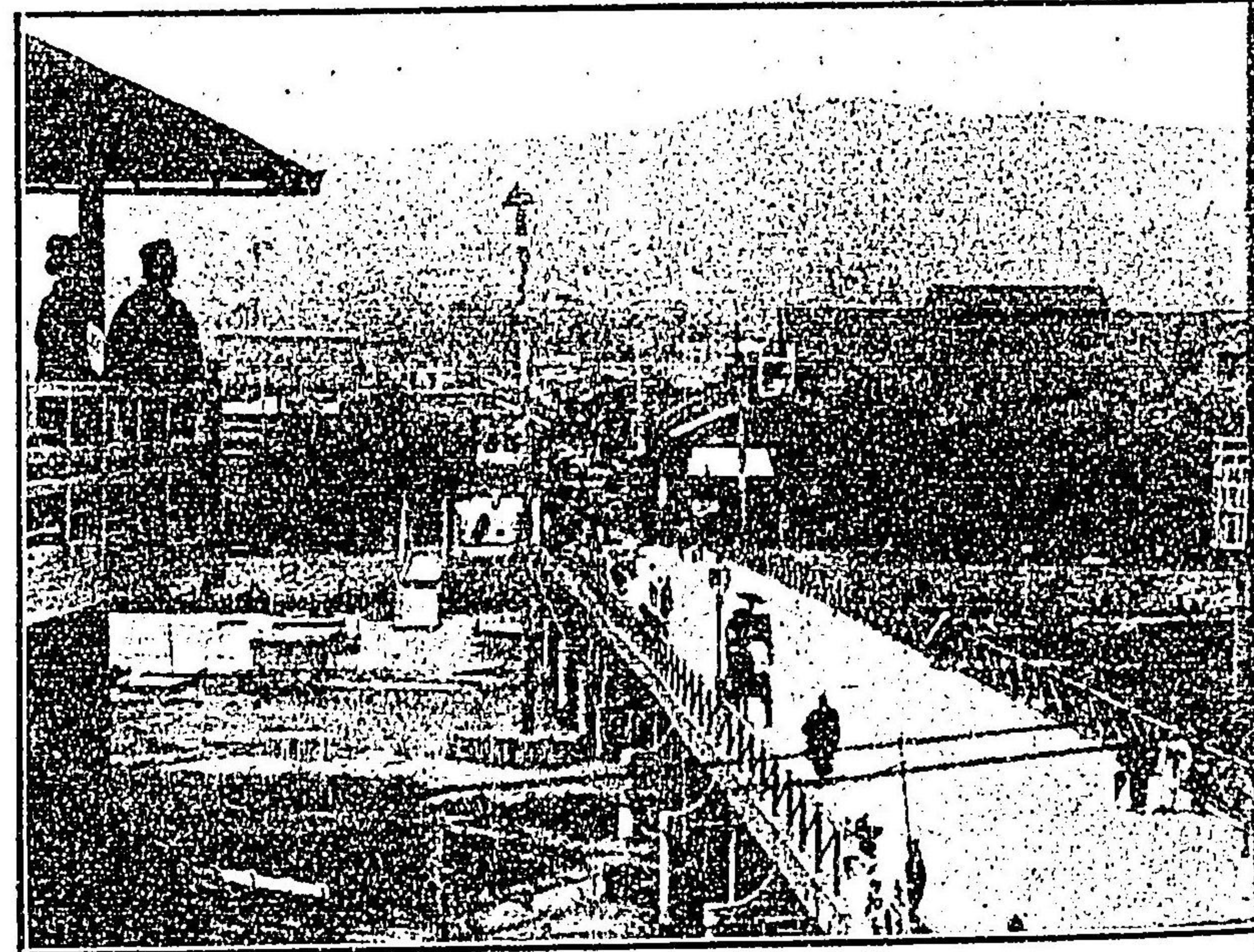


宮 離 條 二



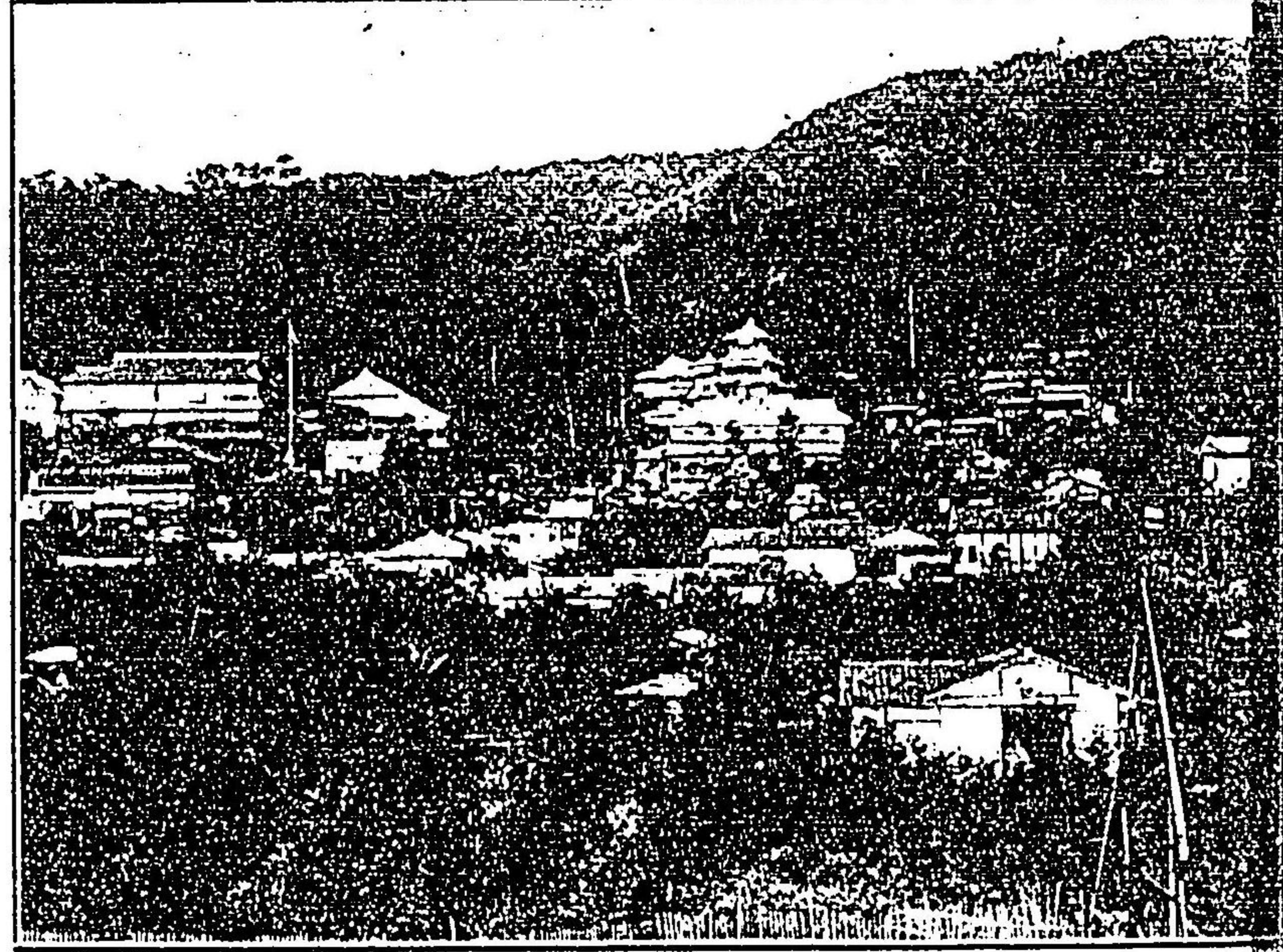


橋大條三



橋大條四





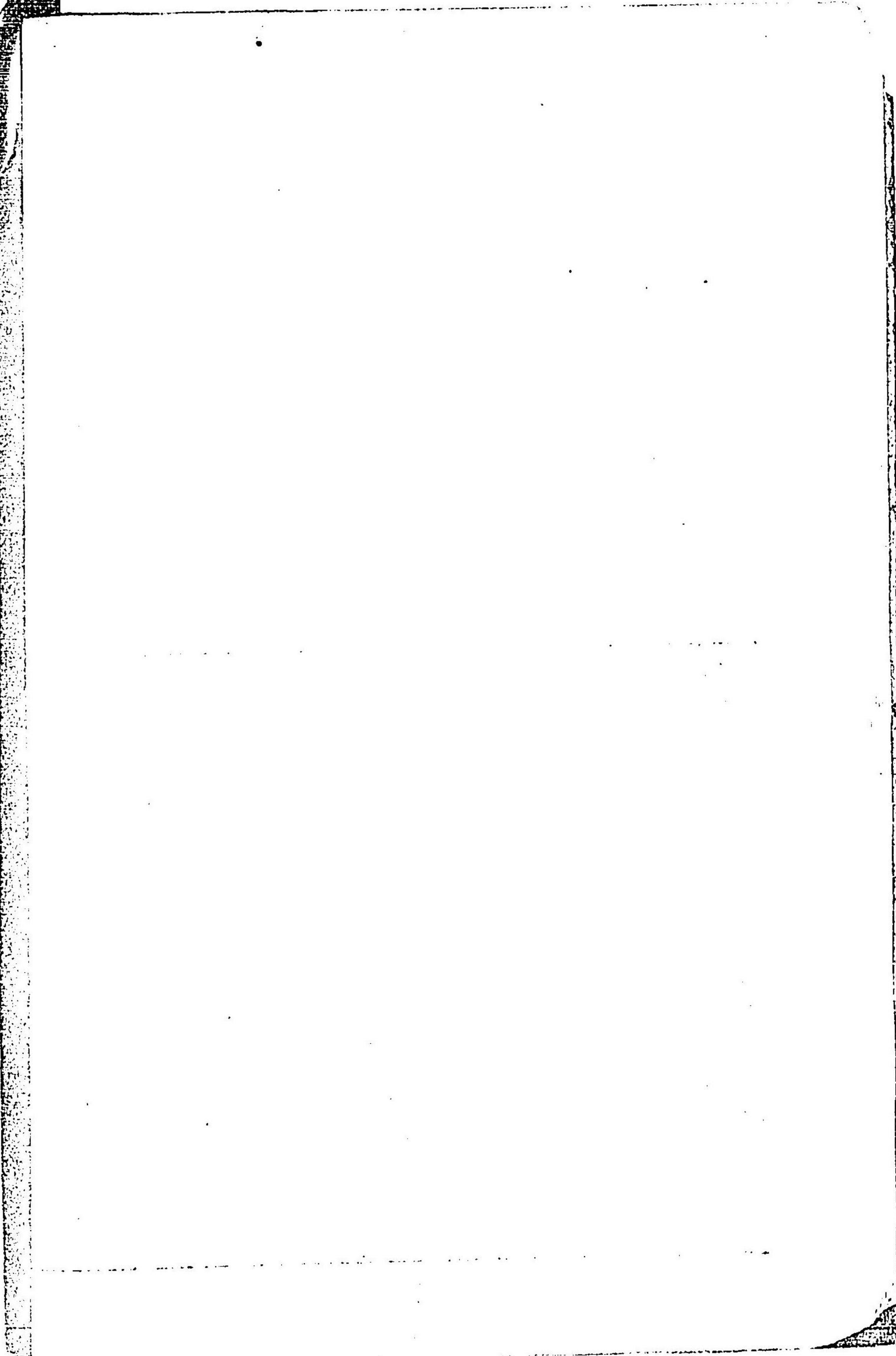
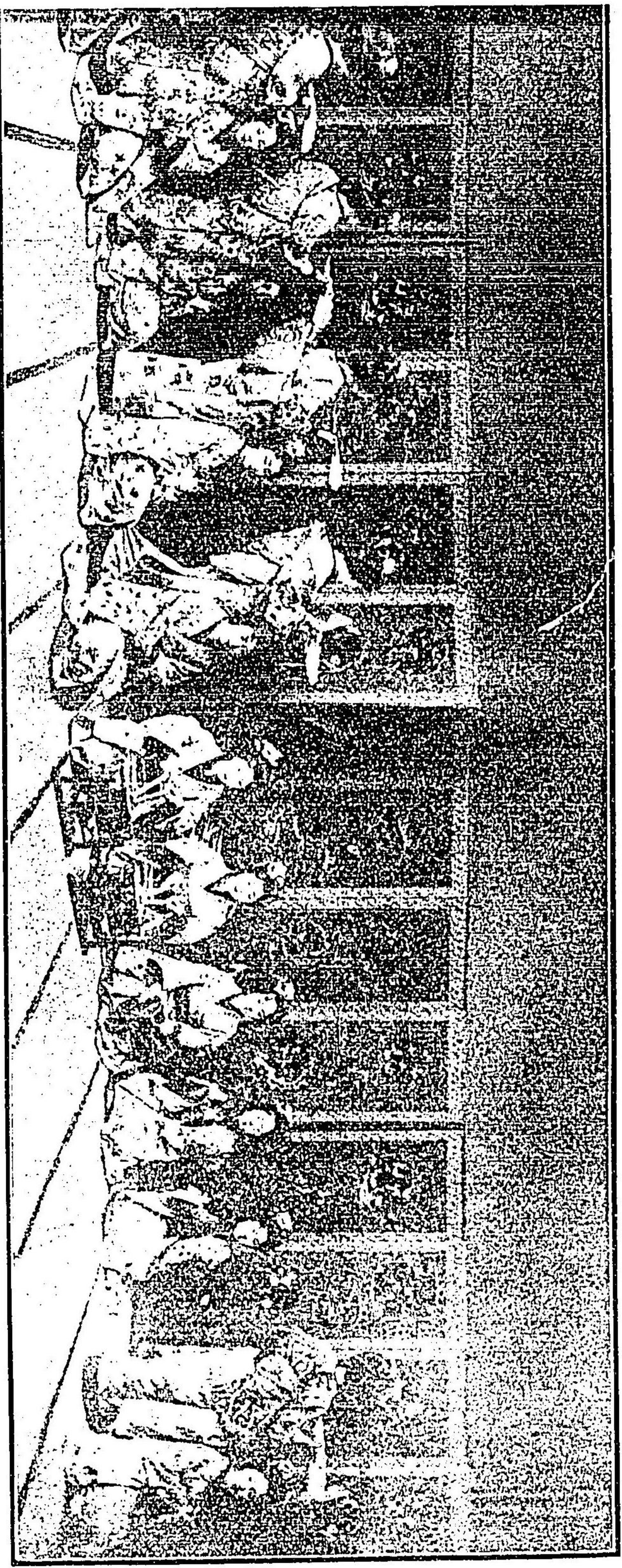
圓山全景



八坂神社



踊

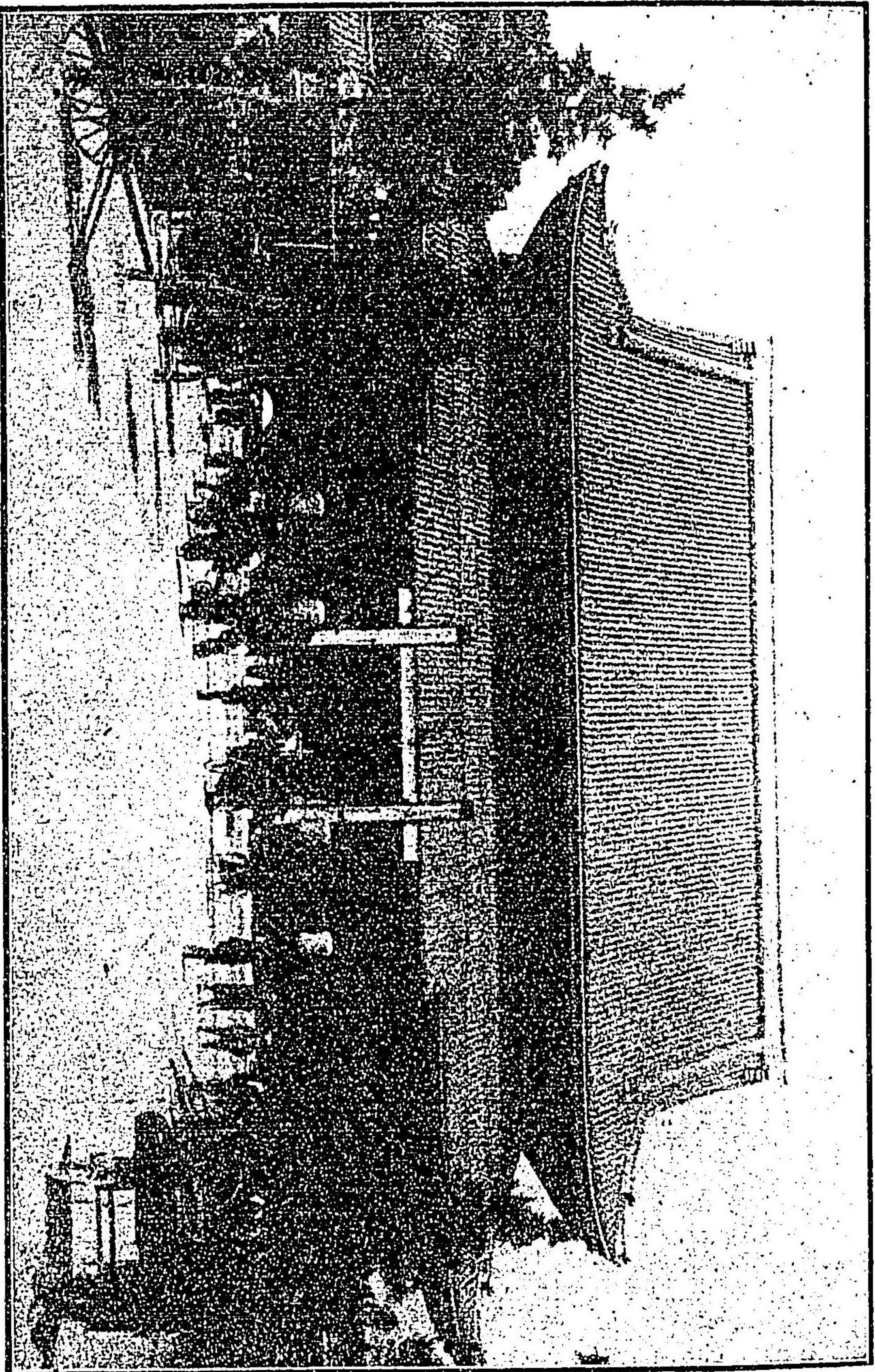




踊

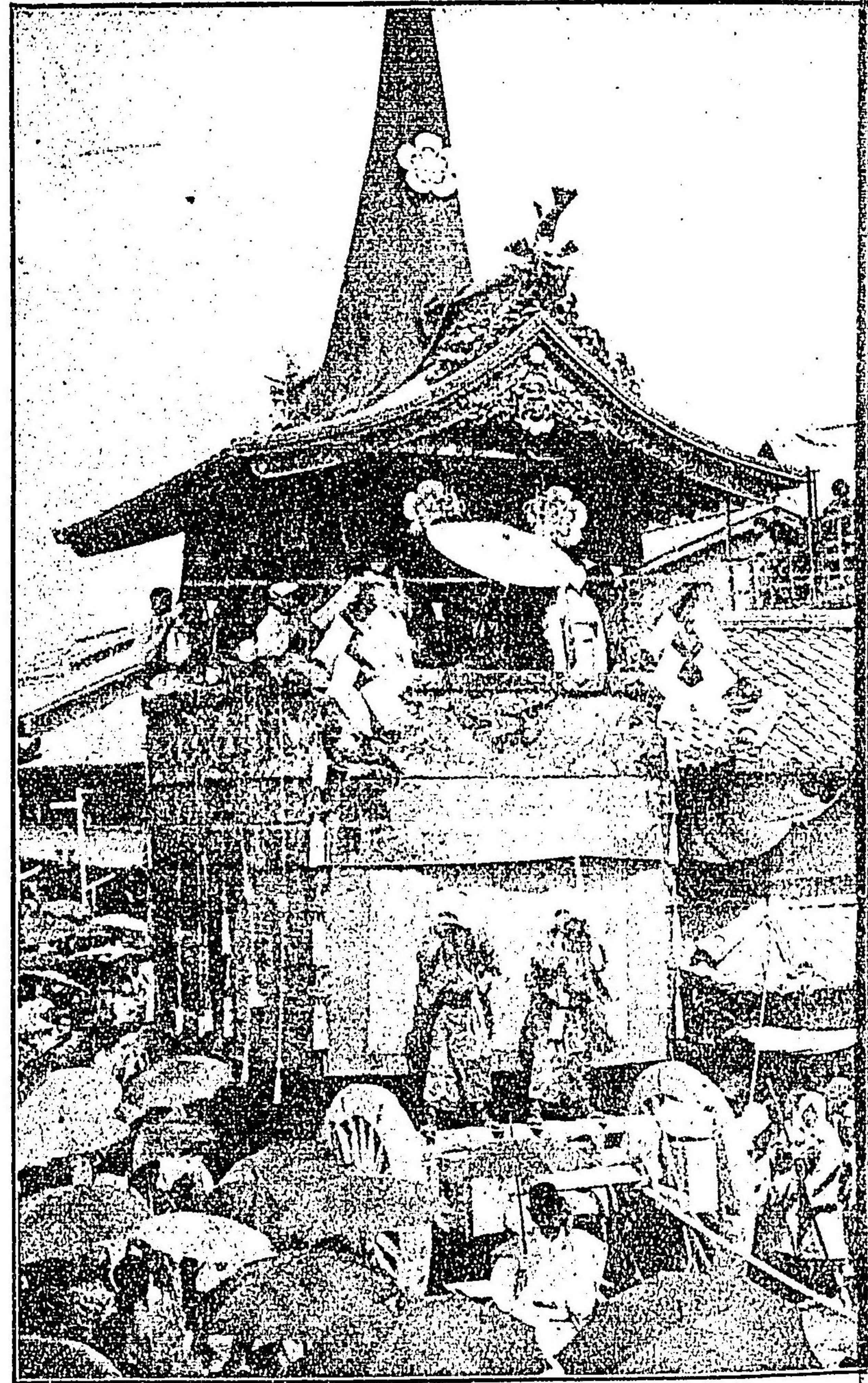






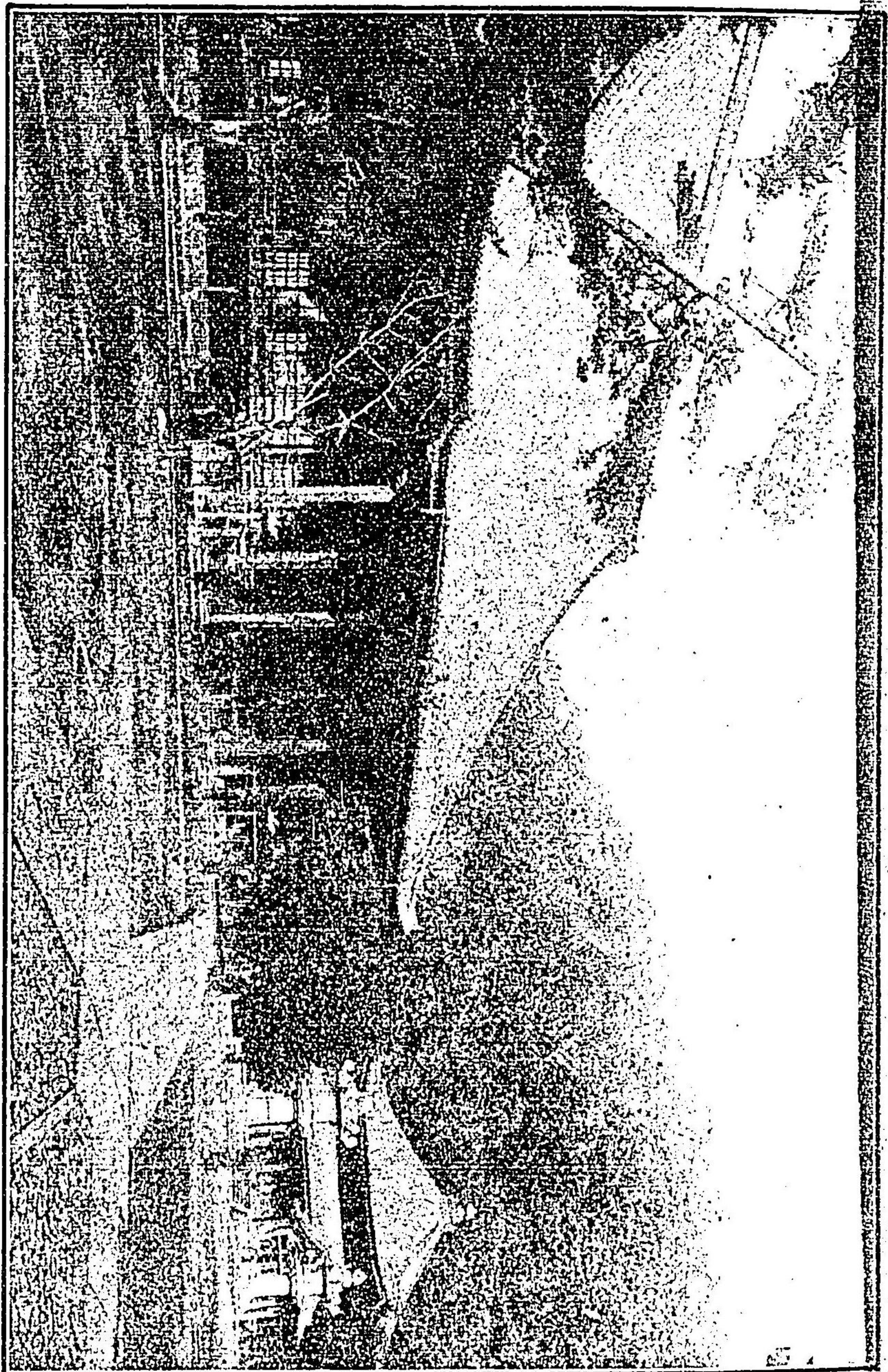
大谷本願寺





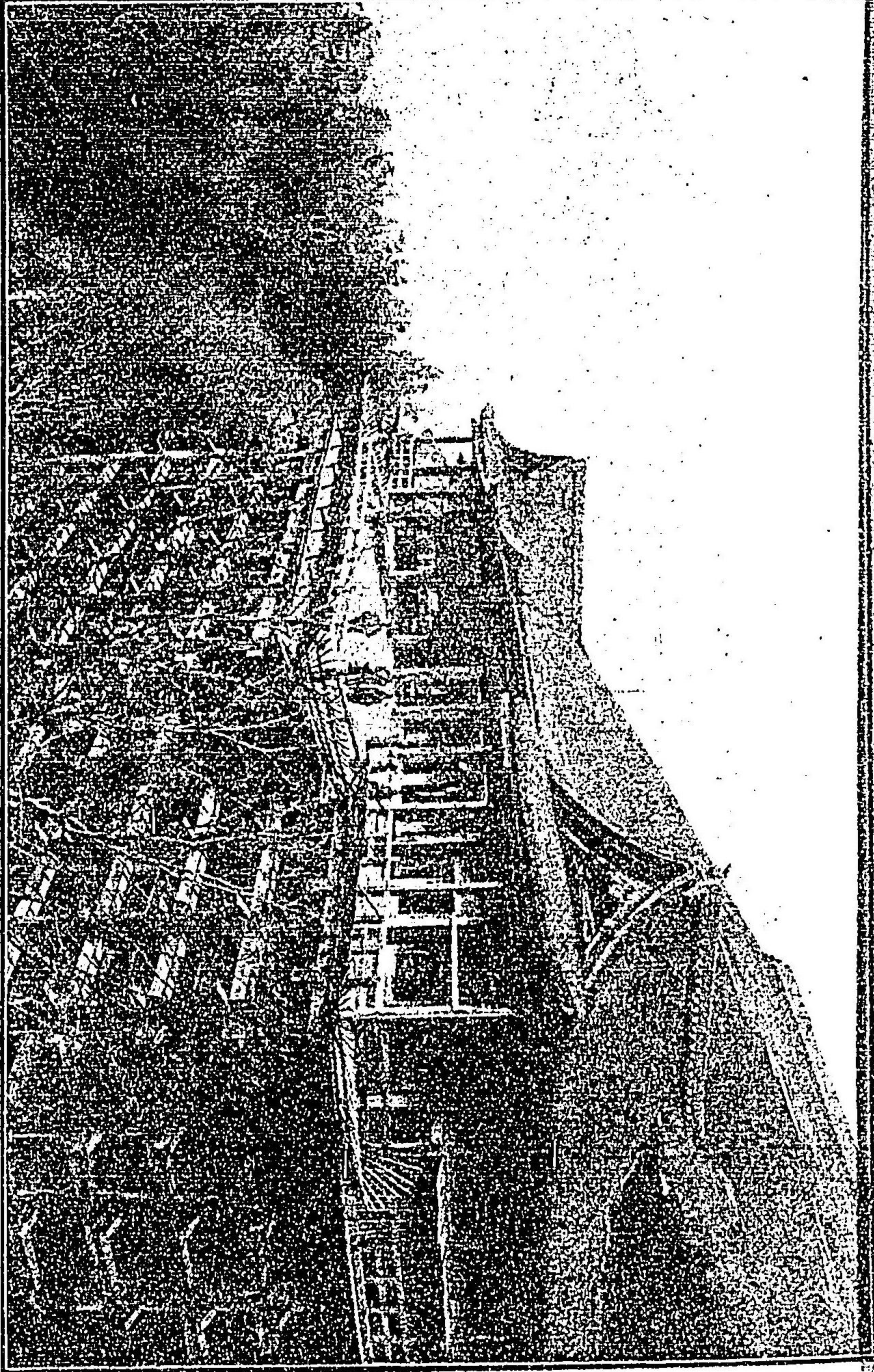
禮祭園紙





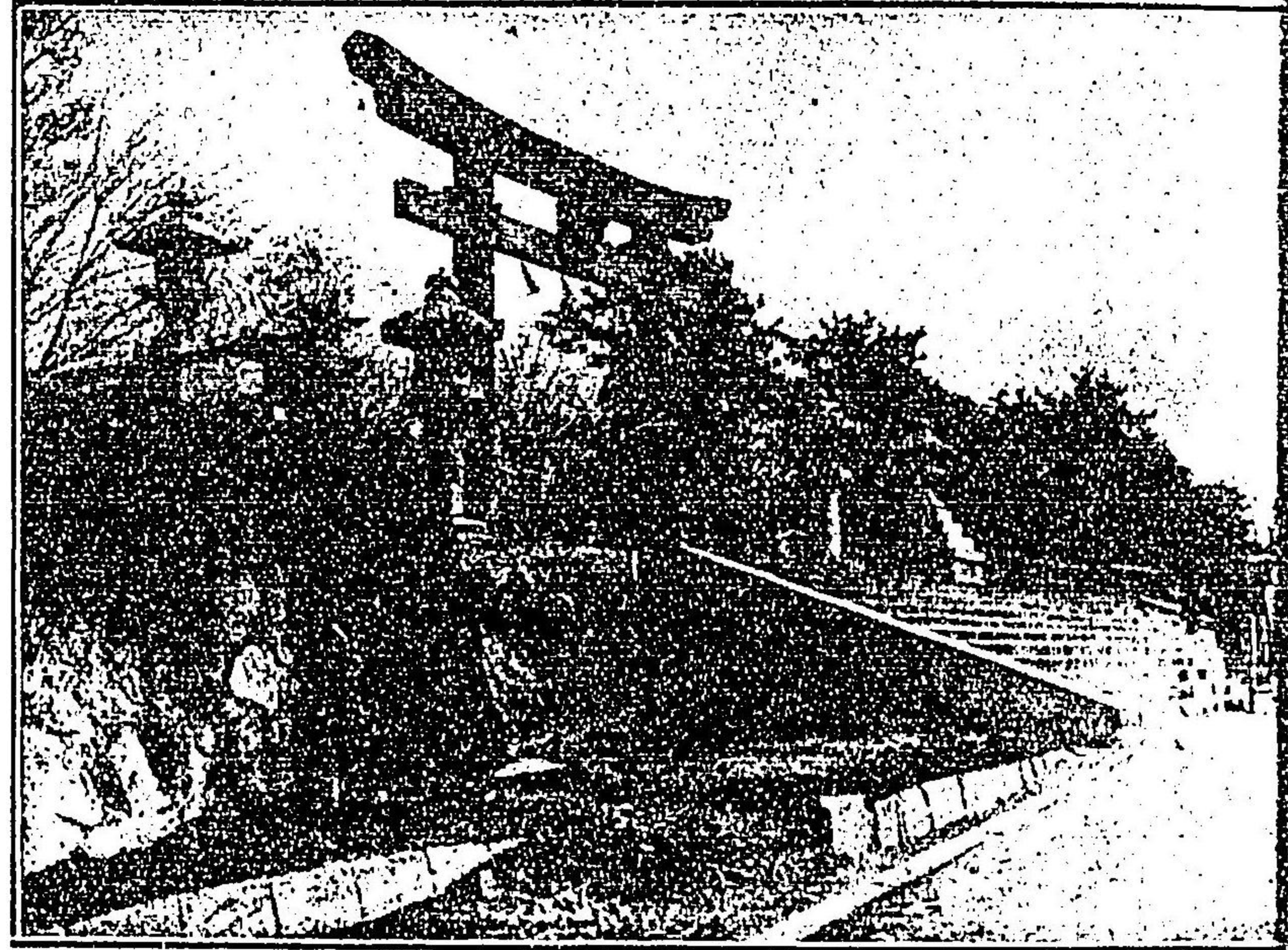
知恩院



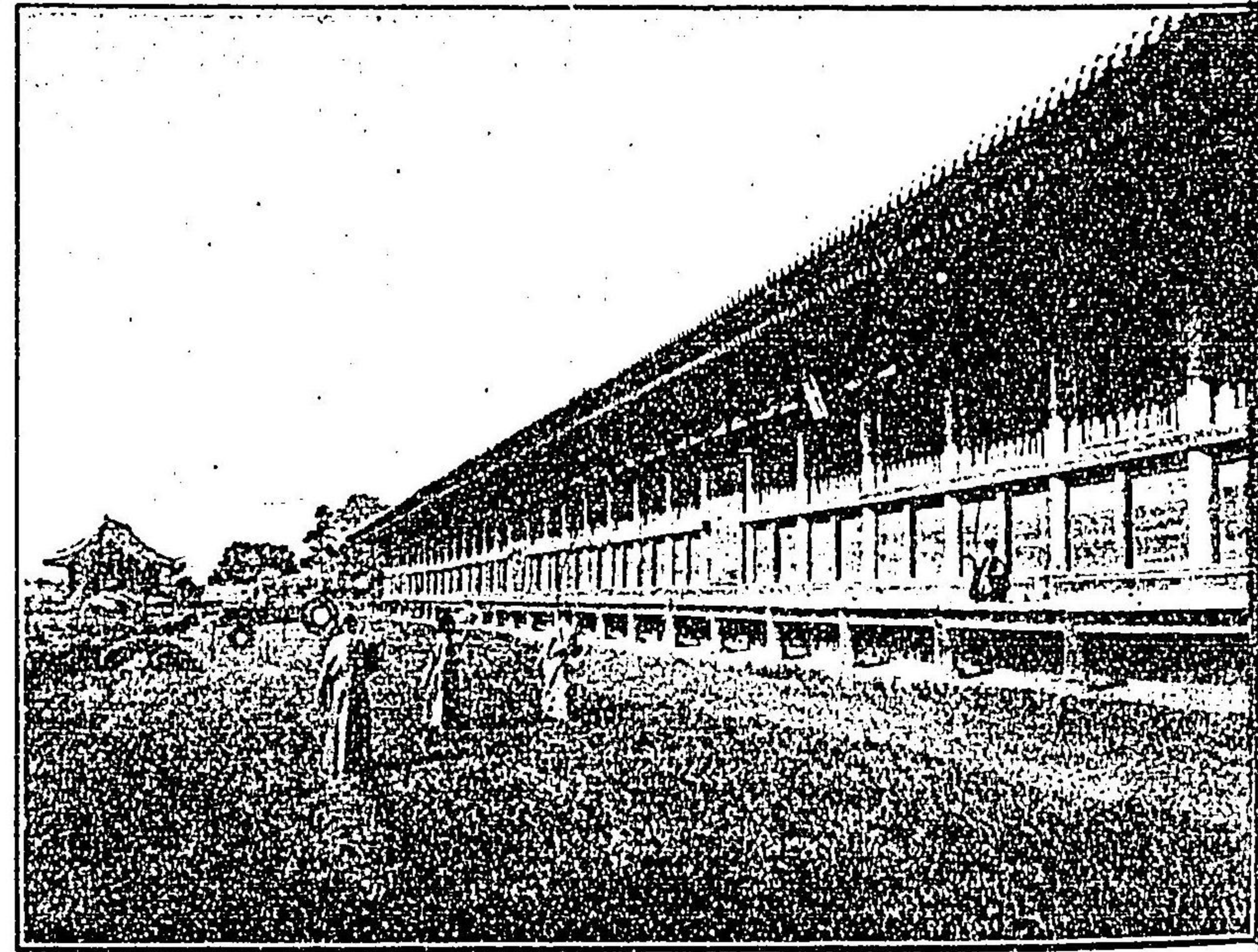


水 清



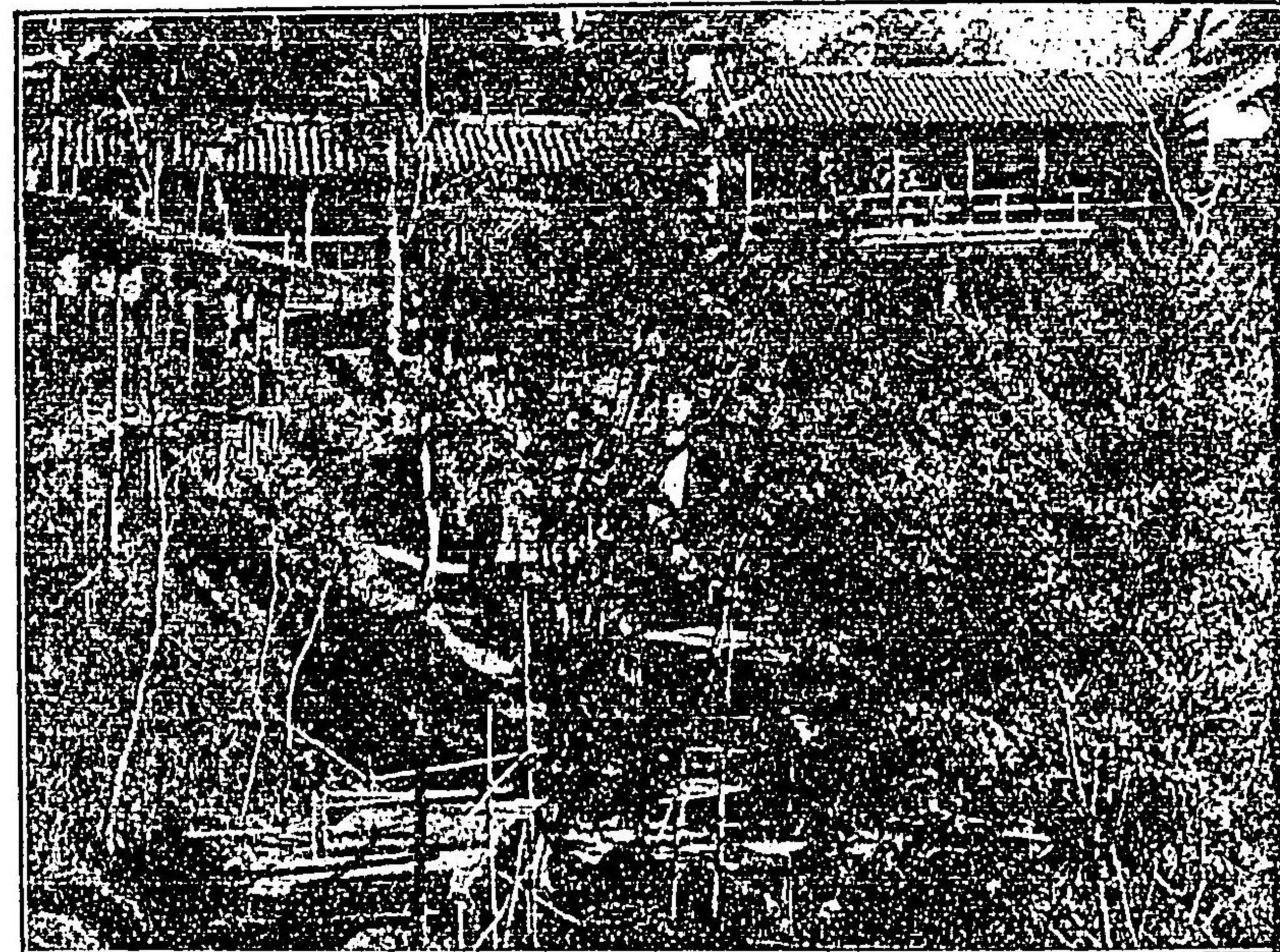


豊國神社

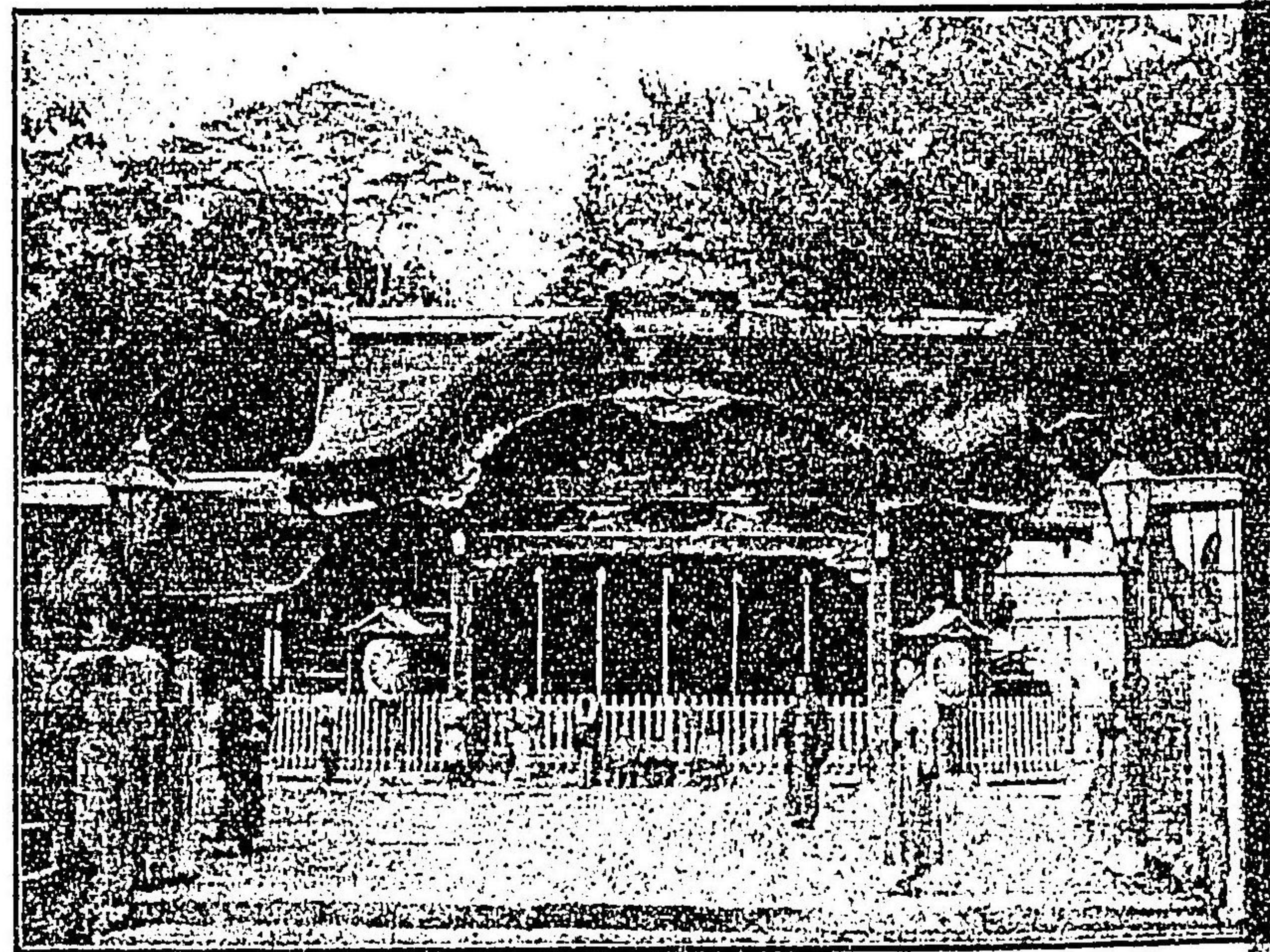


三十三間堂



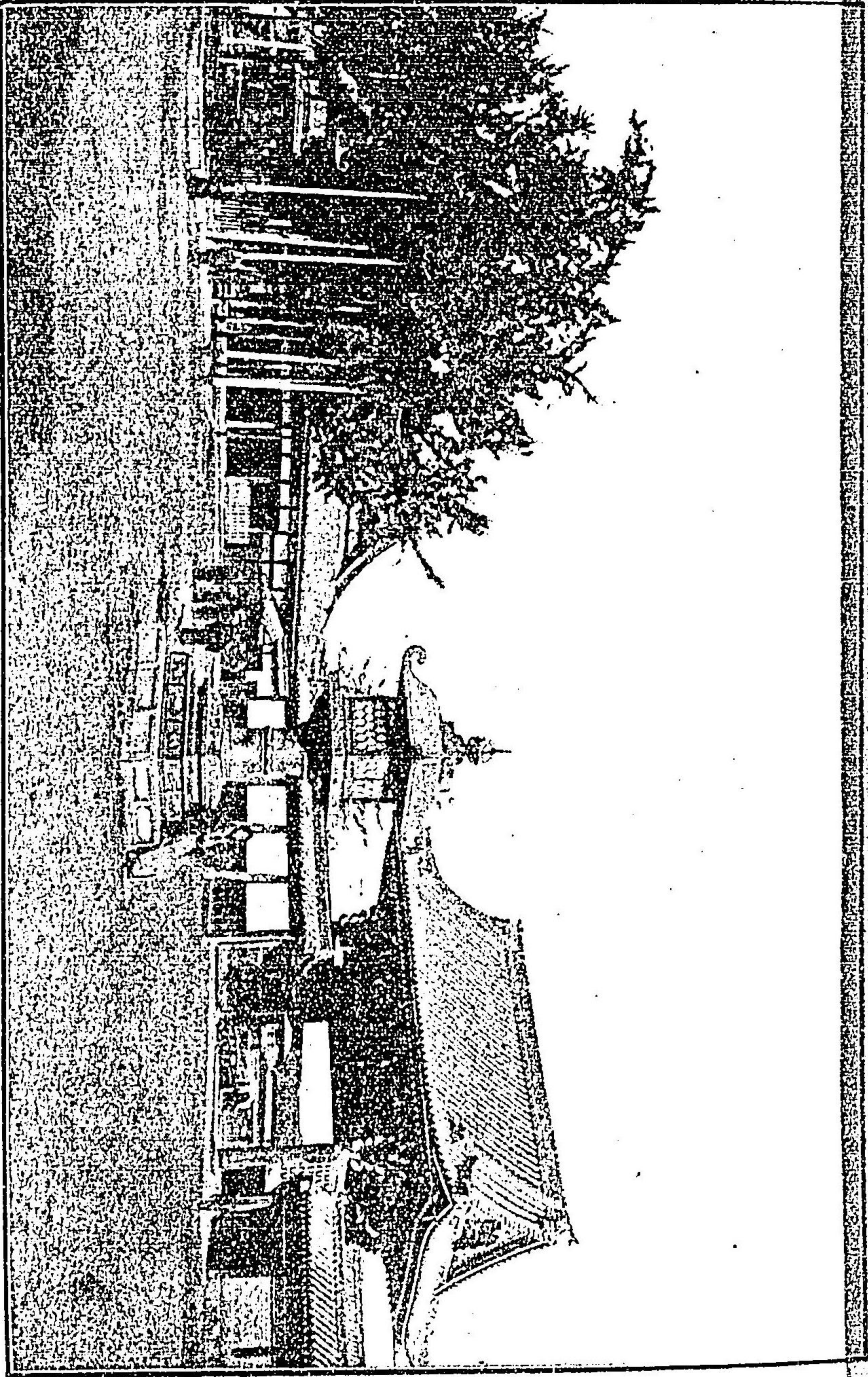


橋天通寺福東



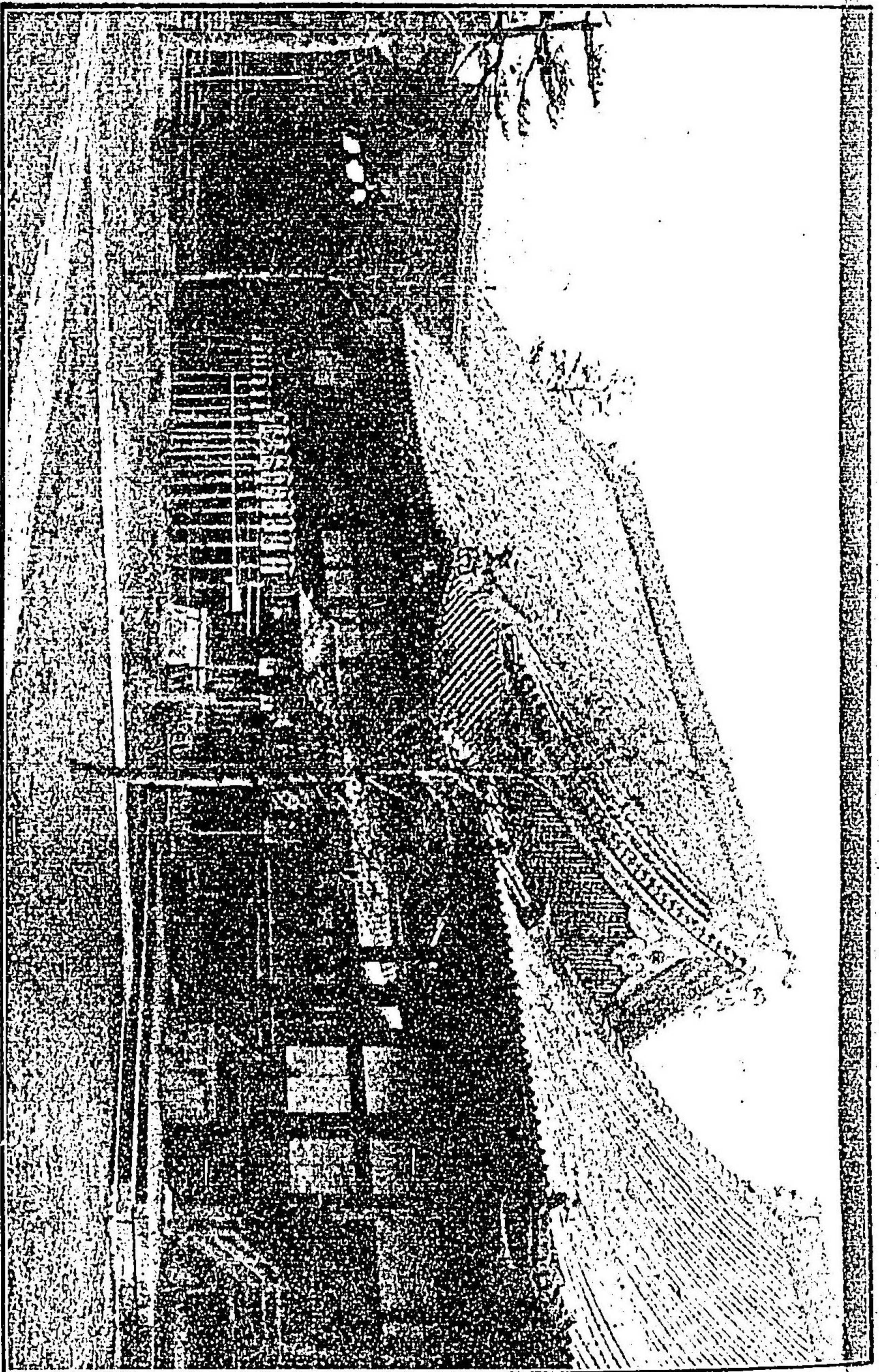
社神荷稻





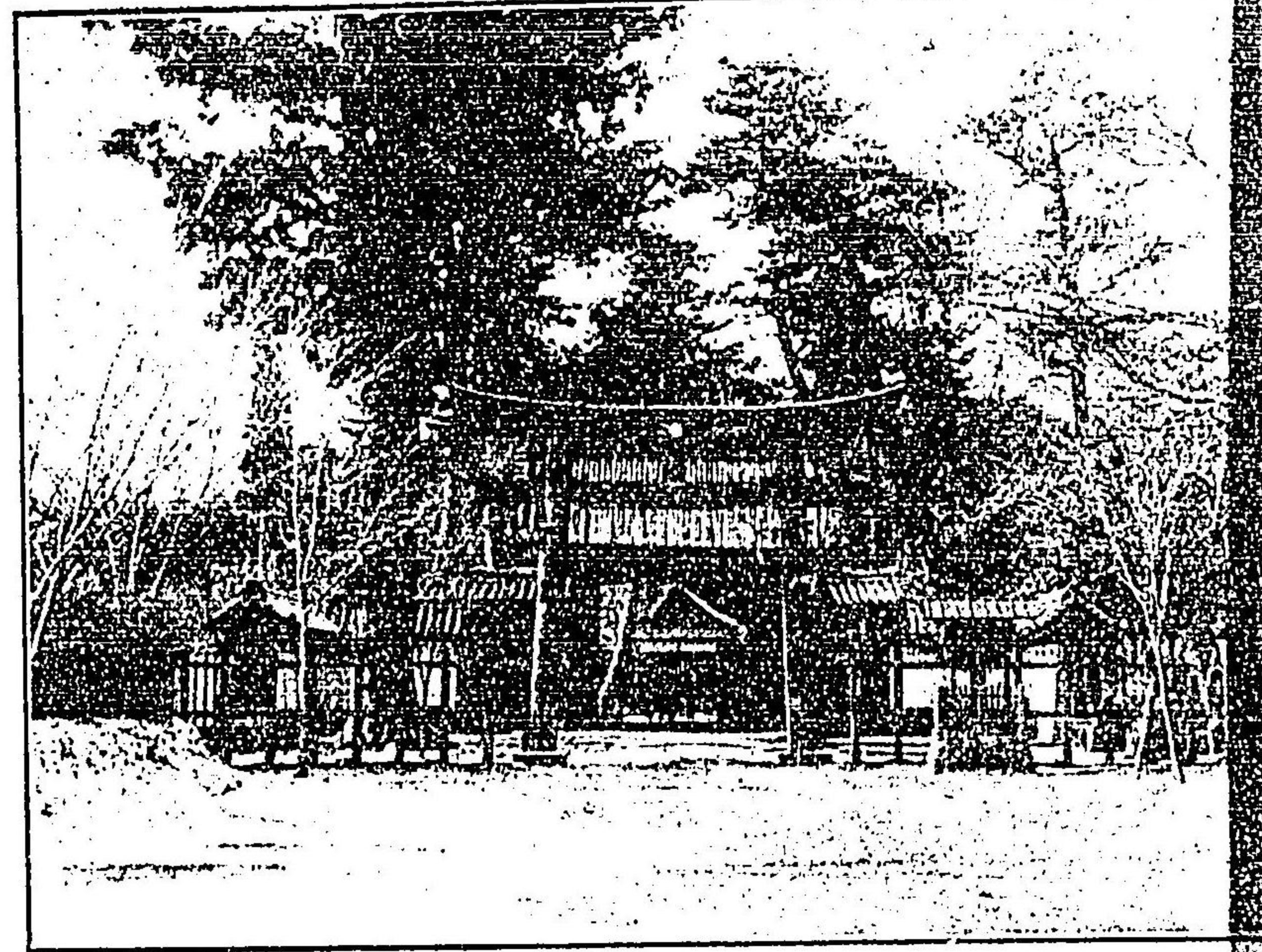
寺願本派寺願本



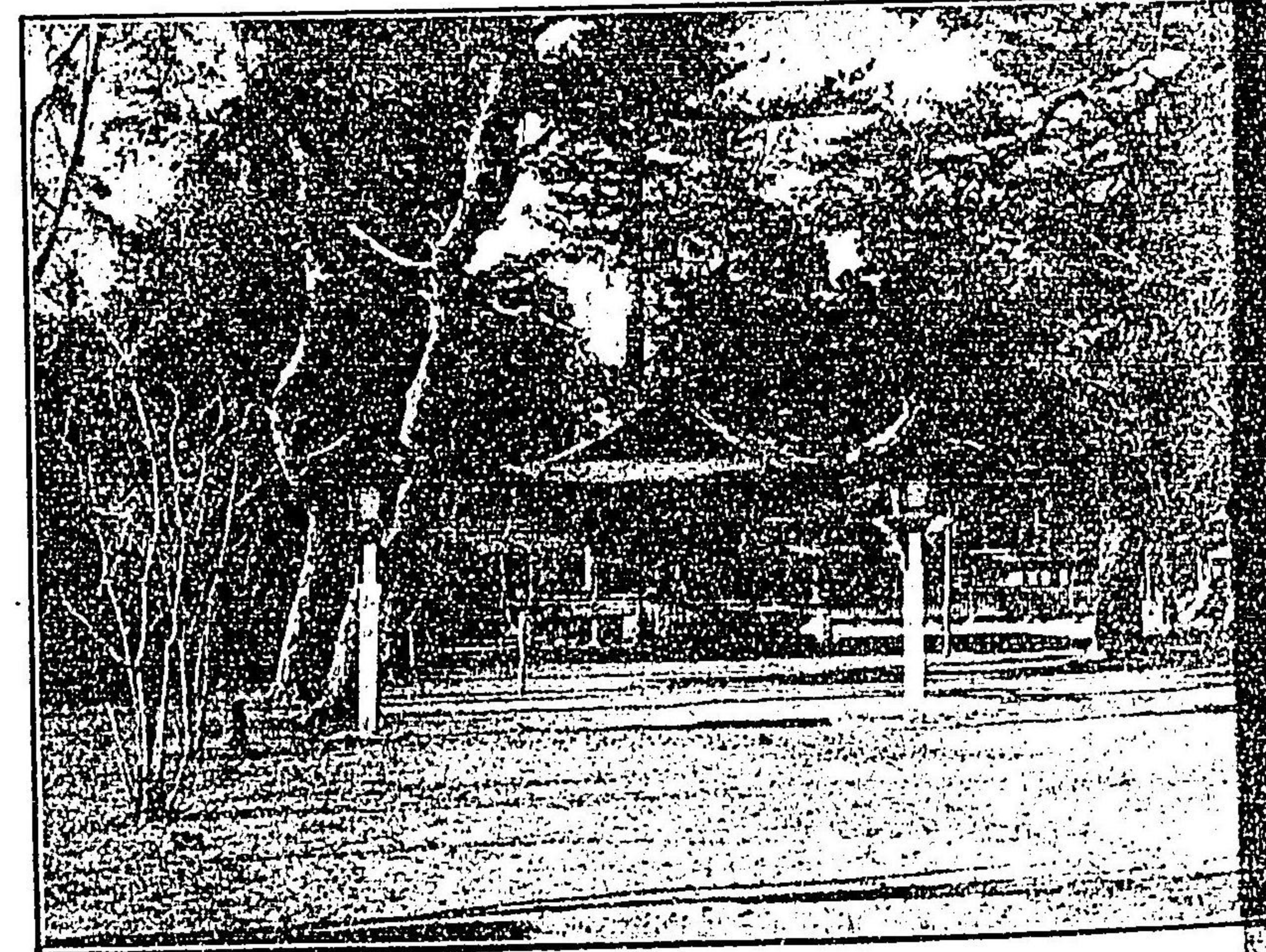


寺 園 本





神天野北

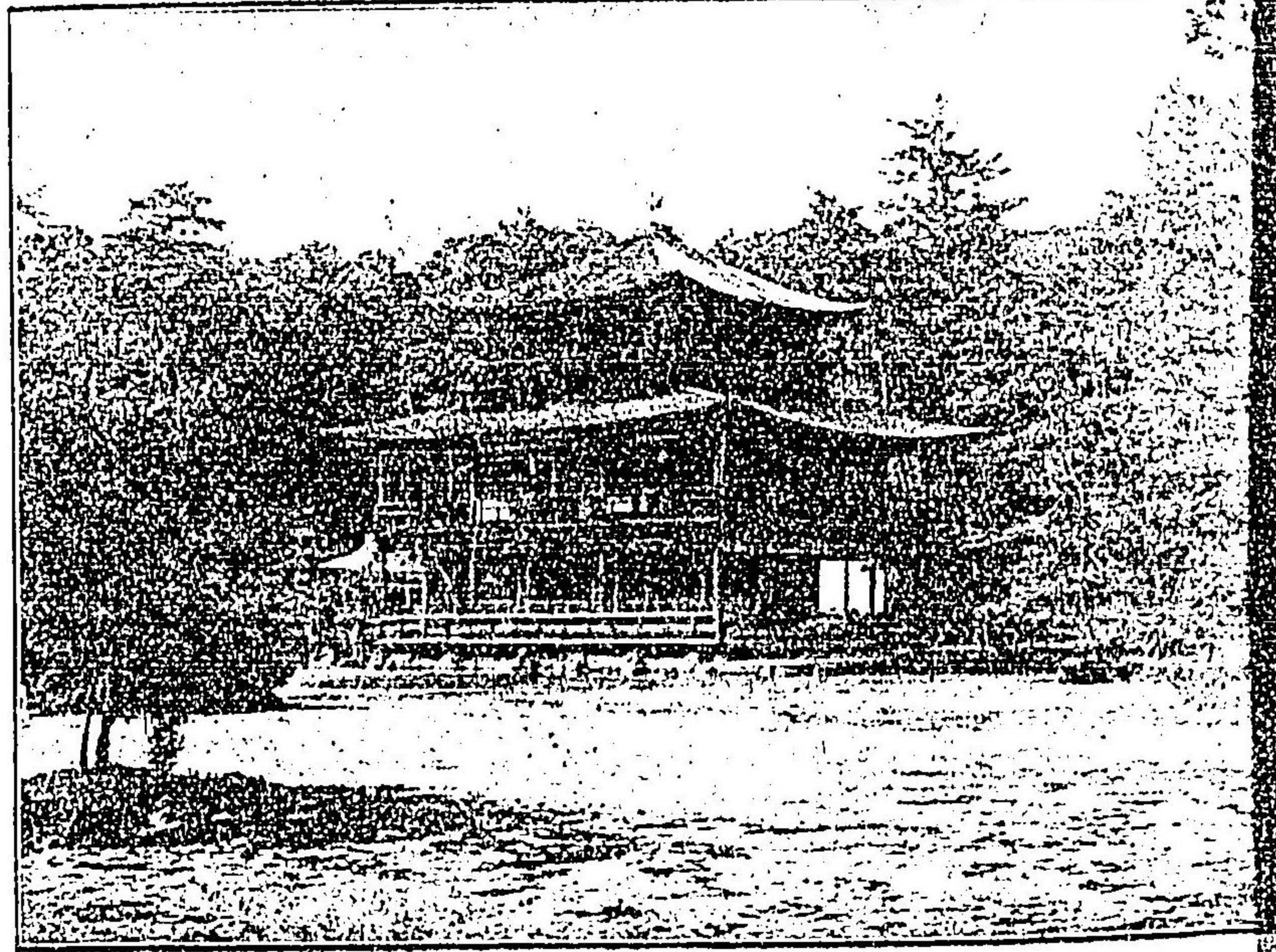


社神野平





大德寺



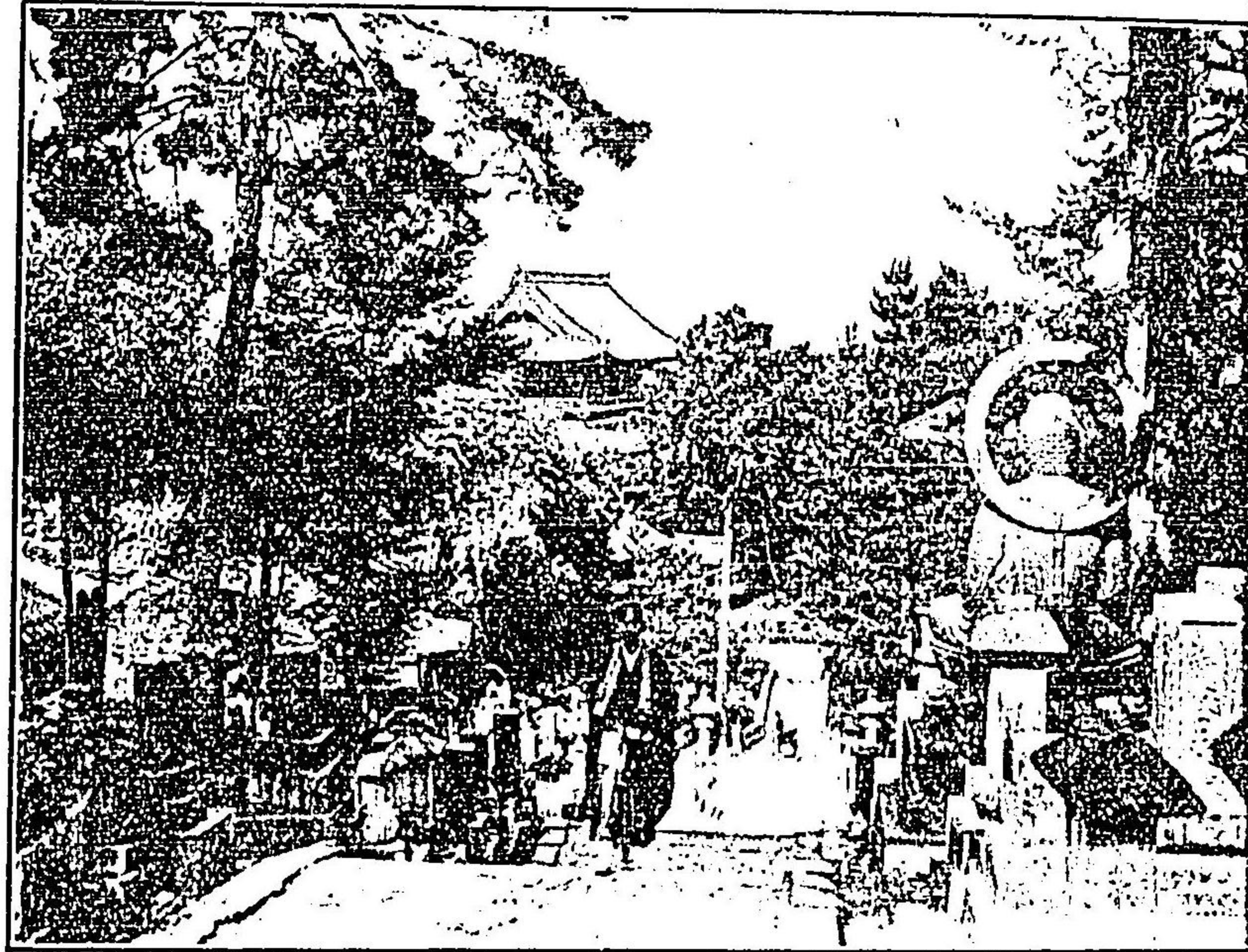
金闕寺



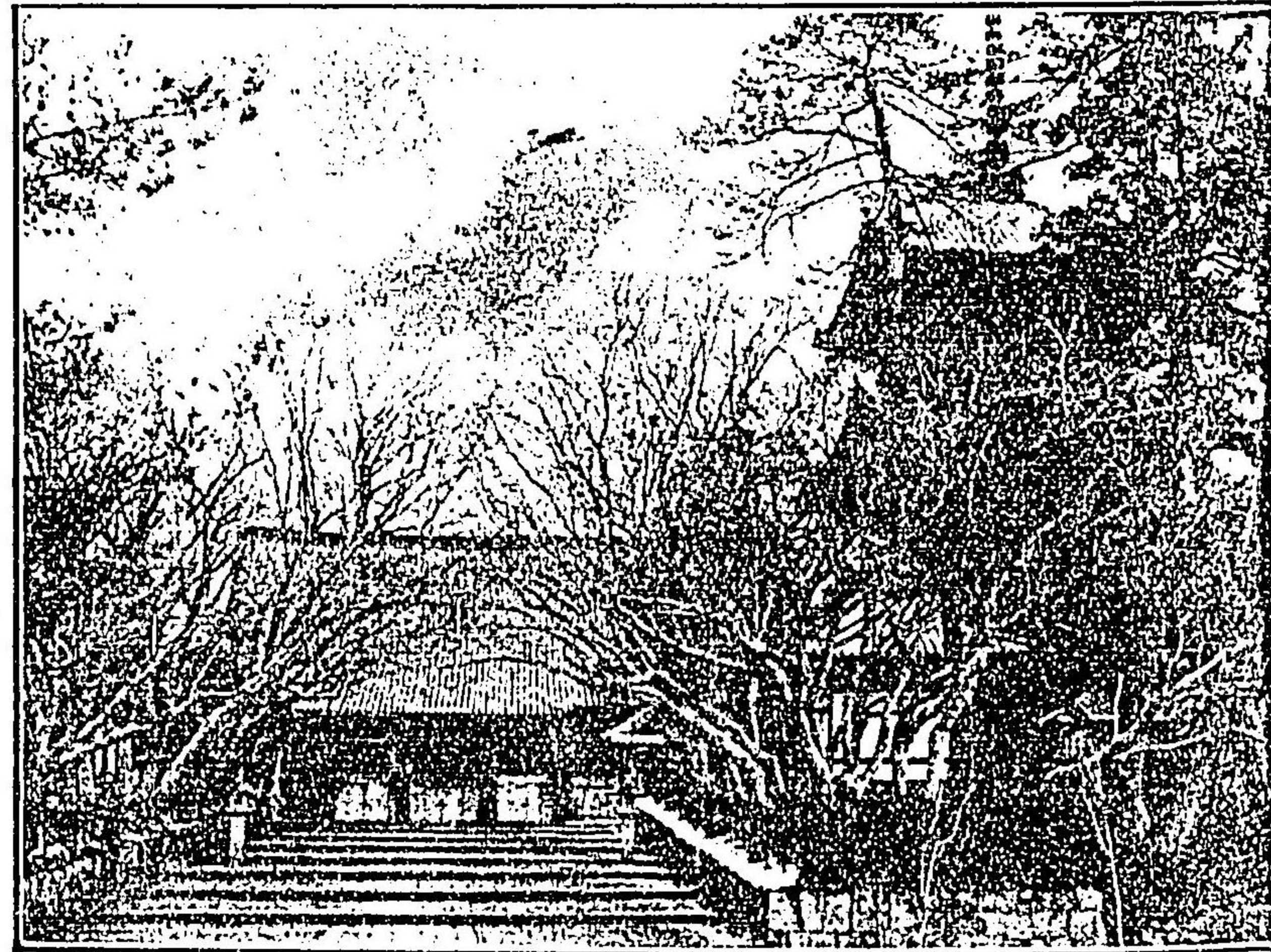


寺心妙





寺明光谷黒

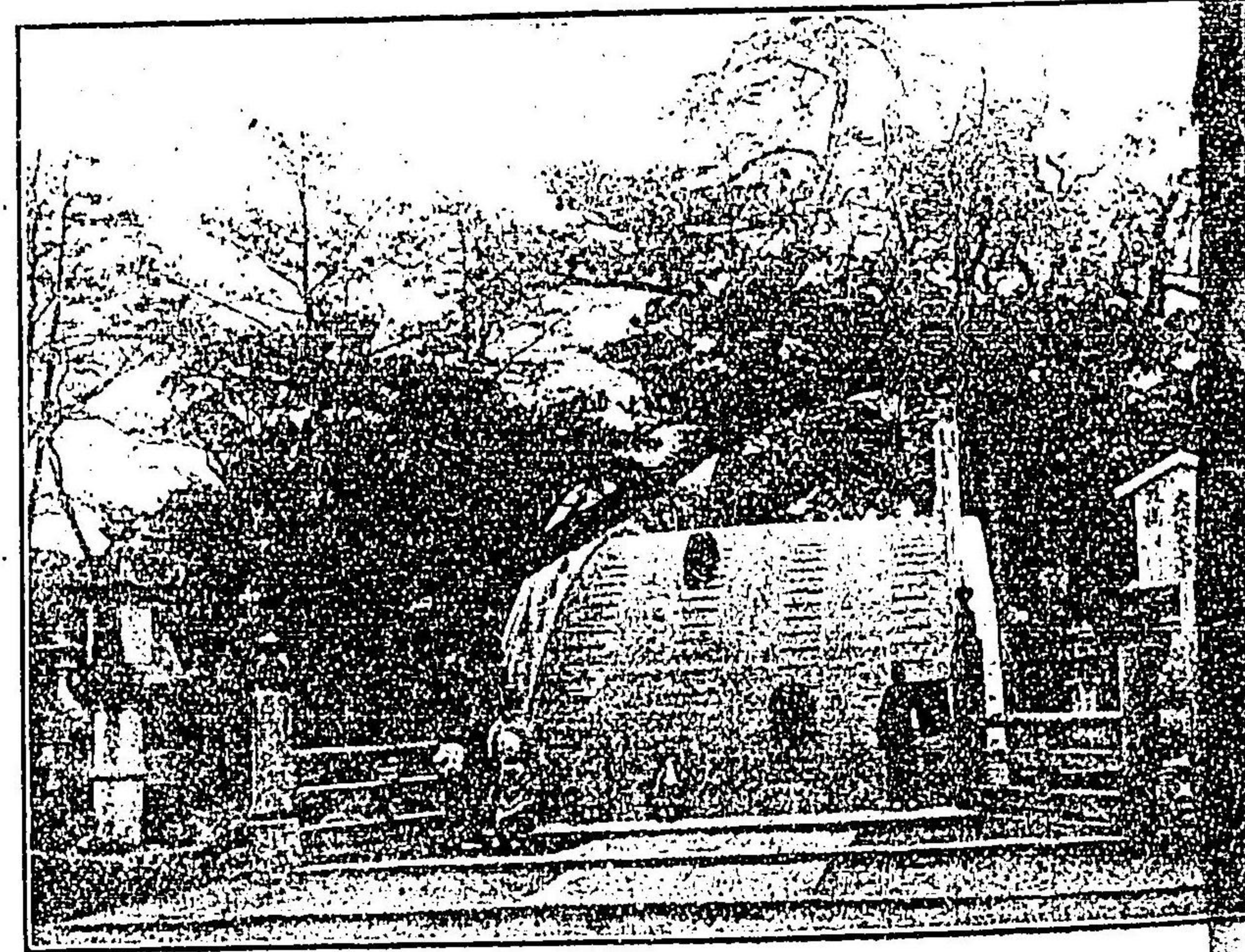


堂如真



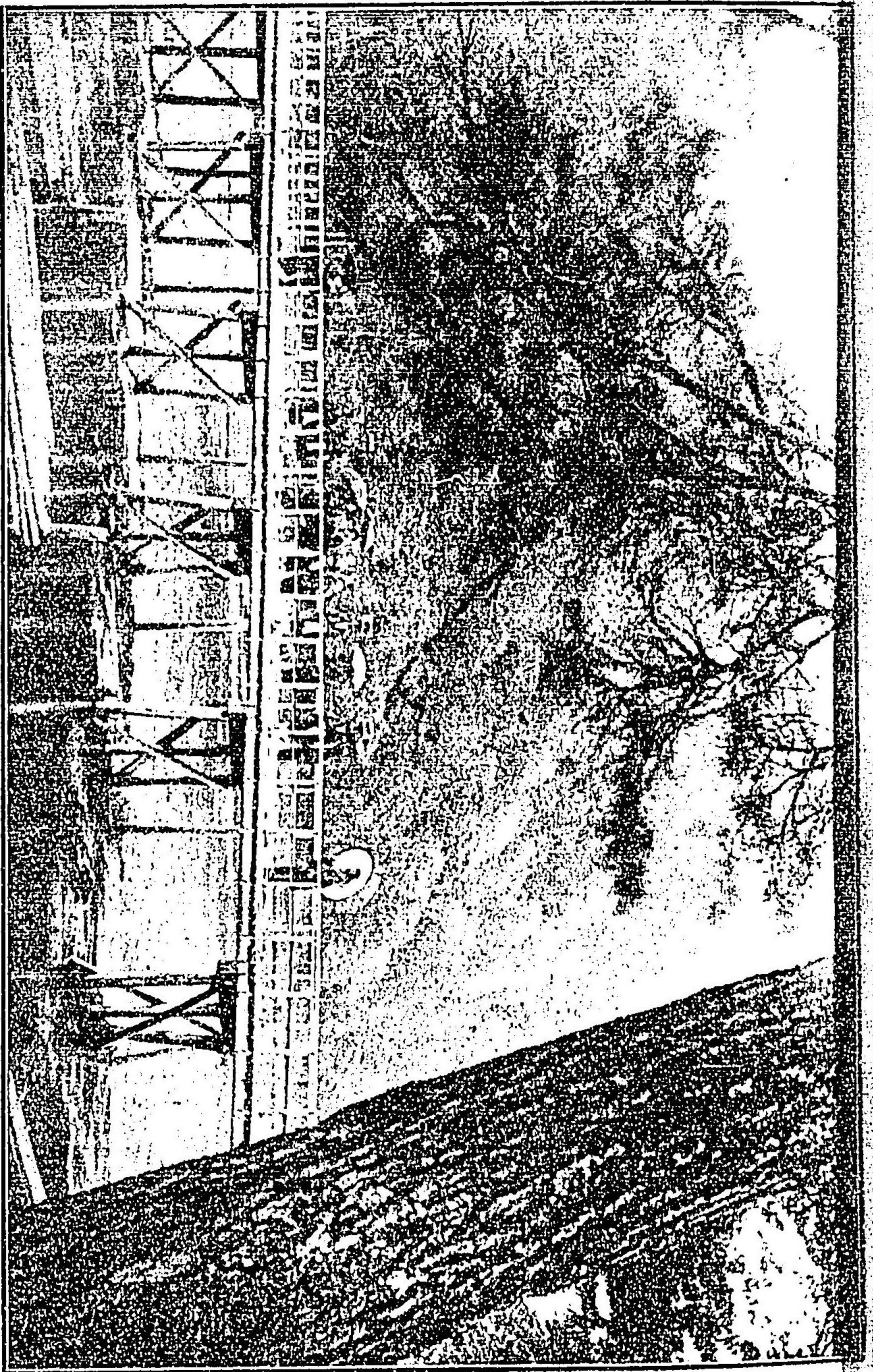


大坂天王寺



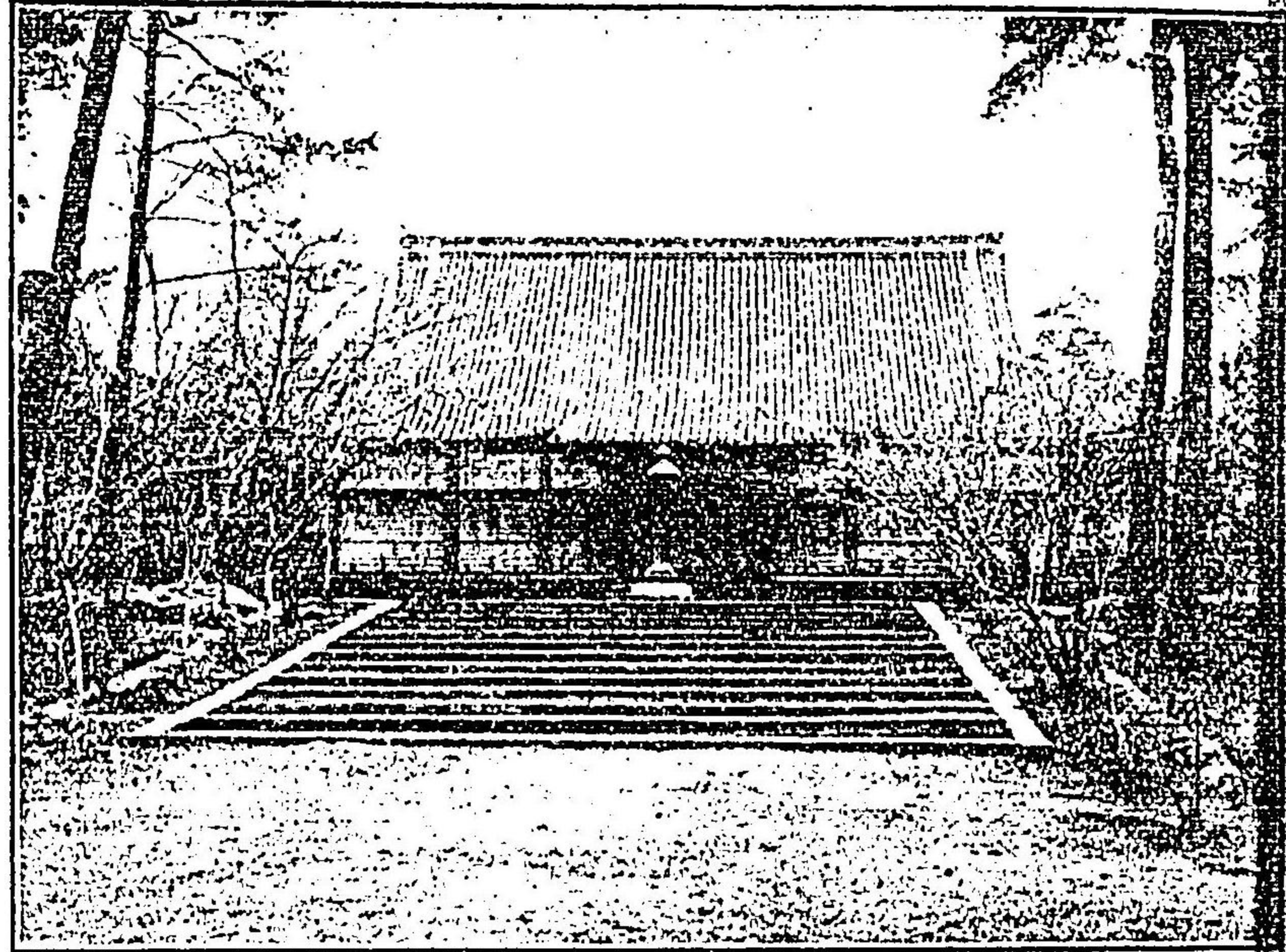
住吉神社



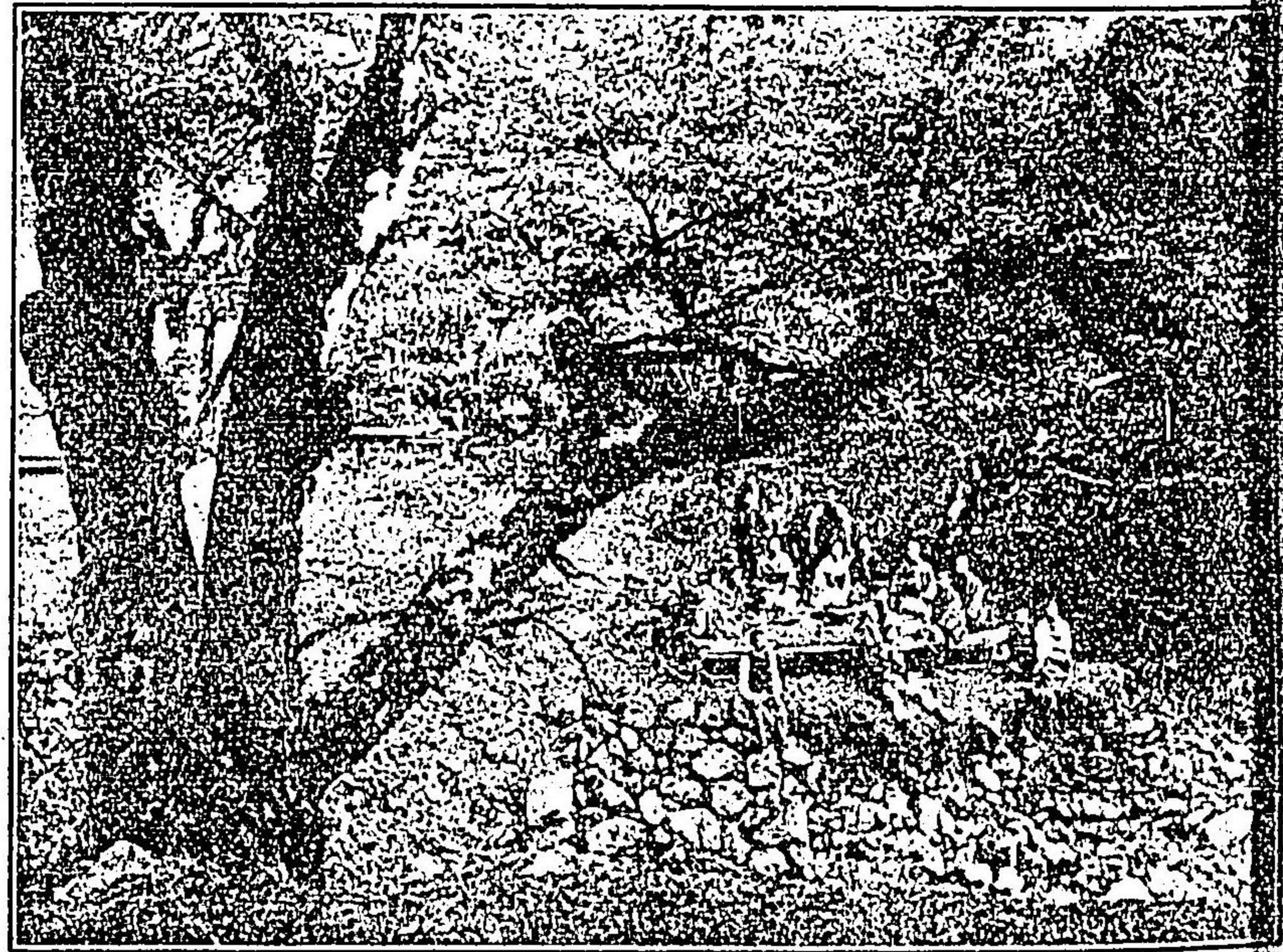


山 嵐



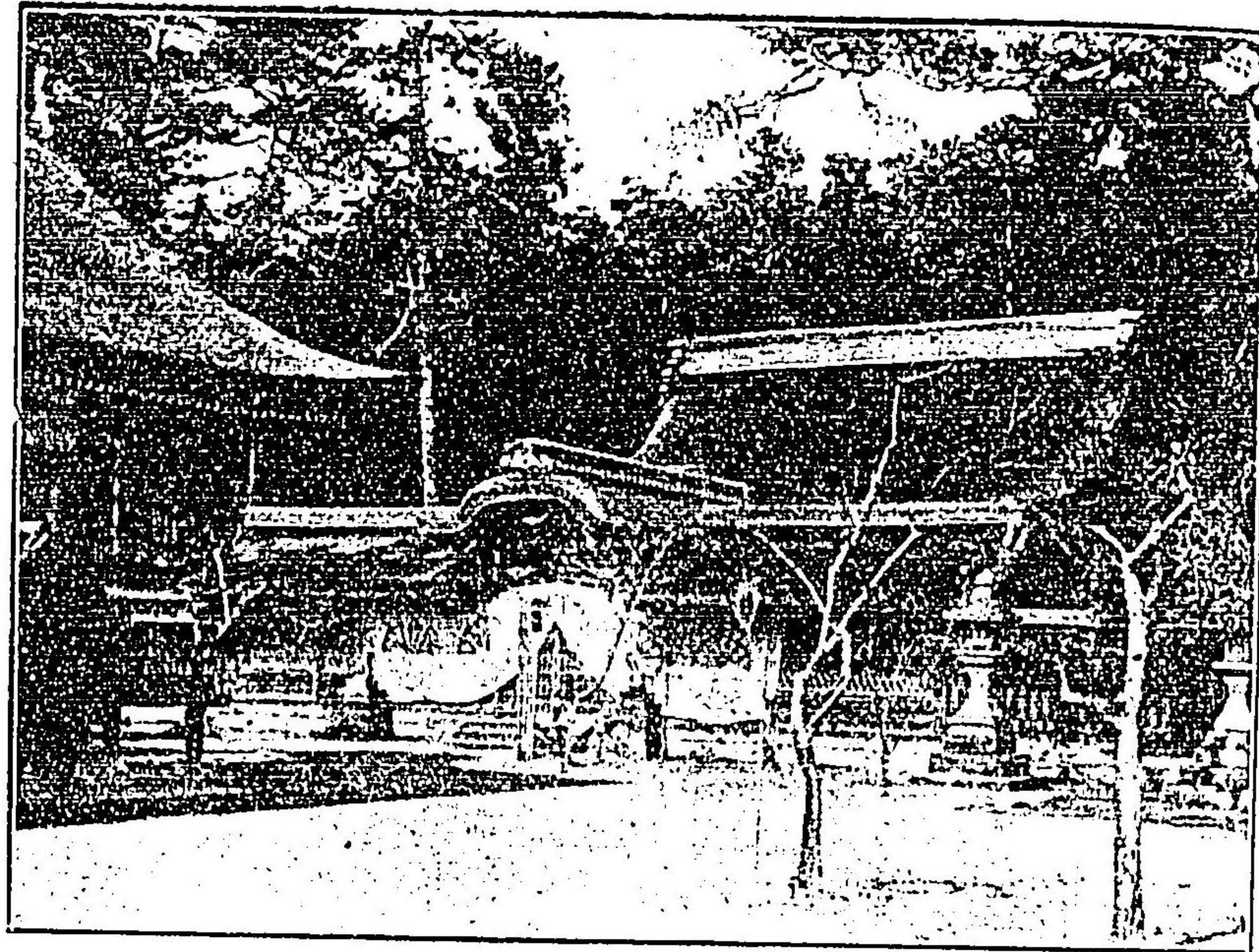


寺和仁室御

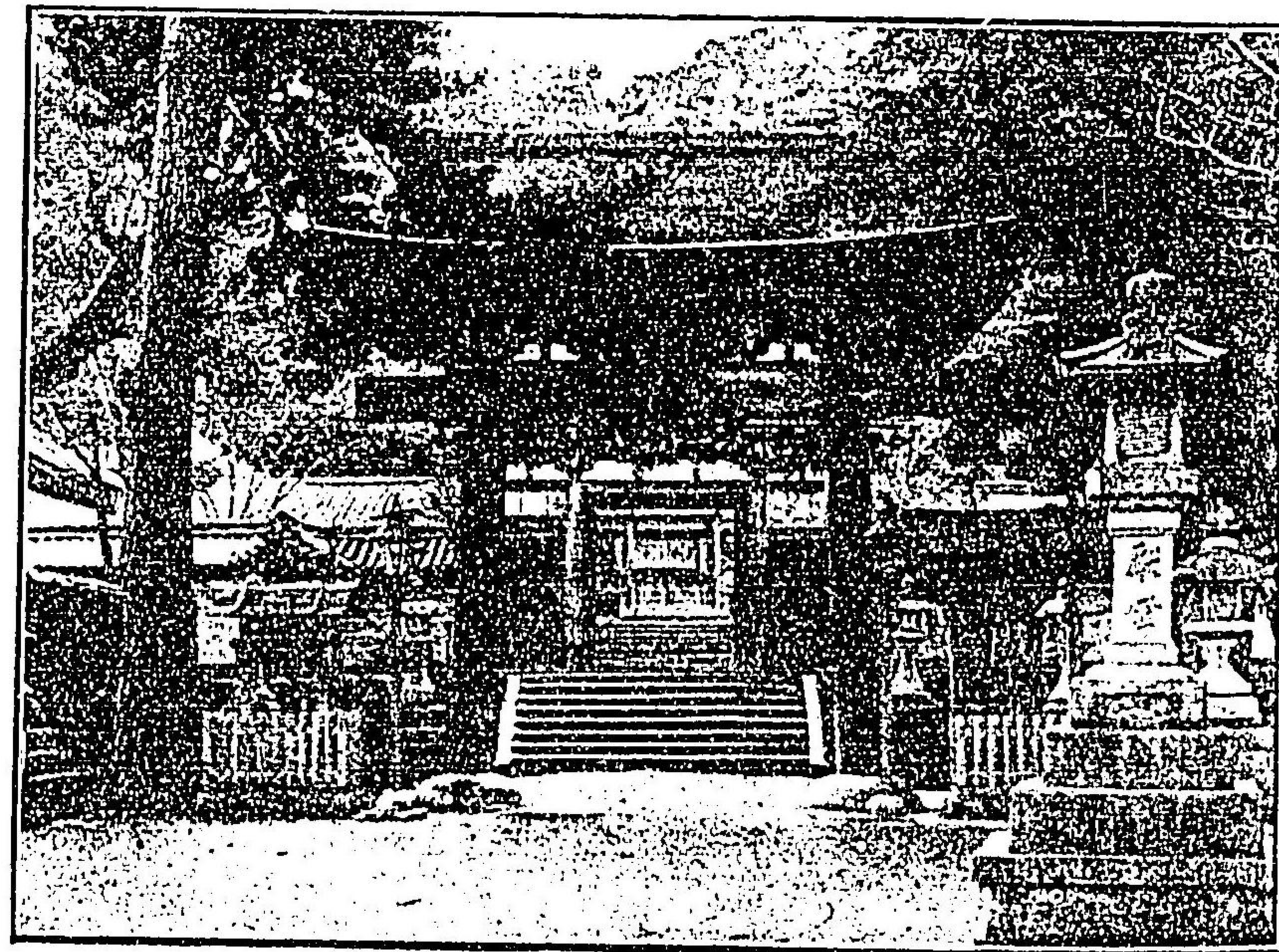


雄高



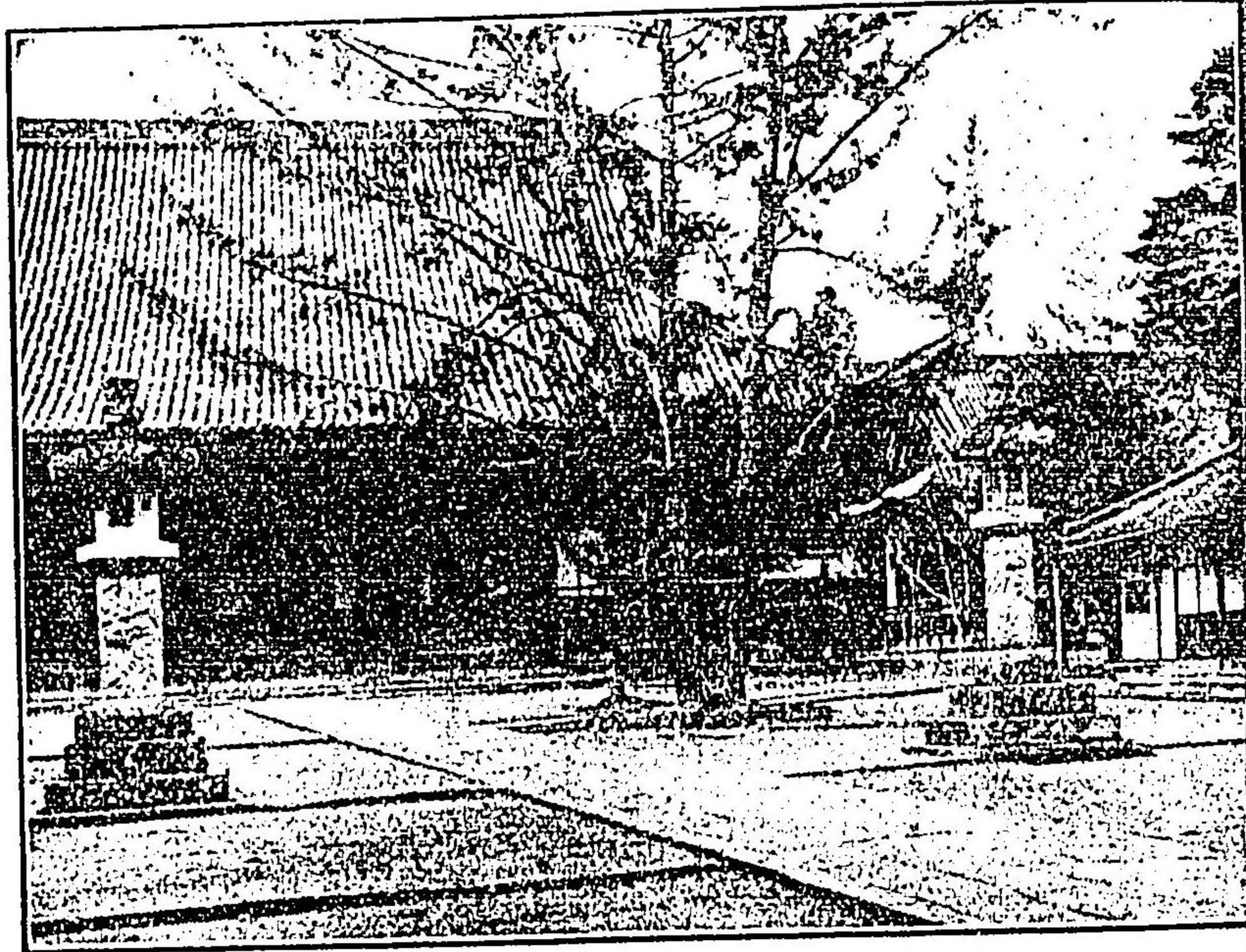


梅宮神社



松尾神社



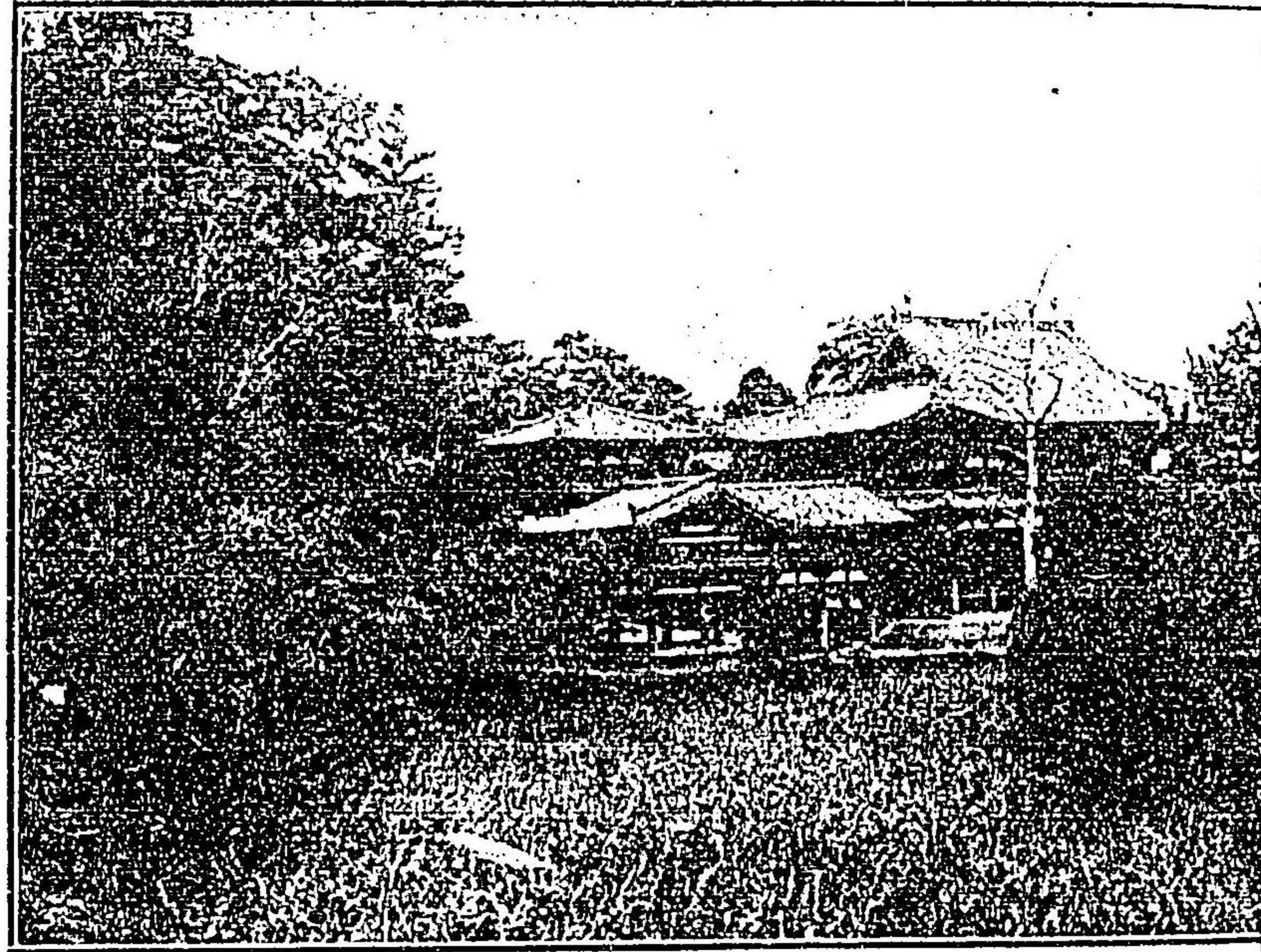


粟生光明寺

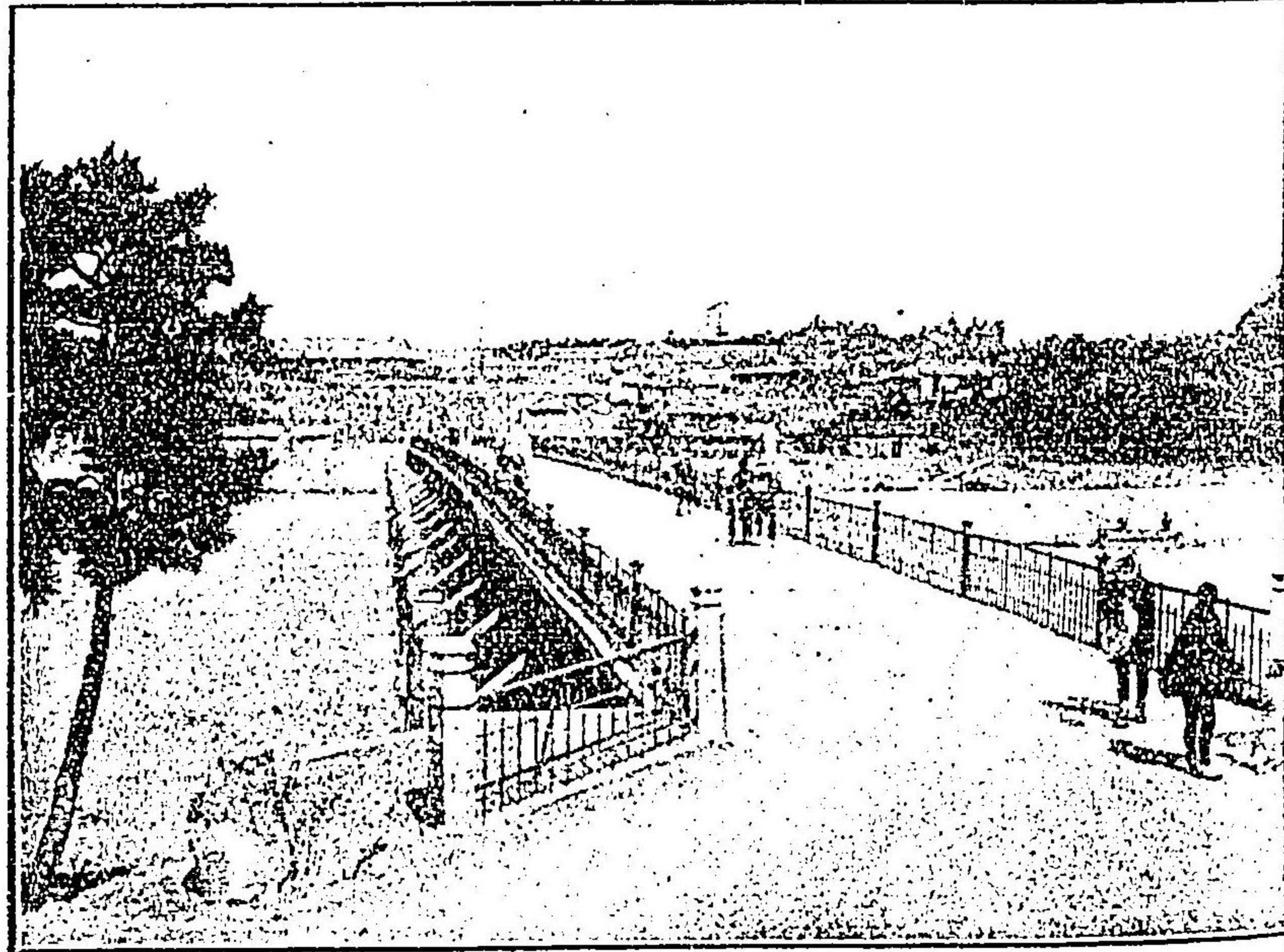


長岡天神



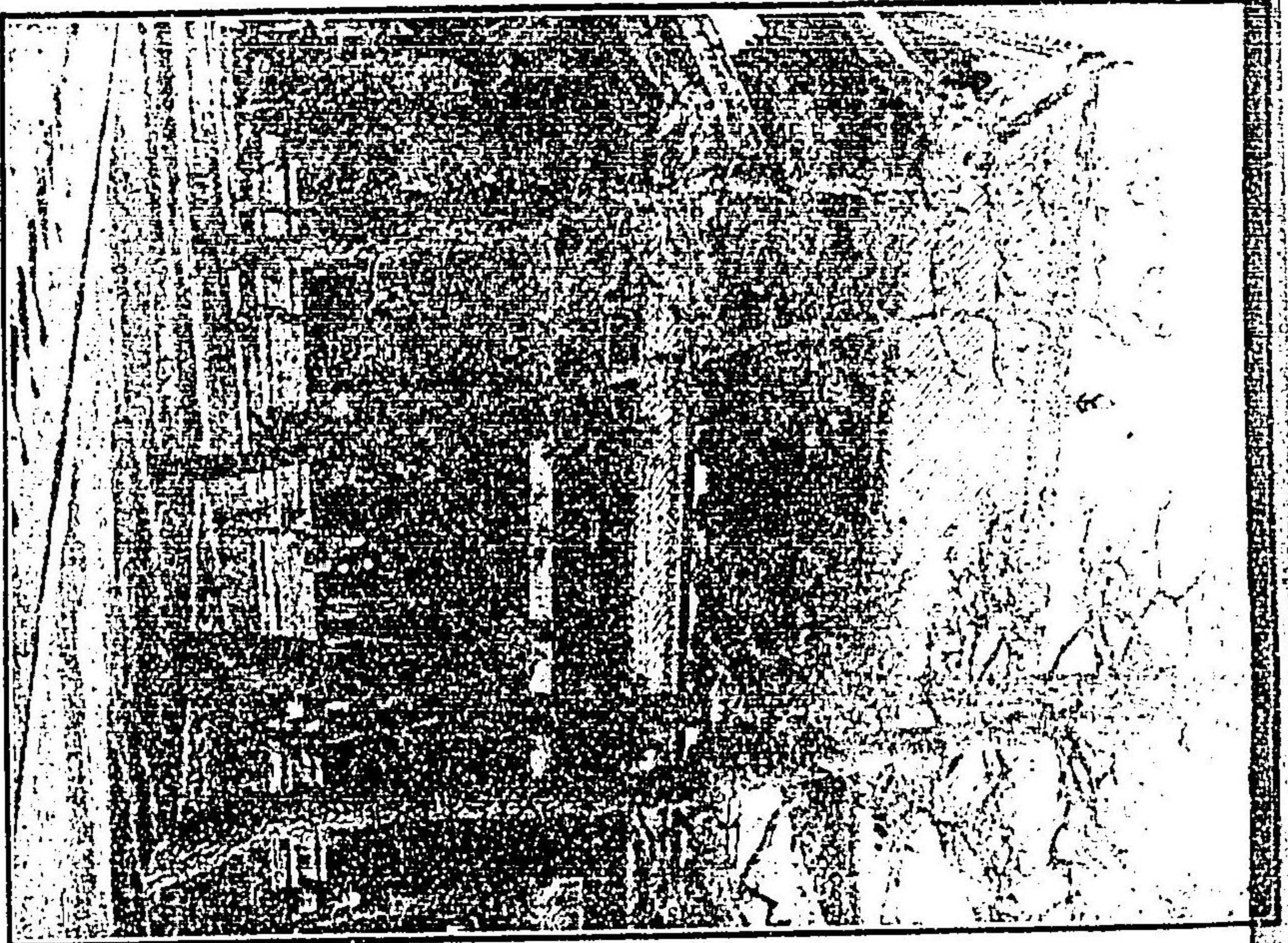


堂風鳳院等平

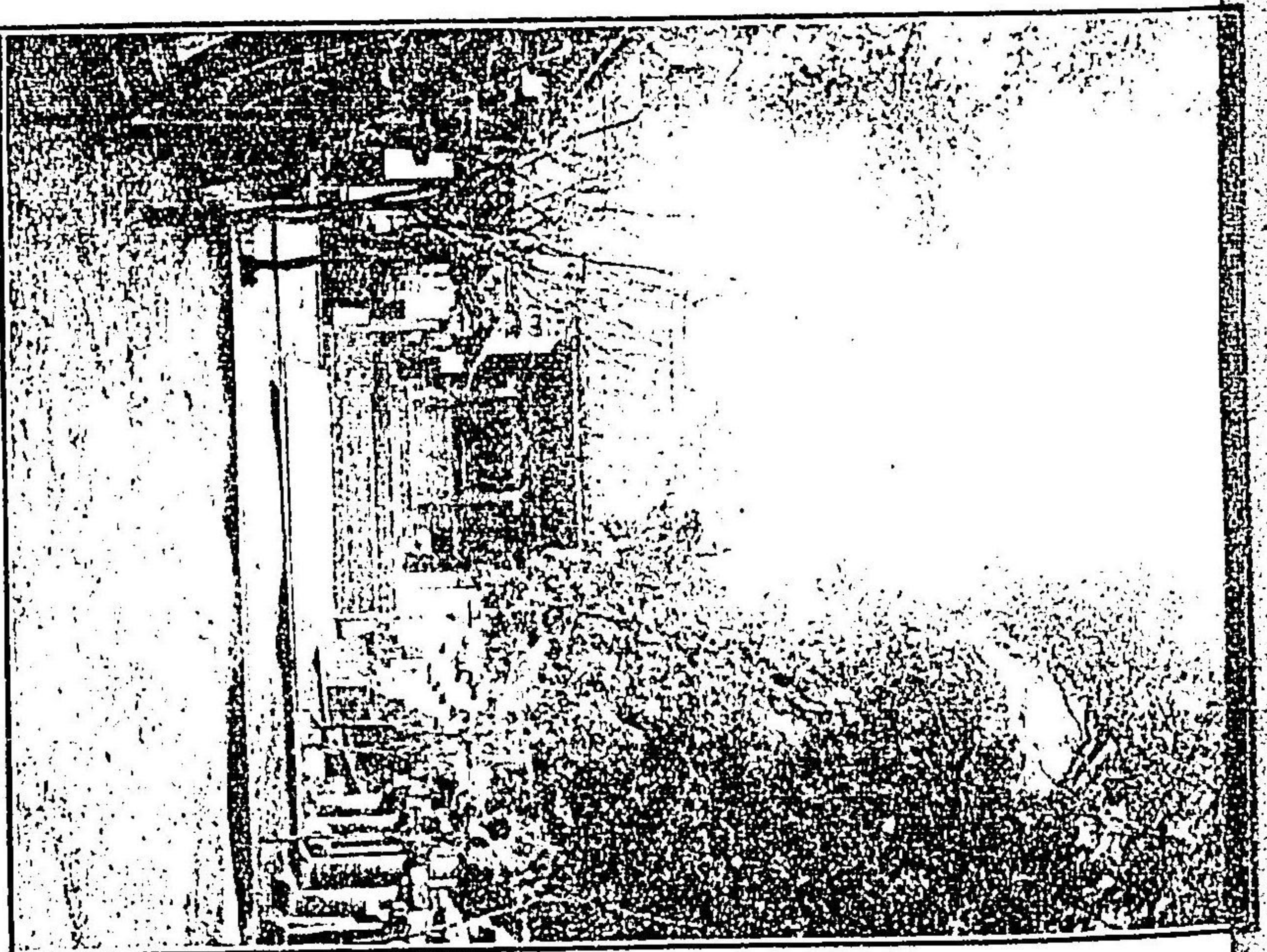


橋月觀見伏



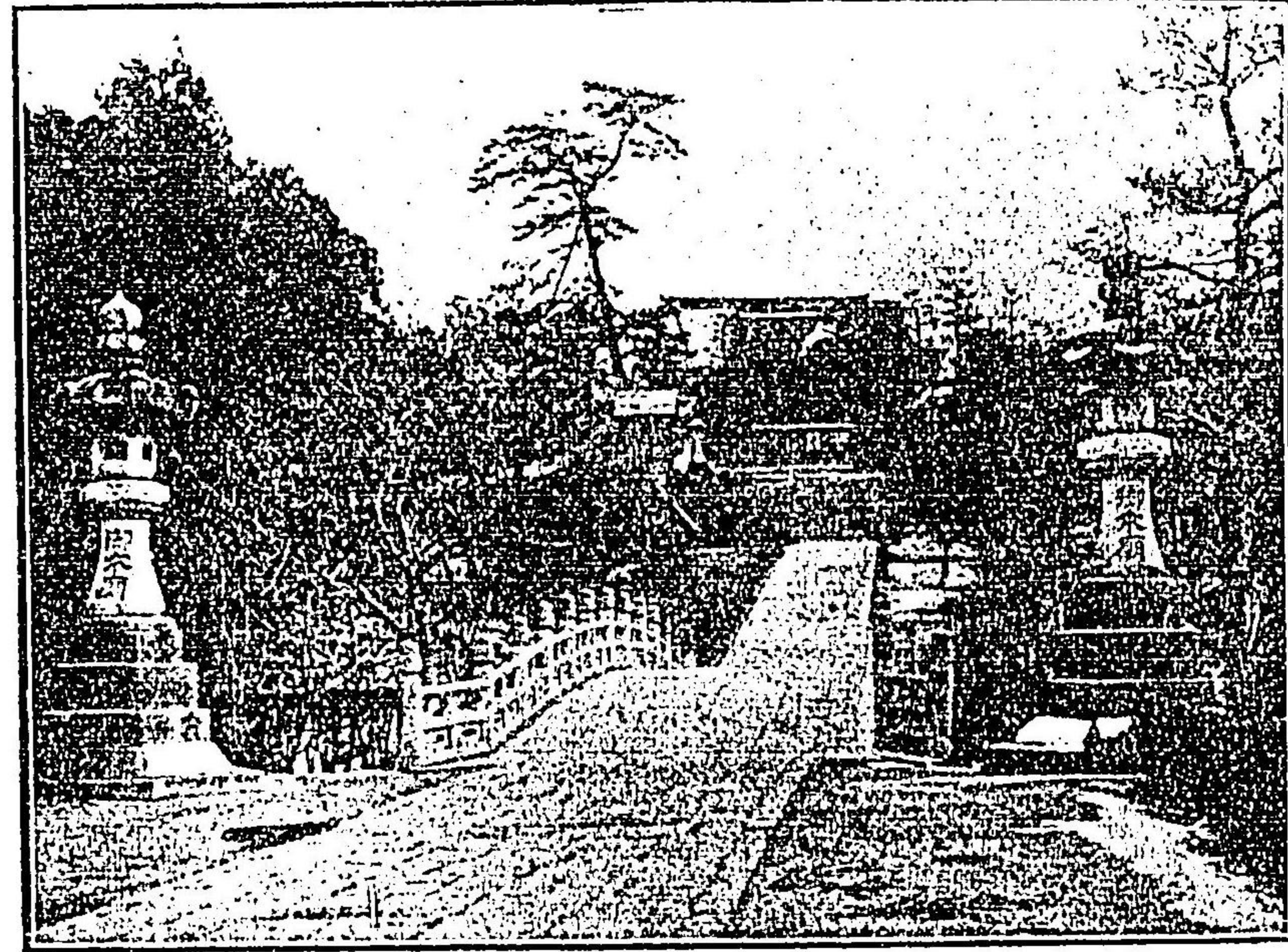


寺福萬山葉黃

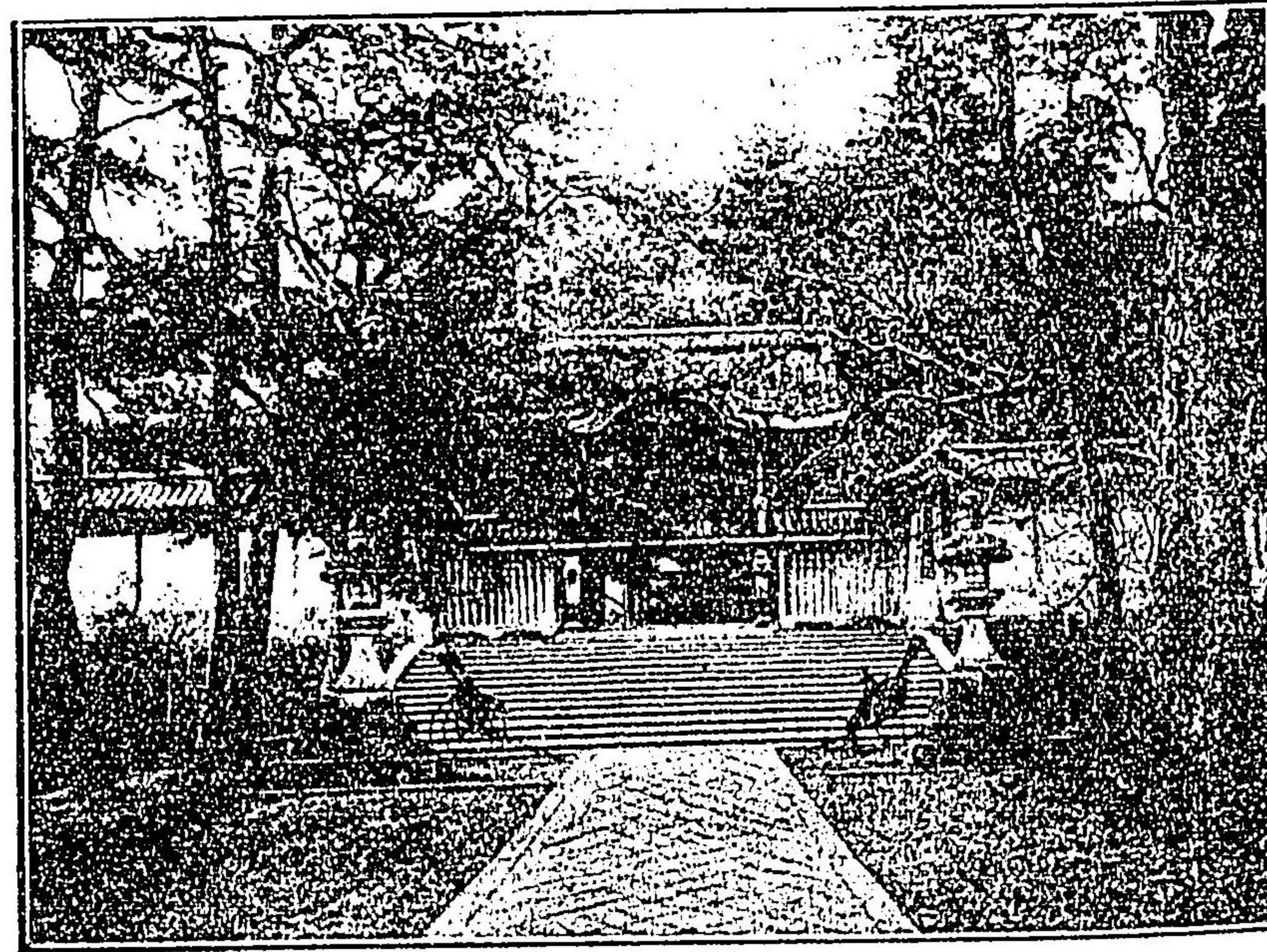


幡八山男



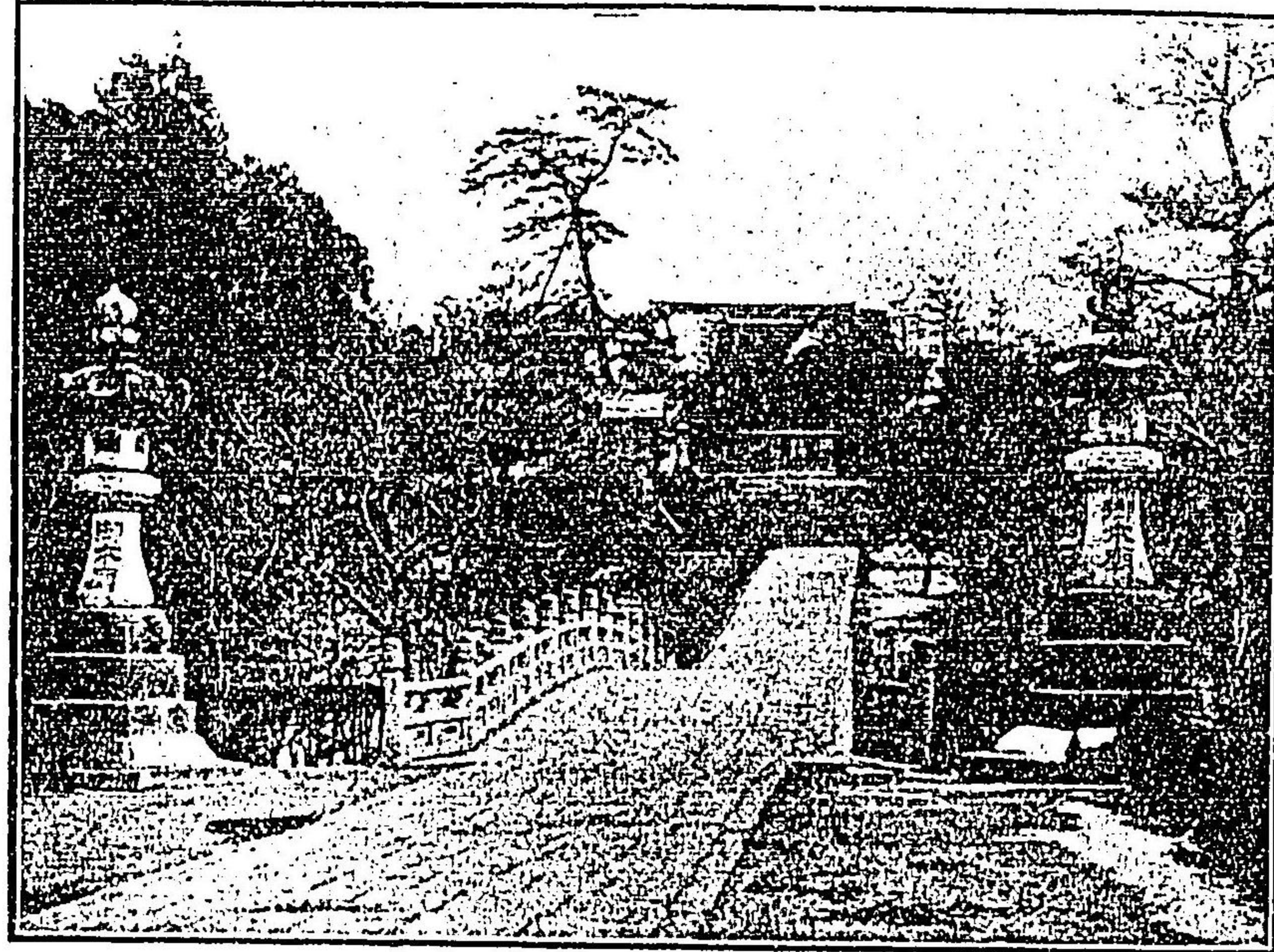


西大谷

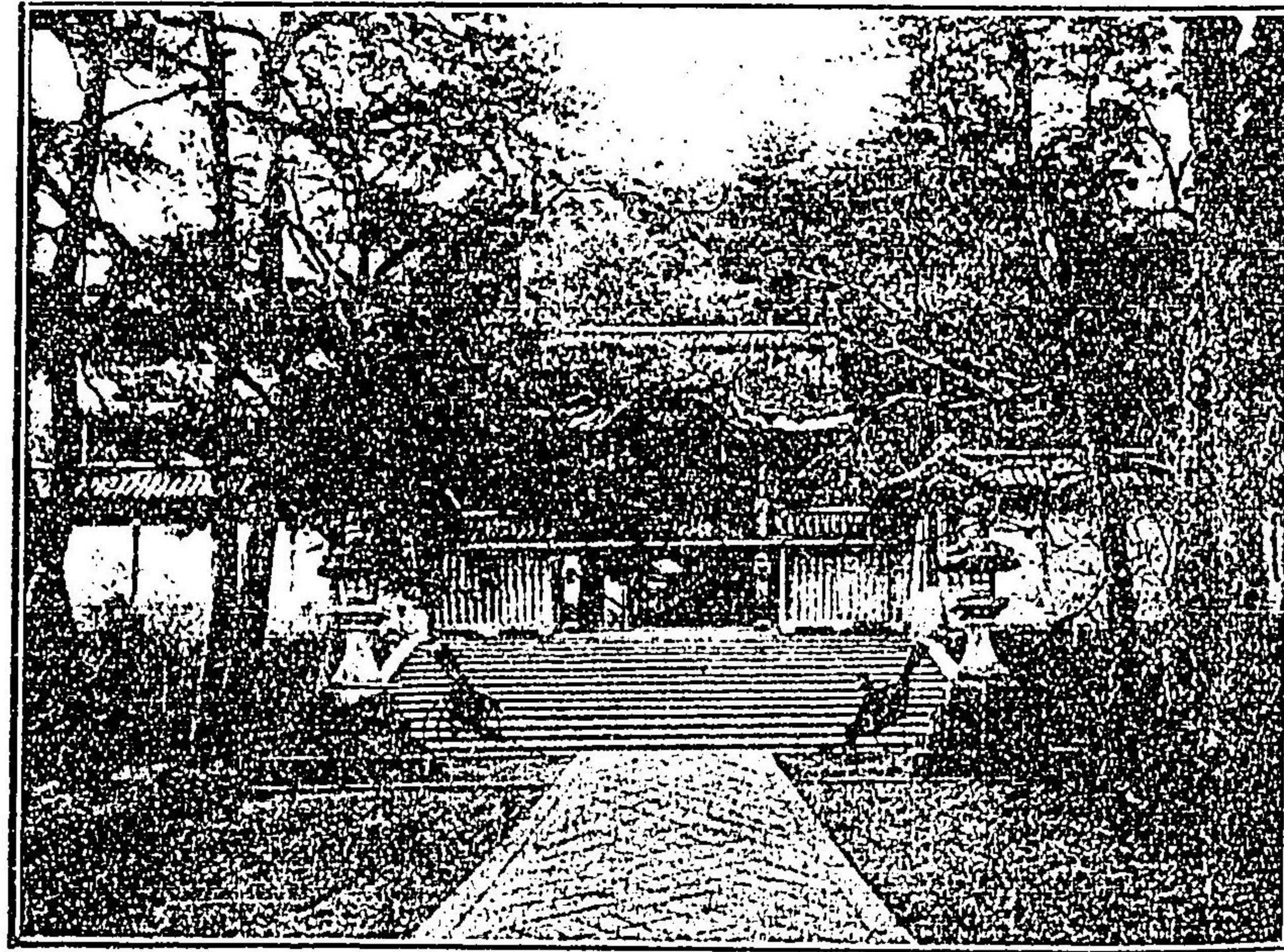


東大谷



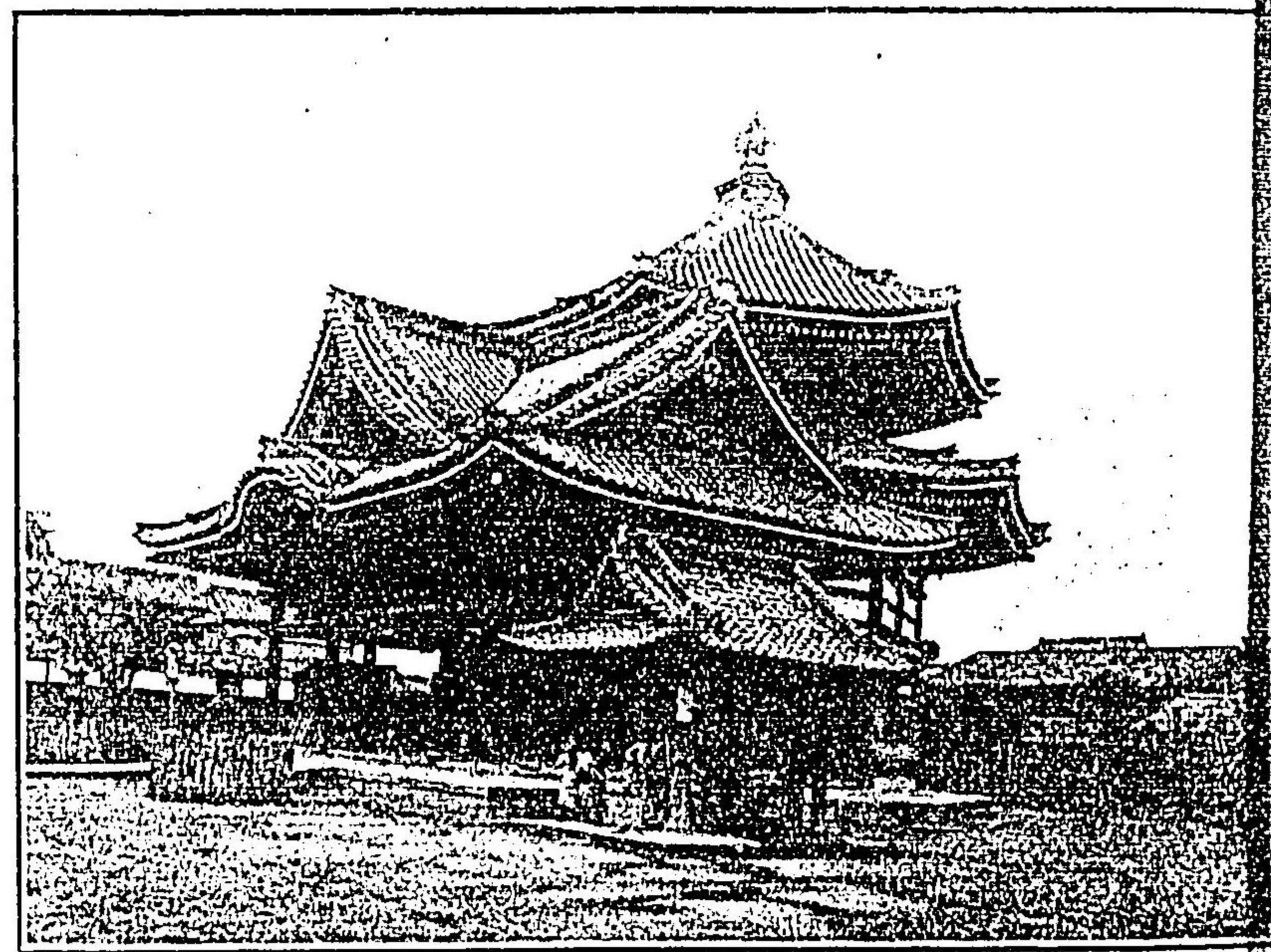


西大谷

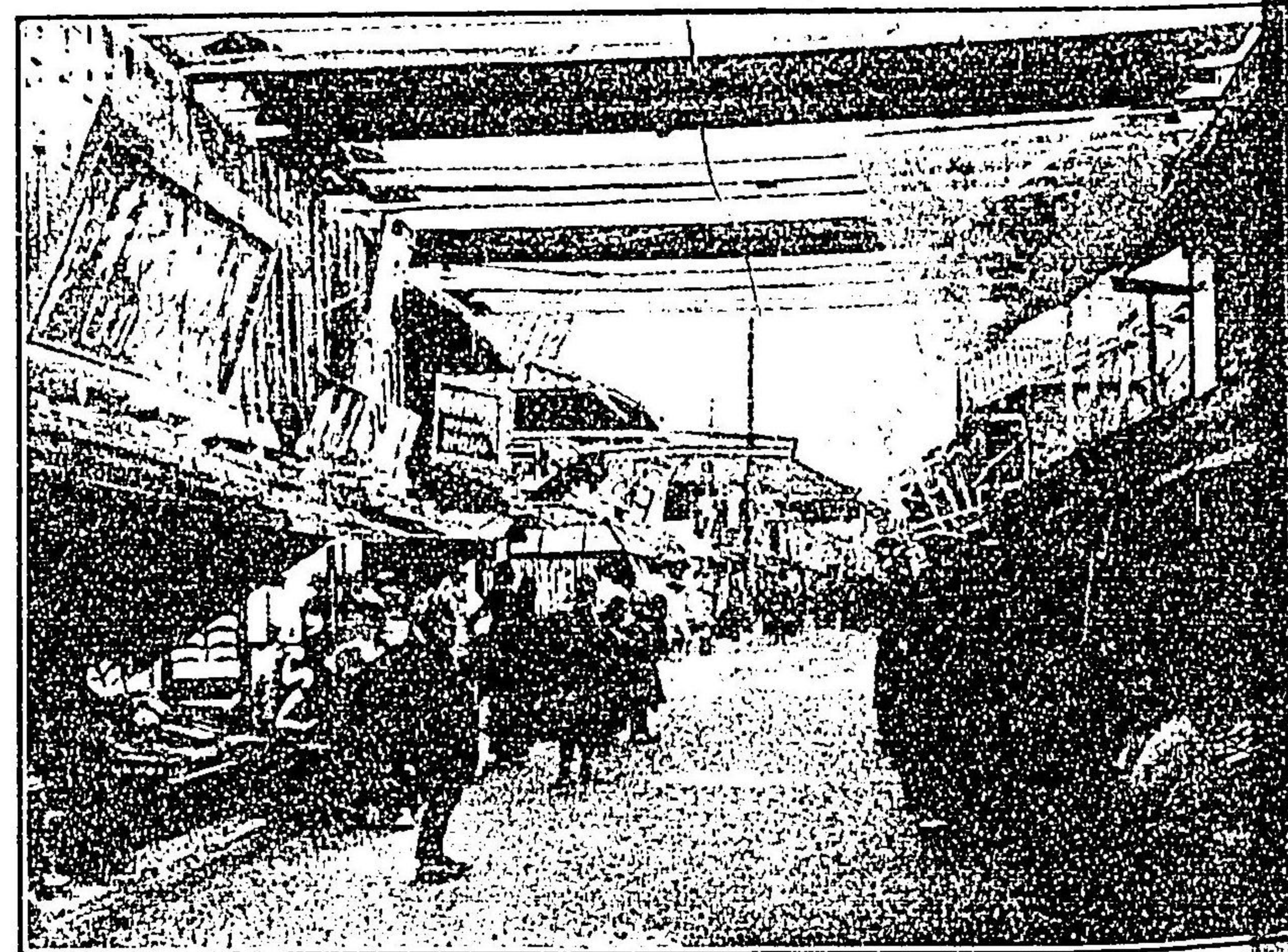


東大谷



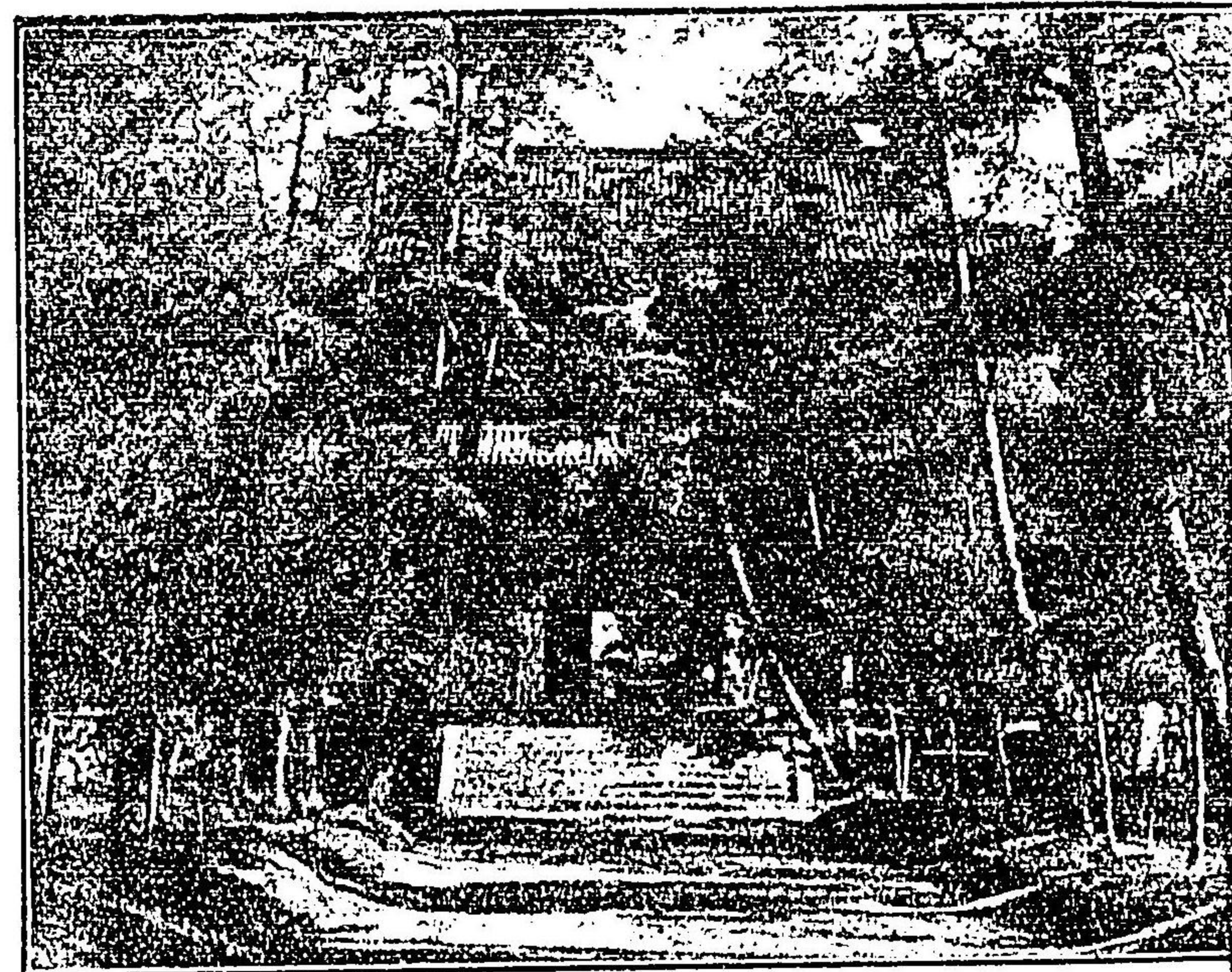


堂角大

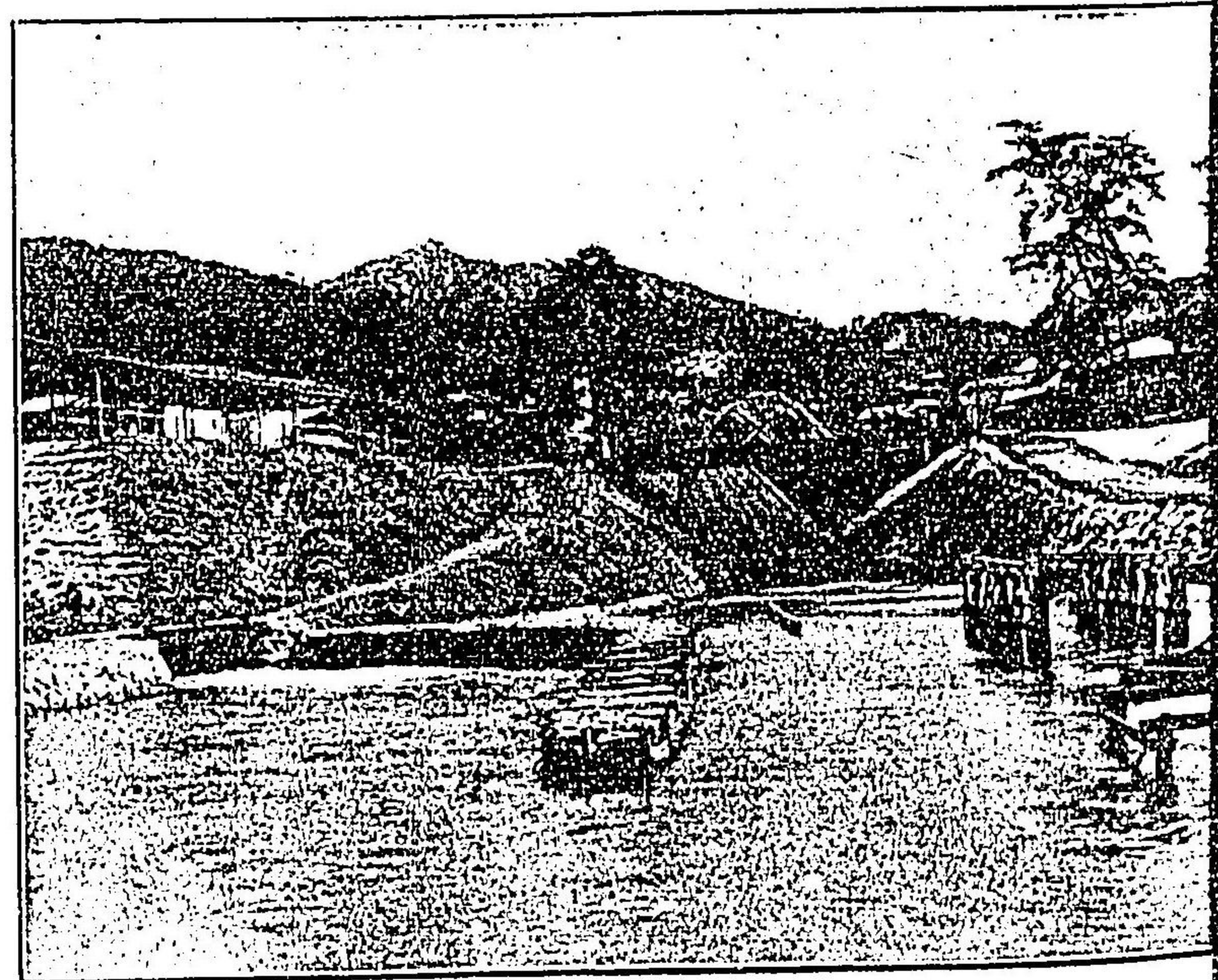


極京新





寺 禪 南

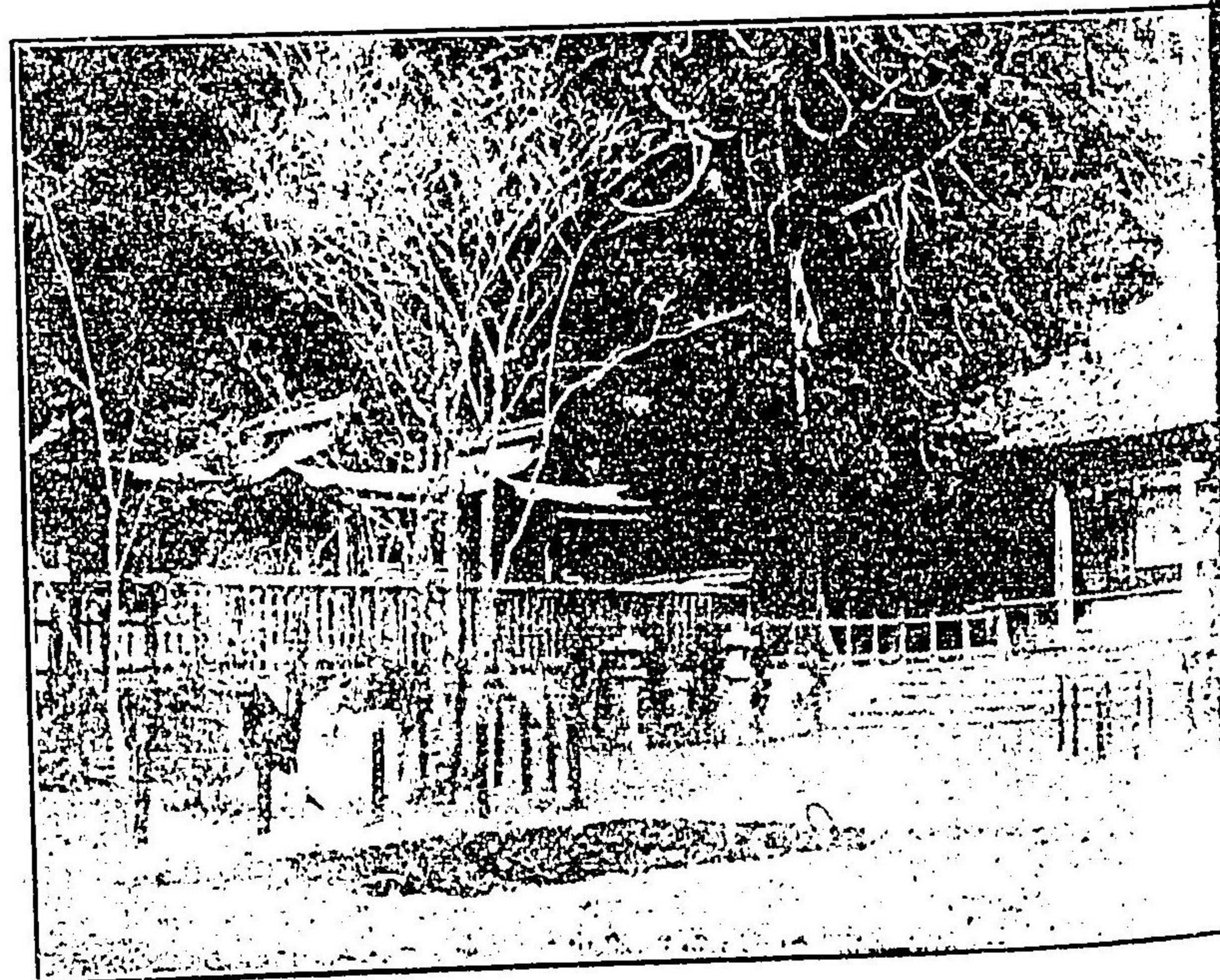


シイラクニイ水跡



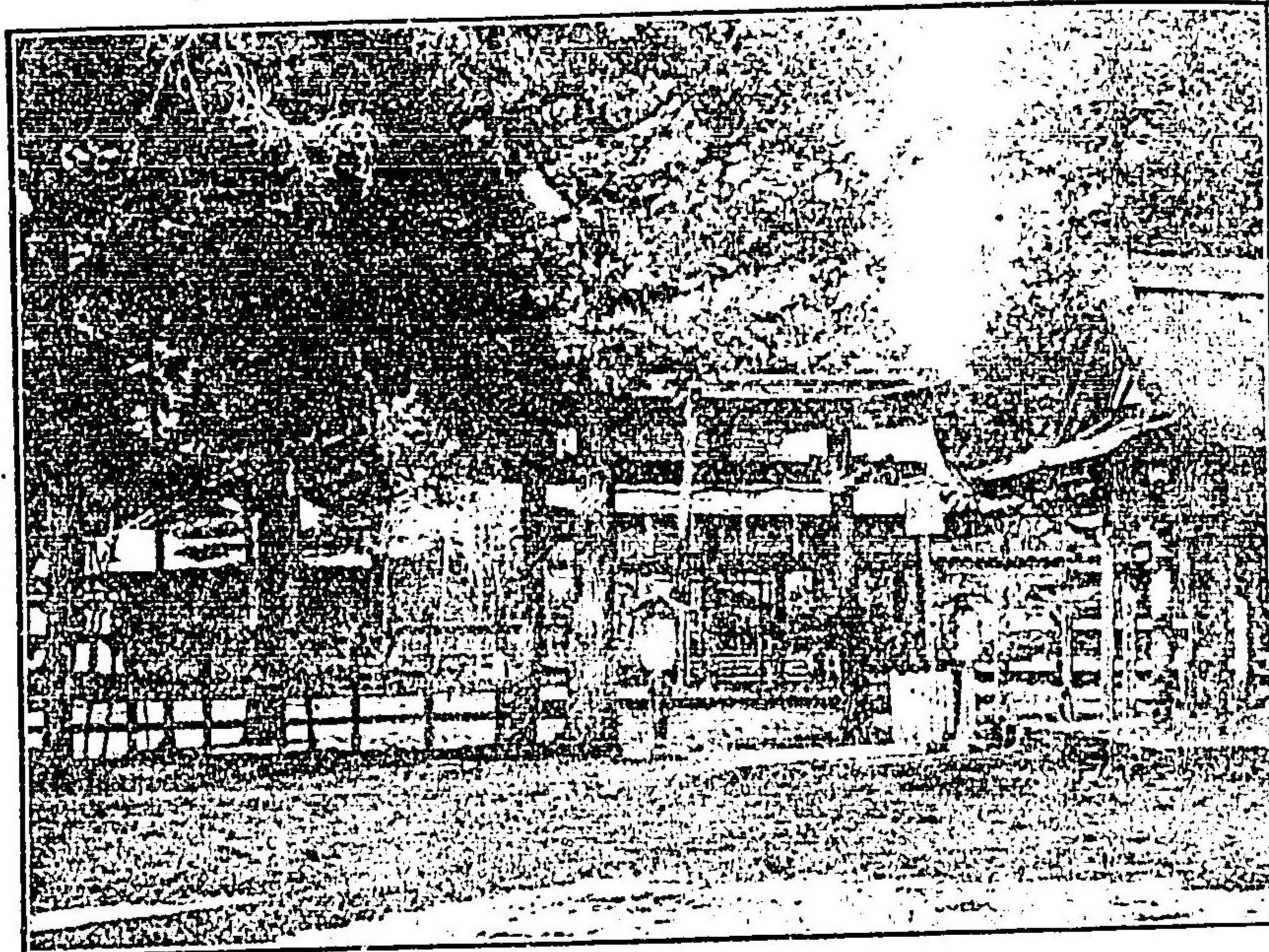


永觀堂

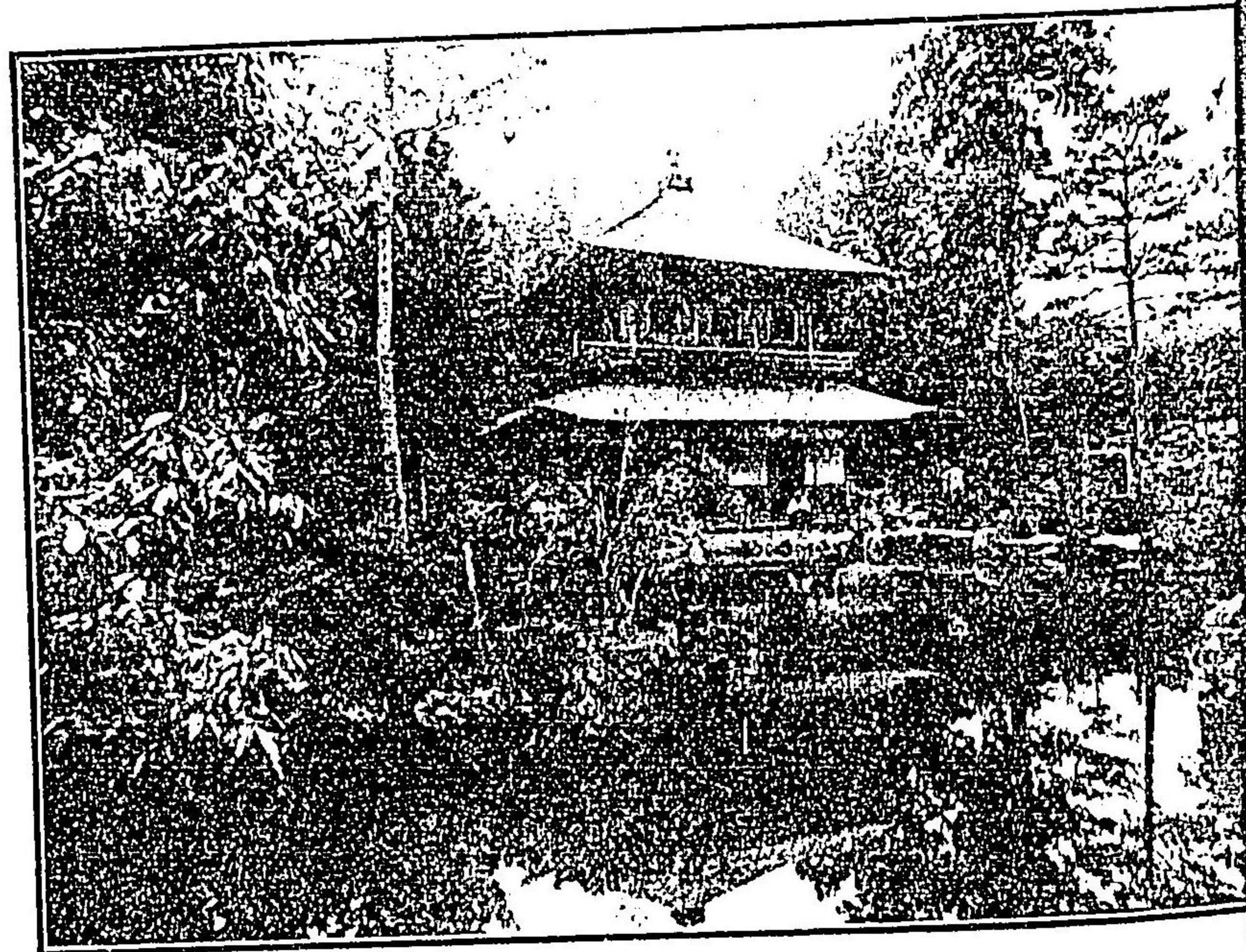


若王子





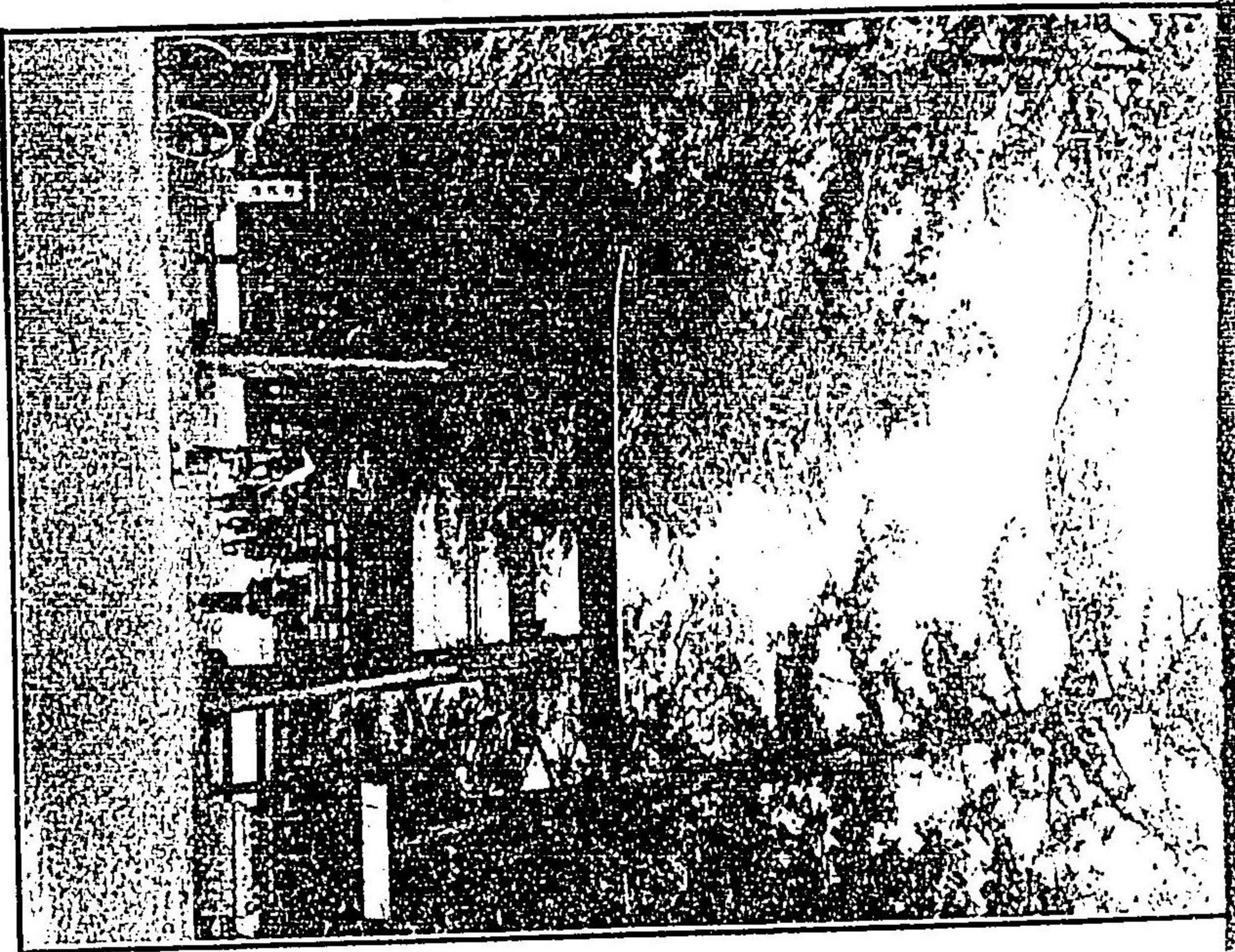
吉田神社



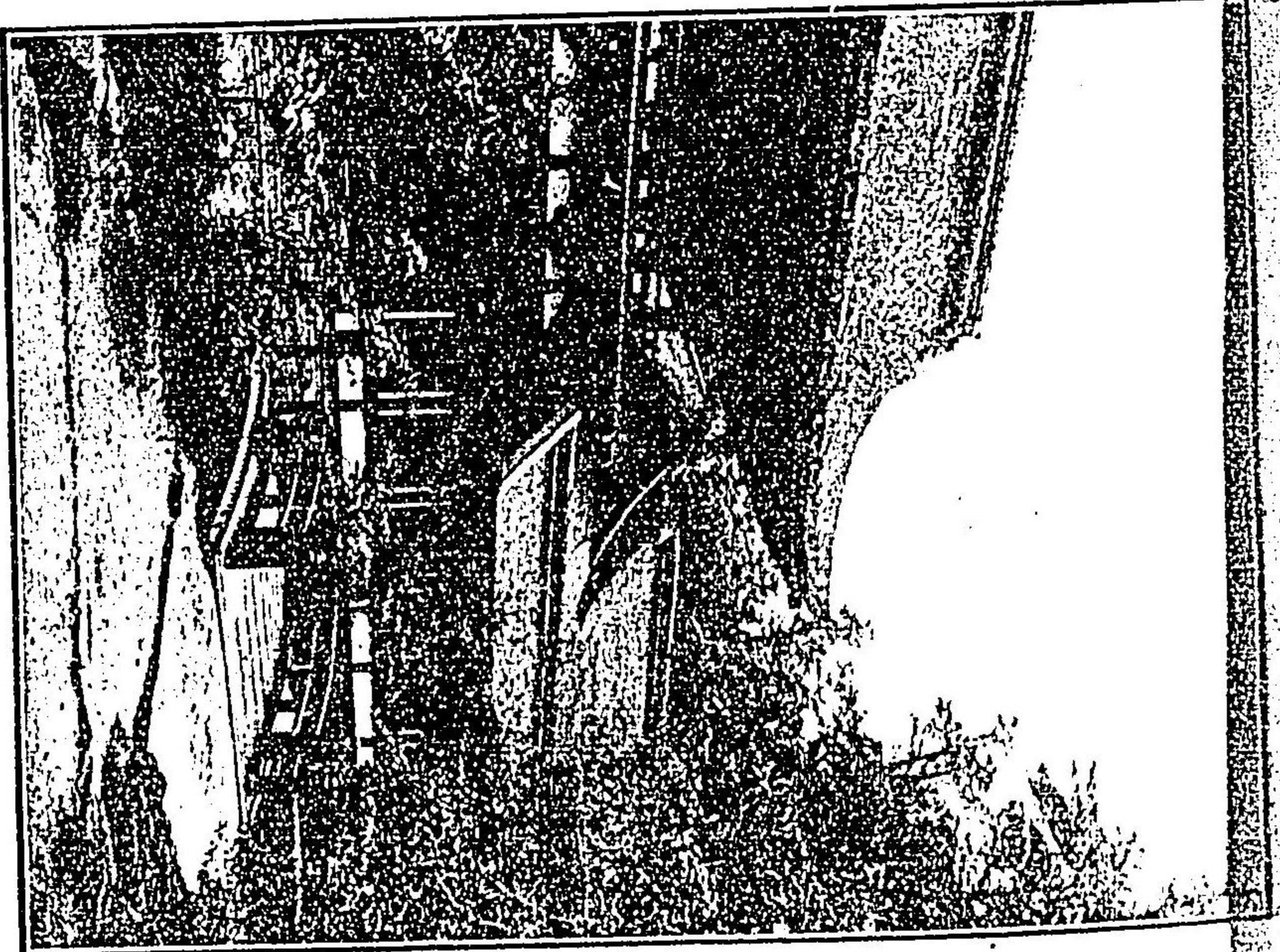
銀園寺



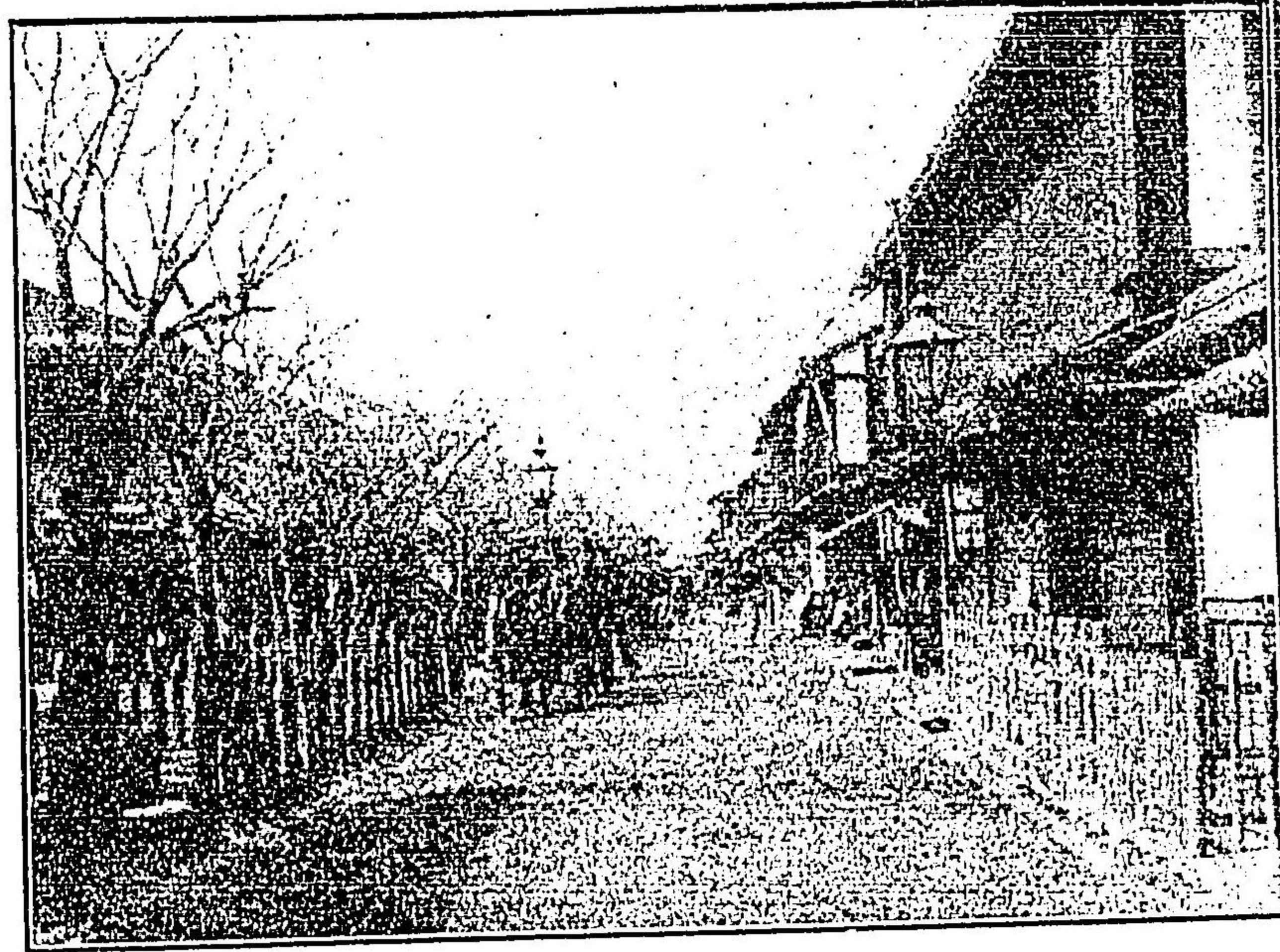
透加下



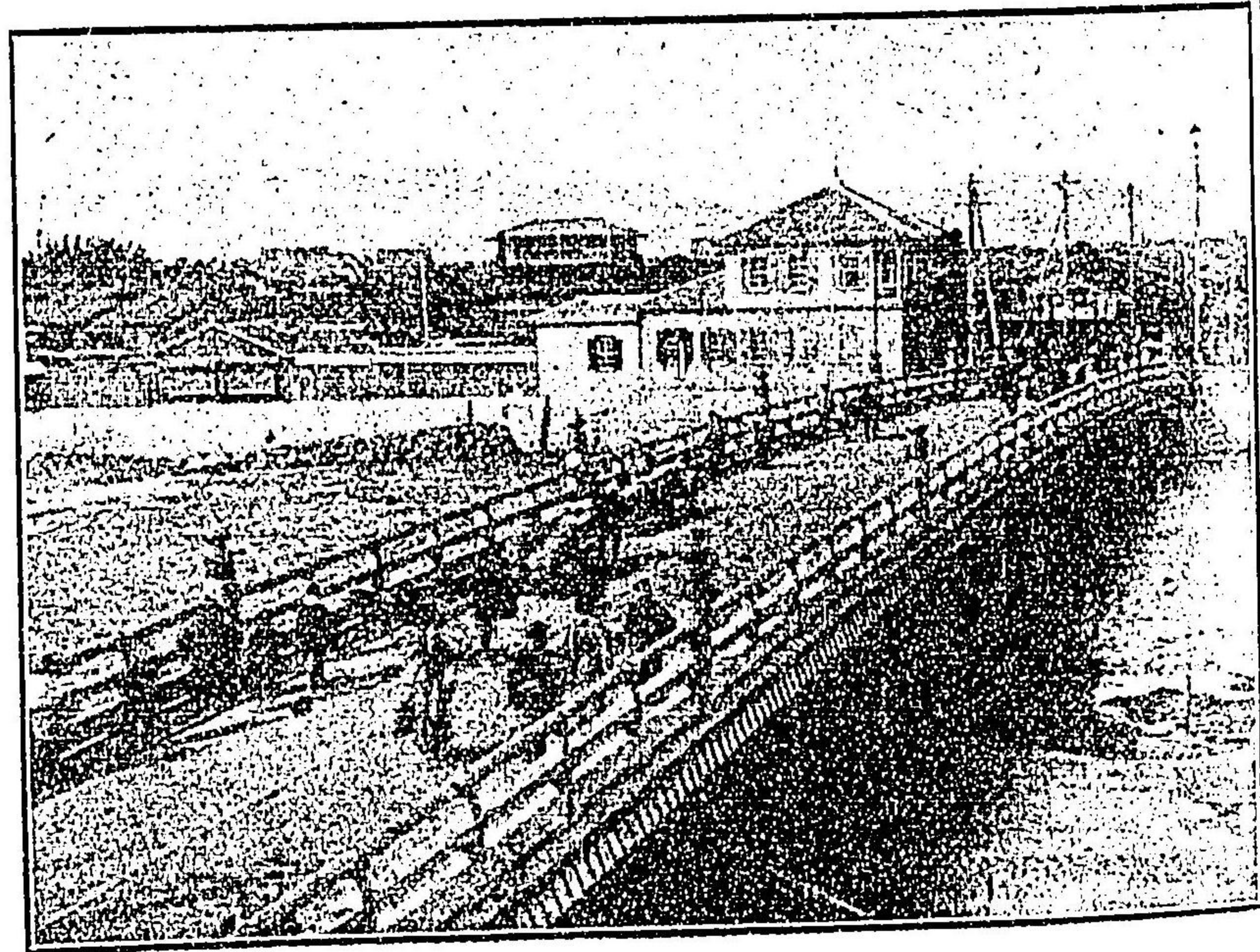
透加上





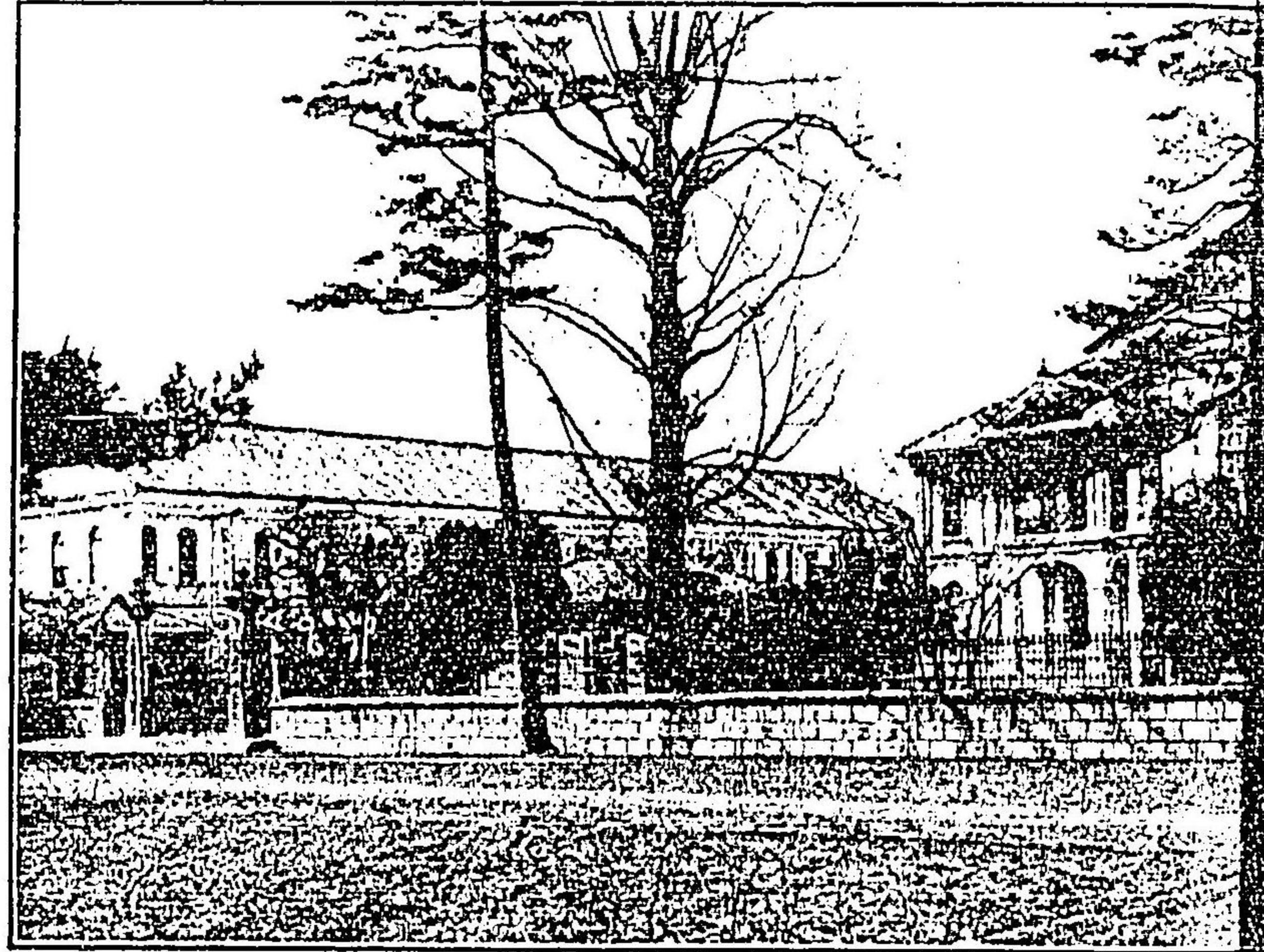


原 島

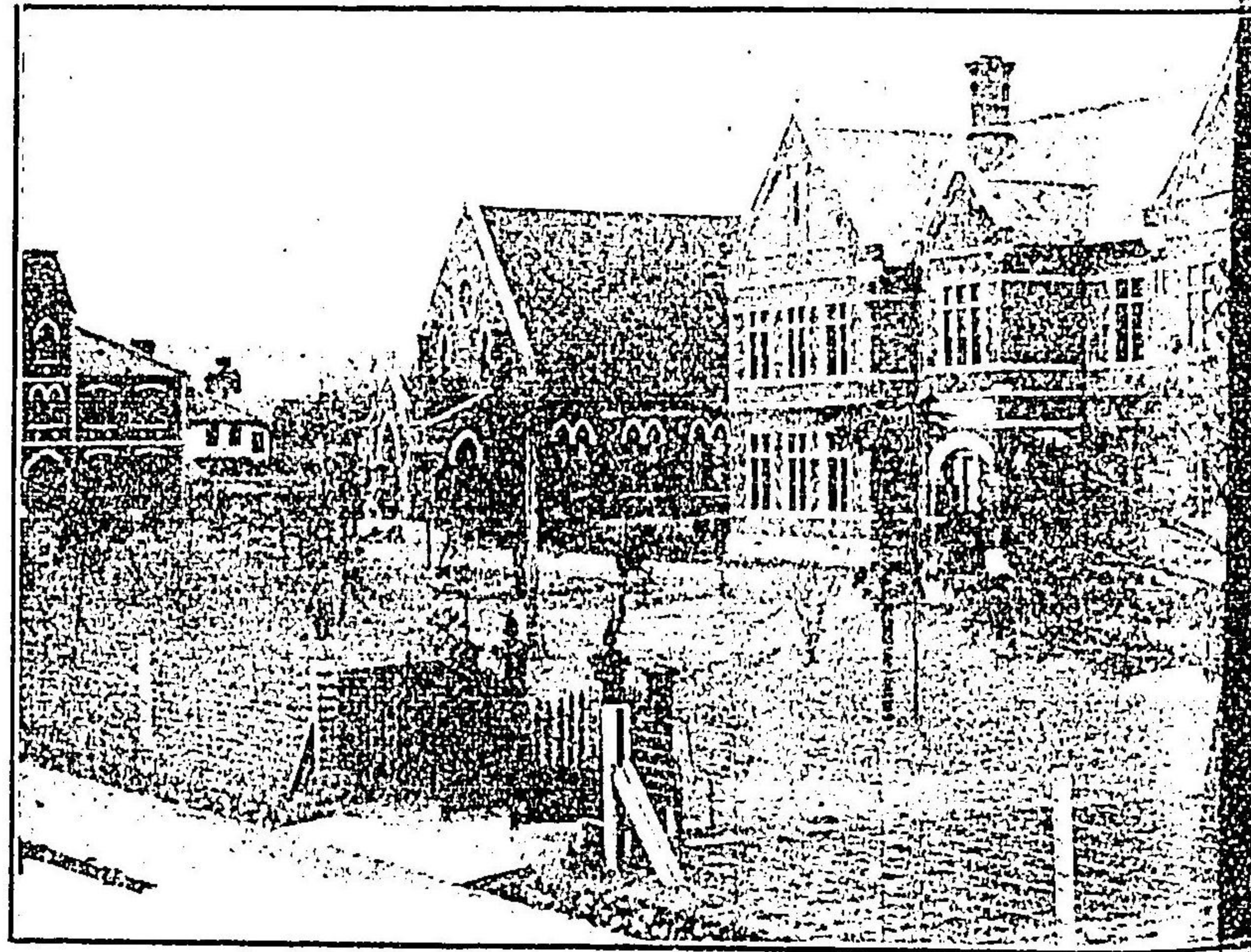


橋 條 五



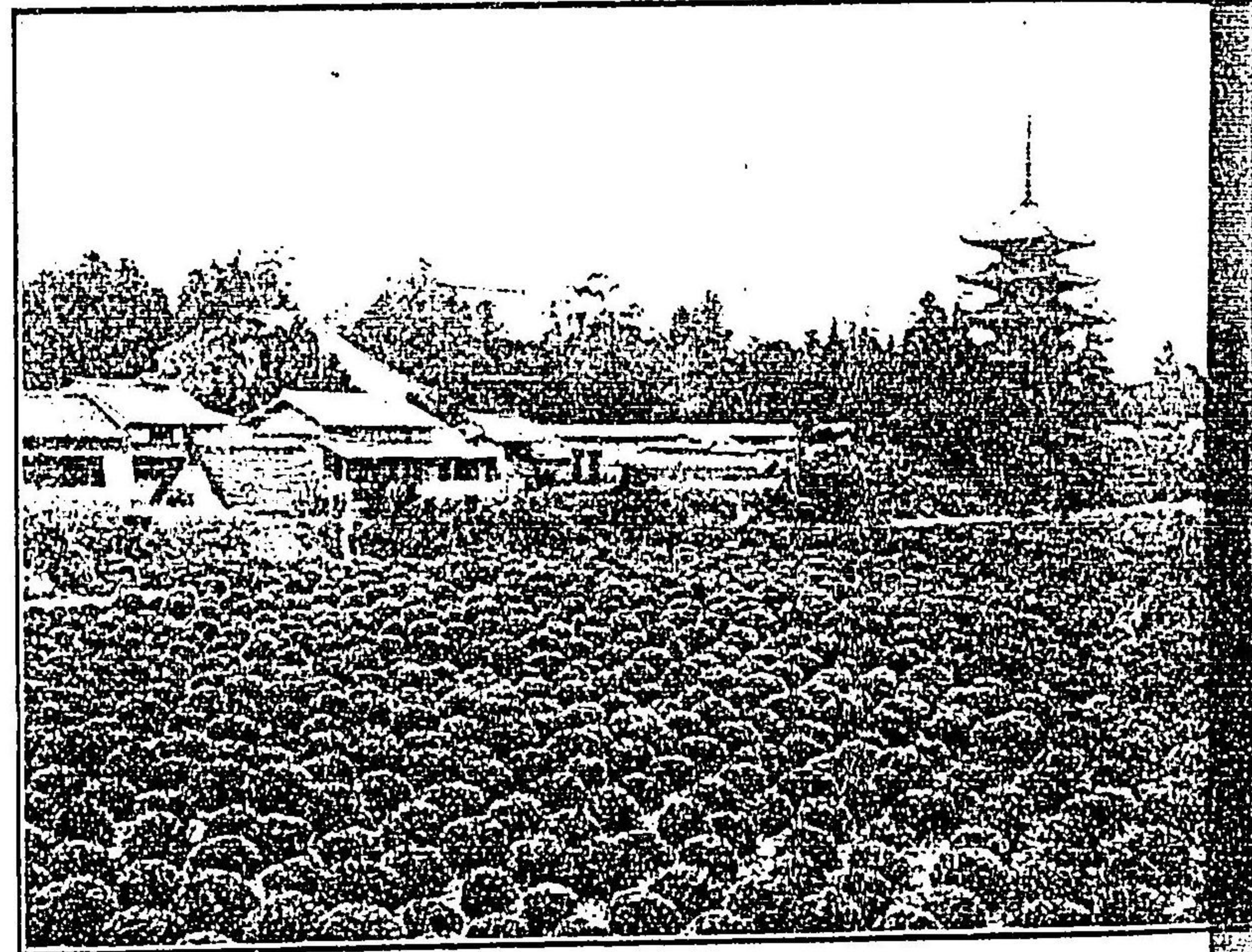


察學大寺願本



社志同



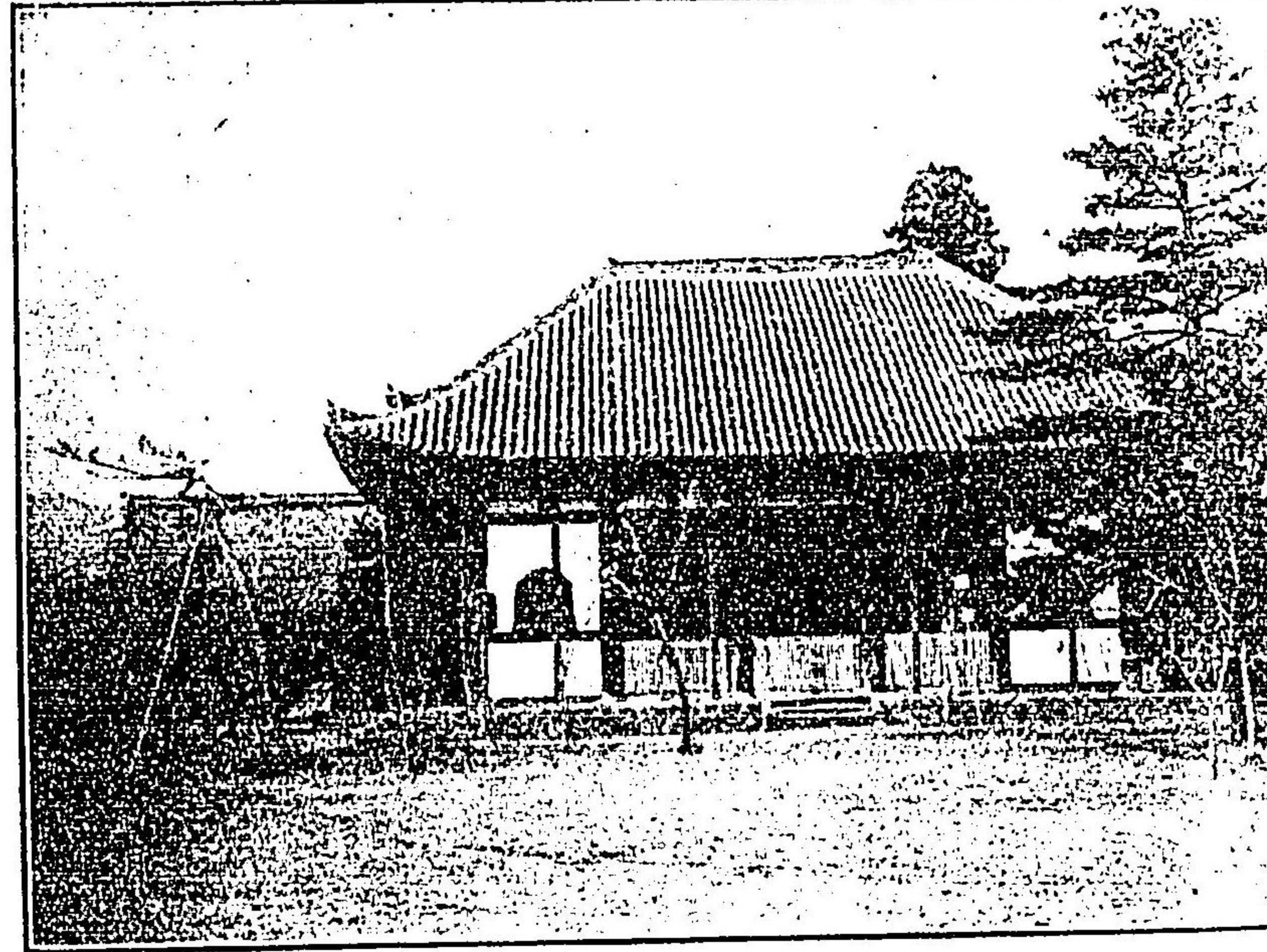


寺 東



寺 光 佛



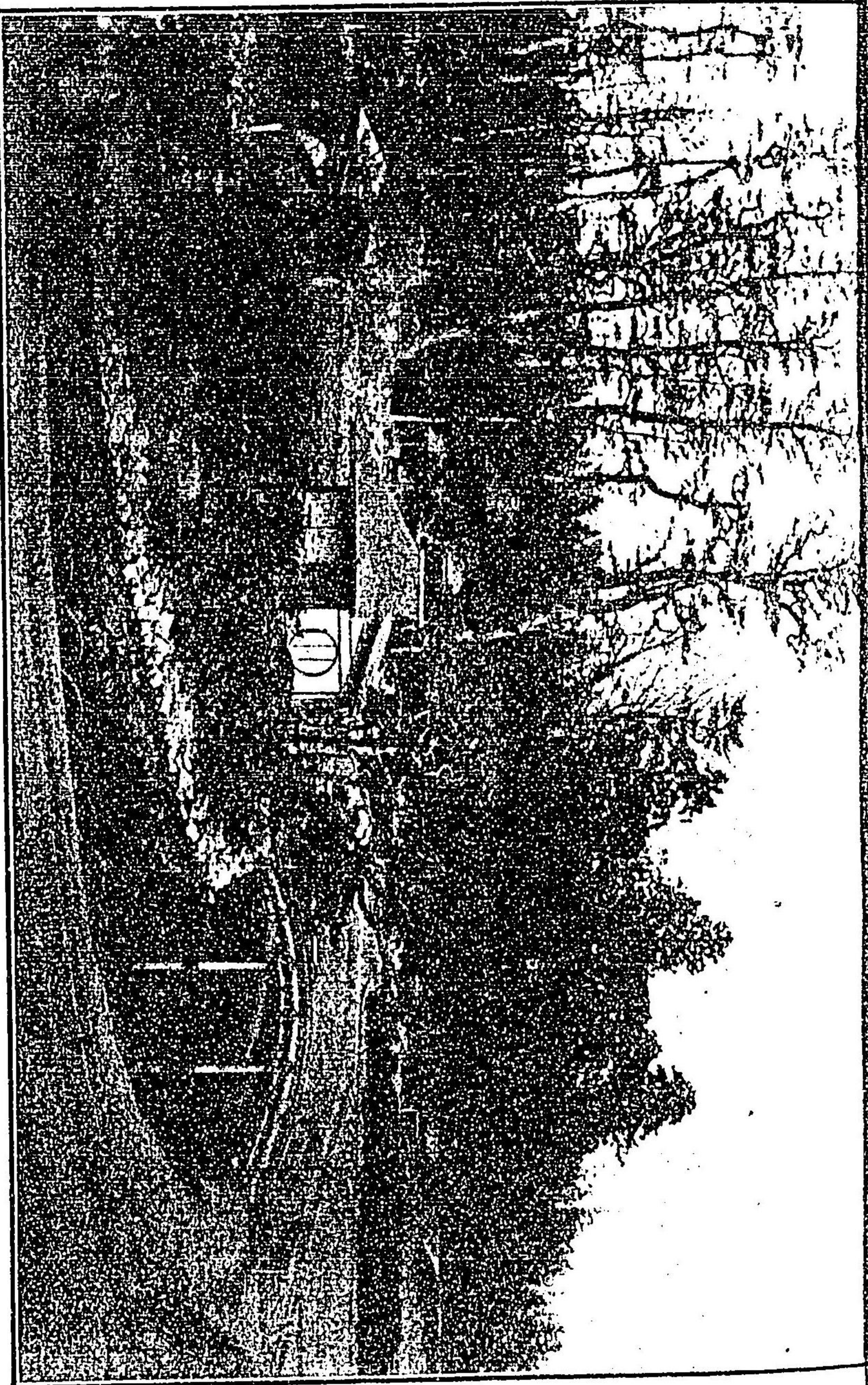


寺隆廣奈太



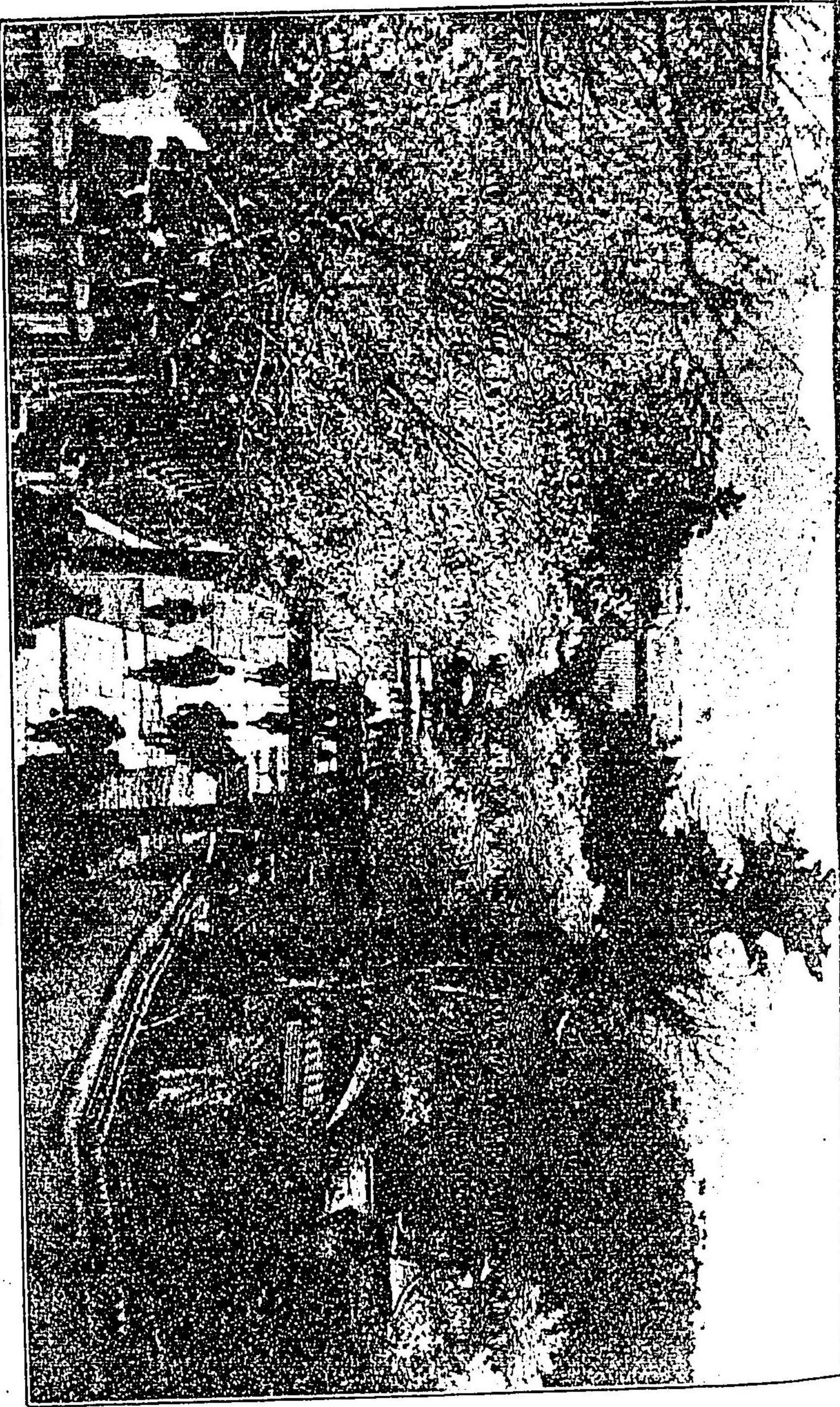
堂迎釋峨巖





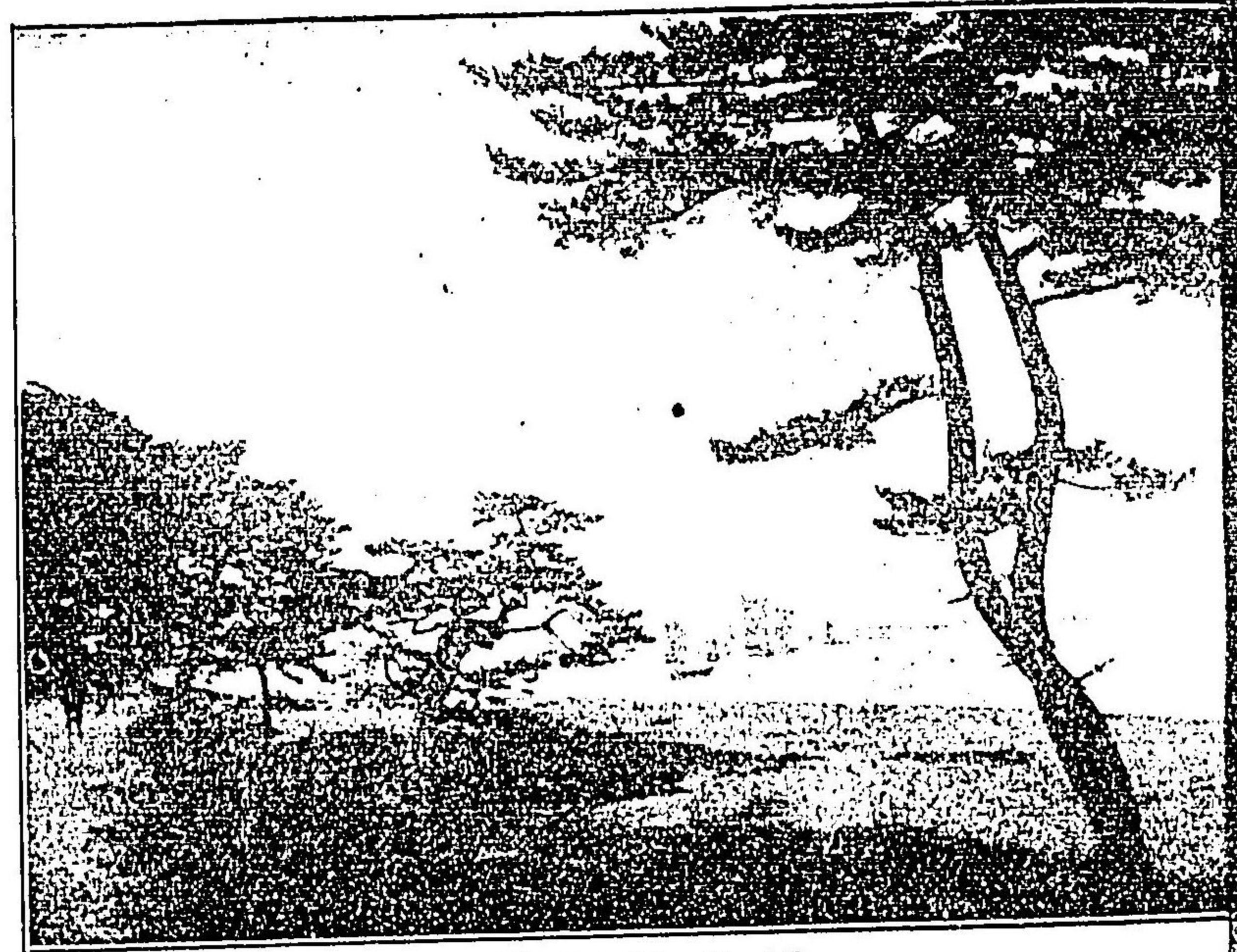
岡後樂圖



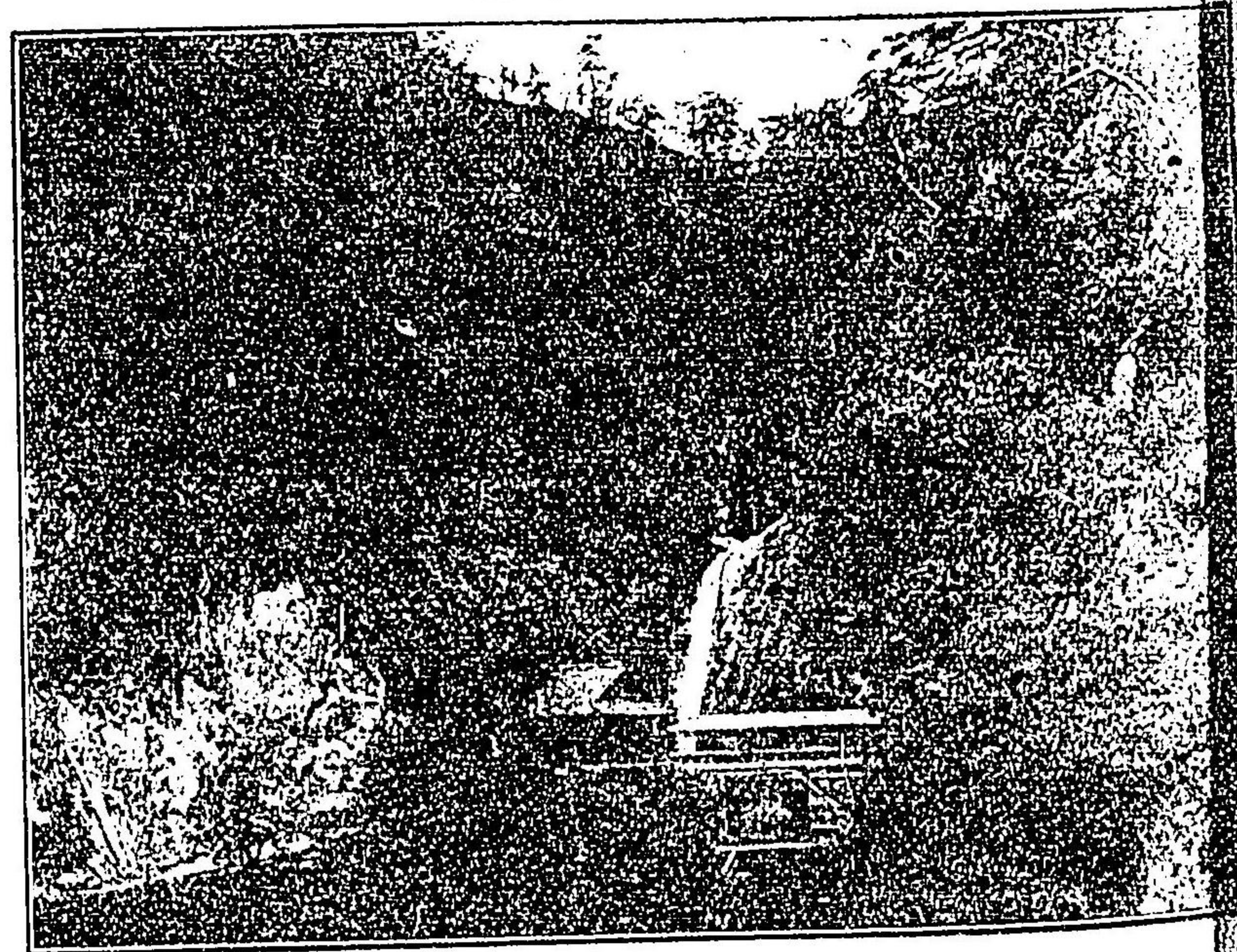


設岐金刀比羅神社



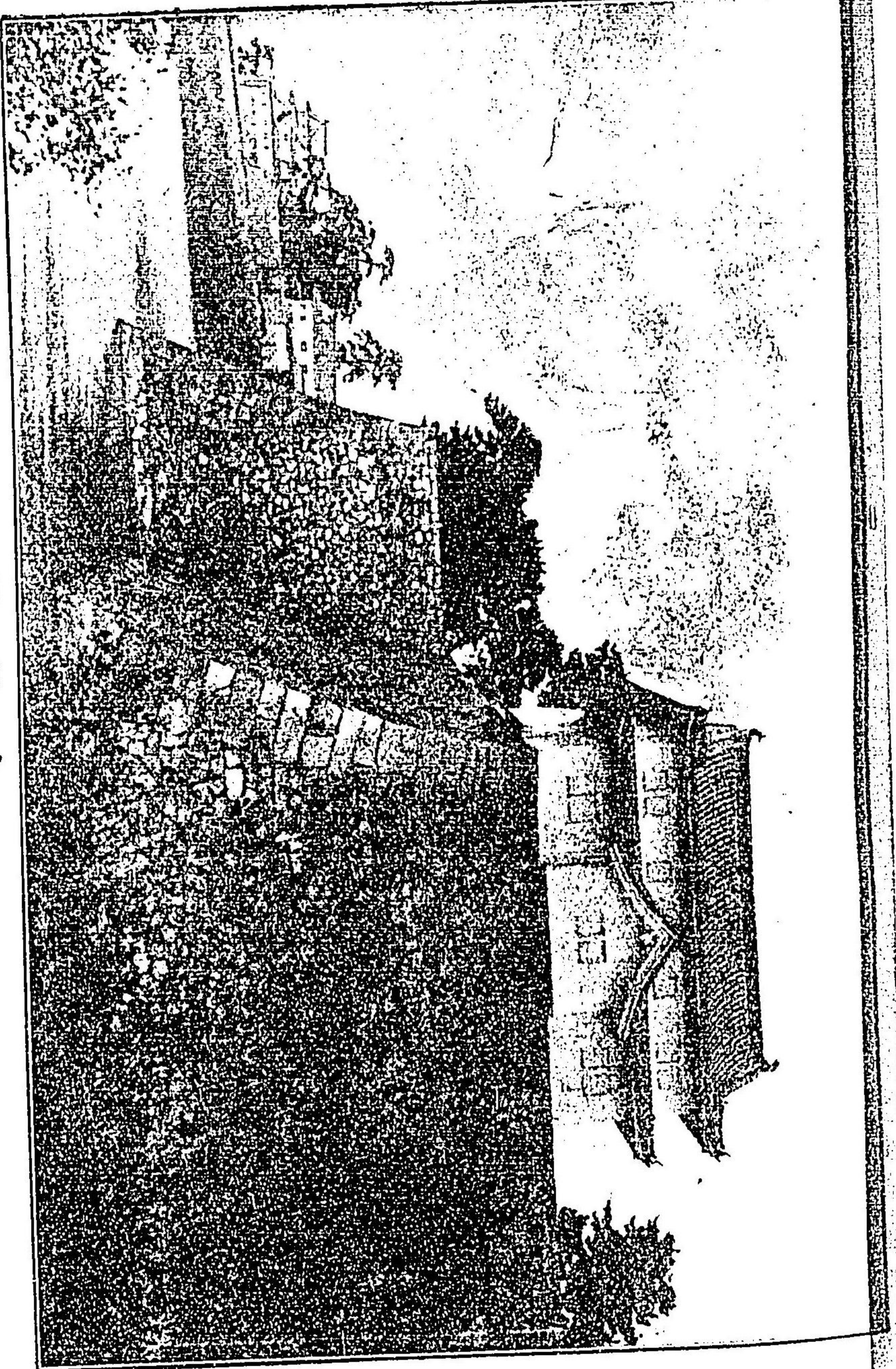


濱子舞州播



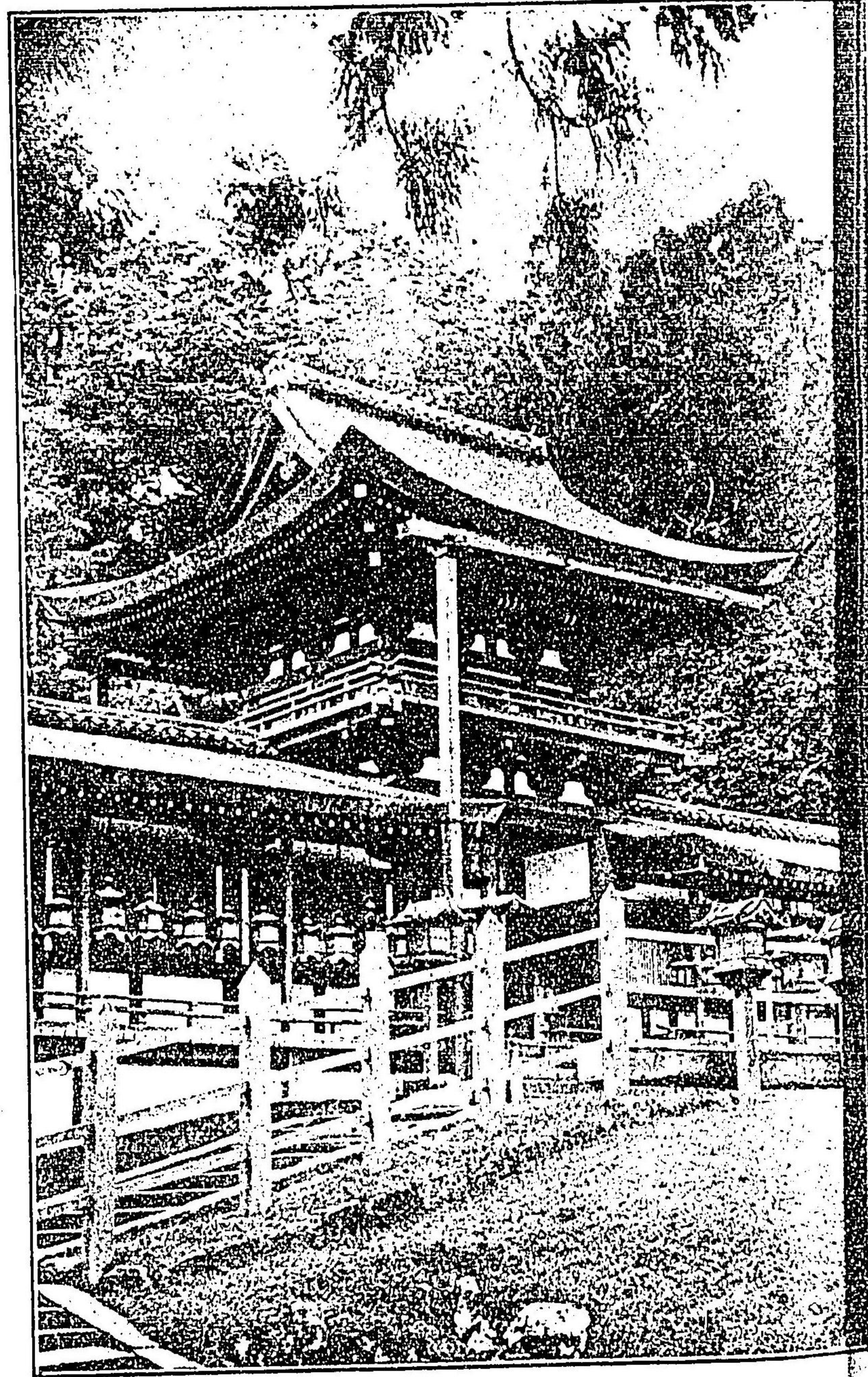
瀧引布戸神





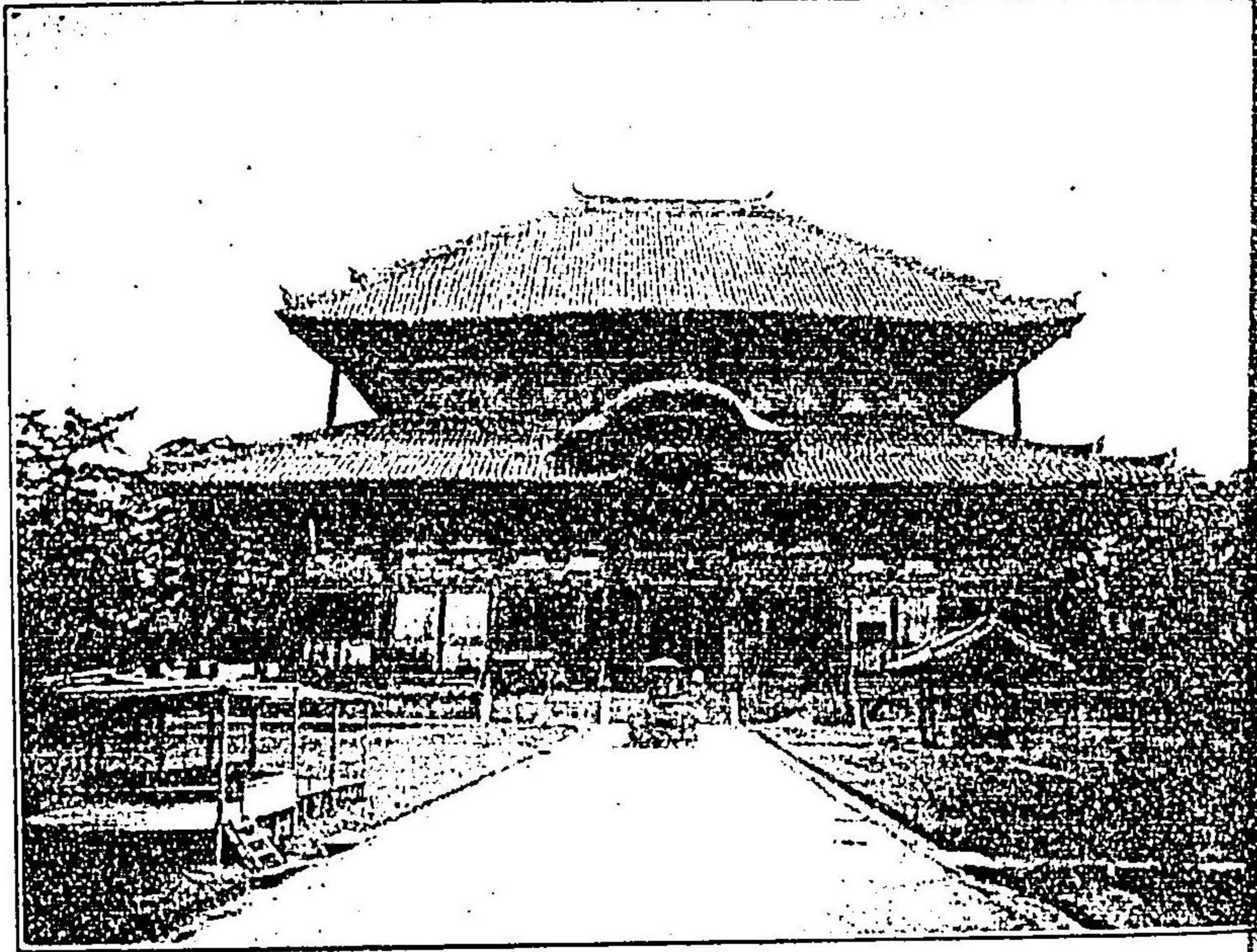
大坂城



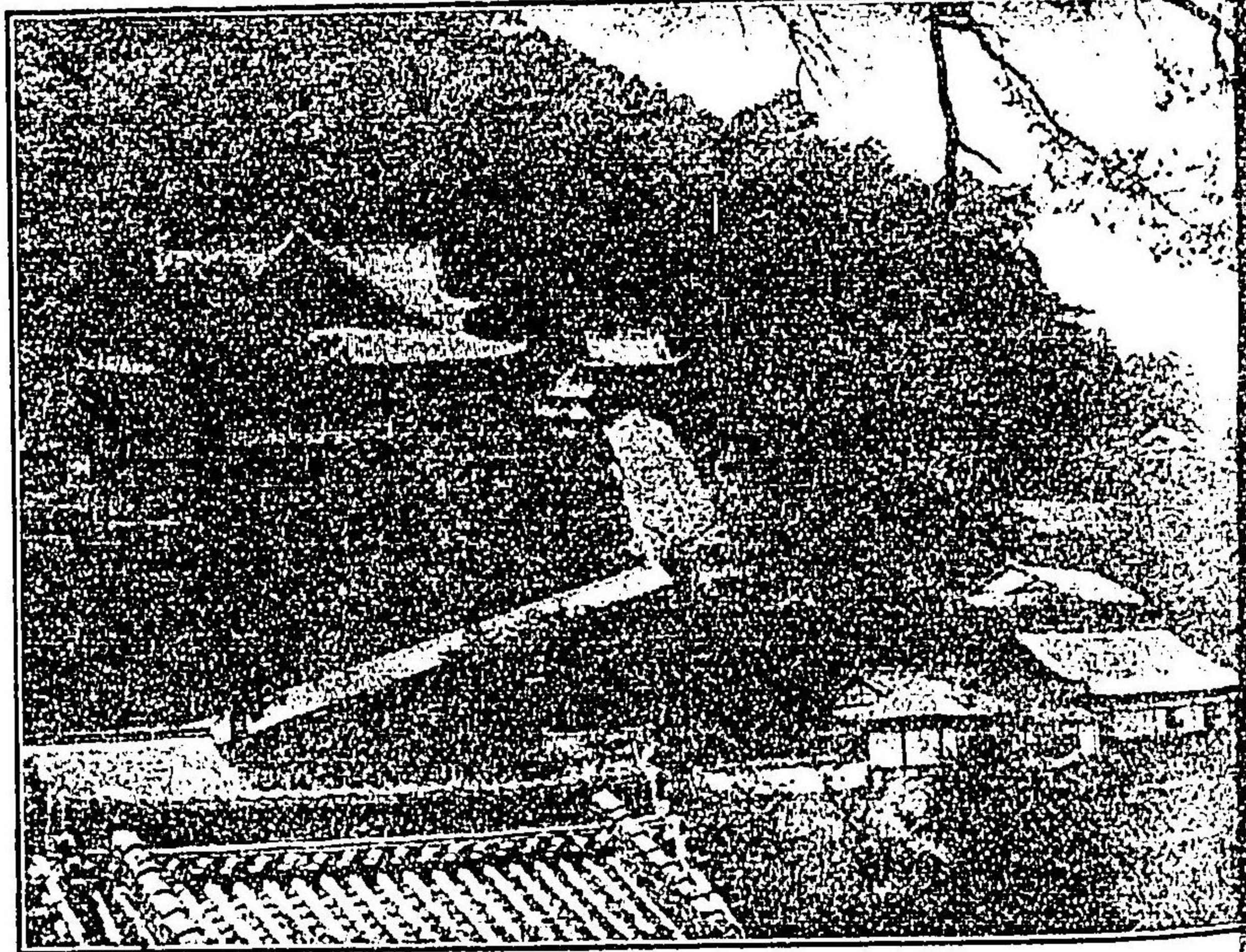


奈 頁 春 日 神 社



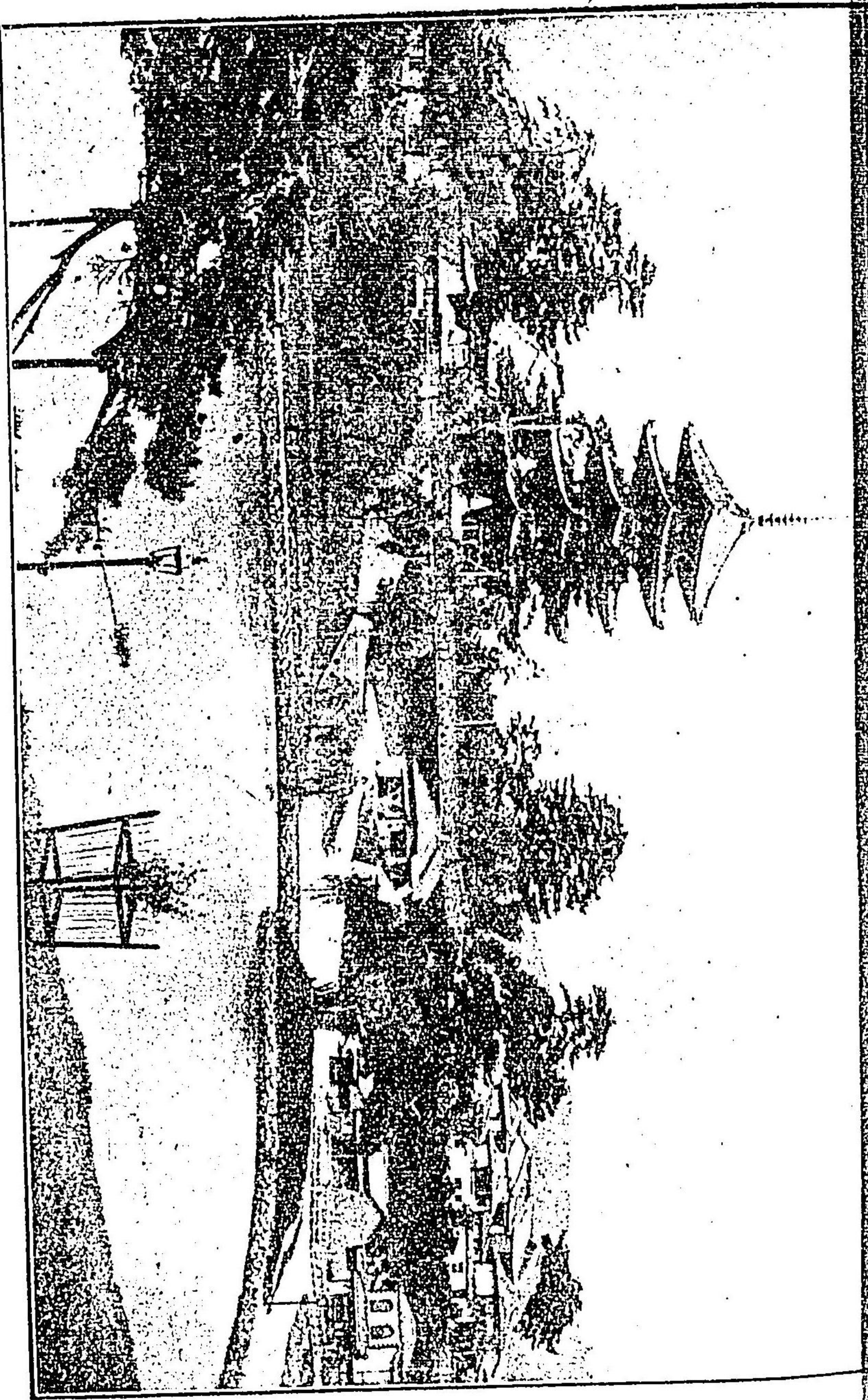


佛大瓦奈



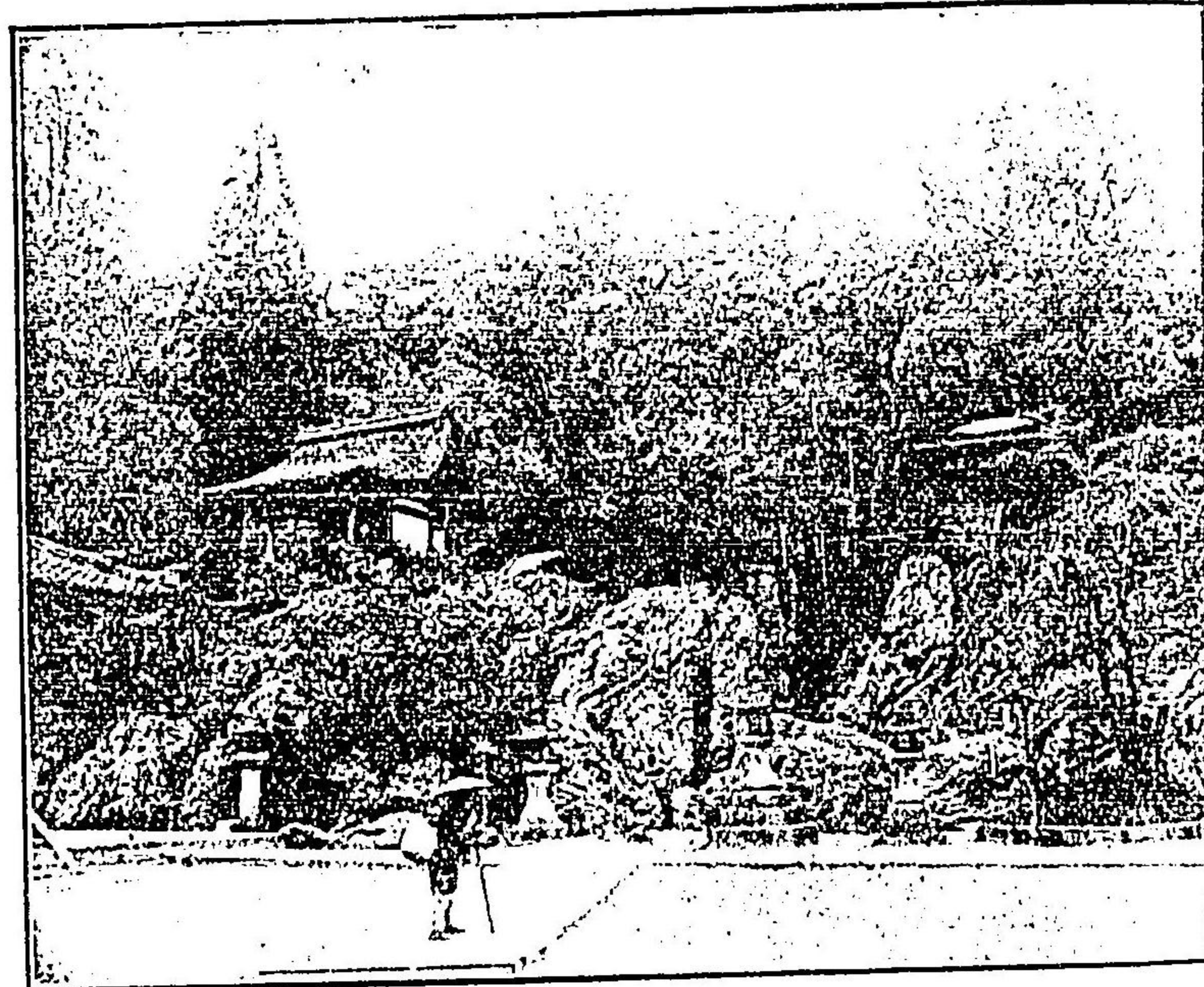
寺谷長和大



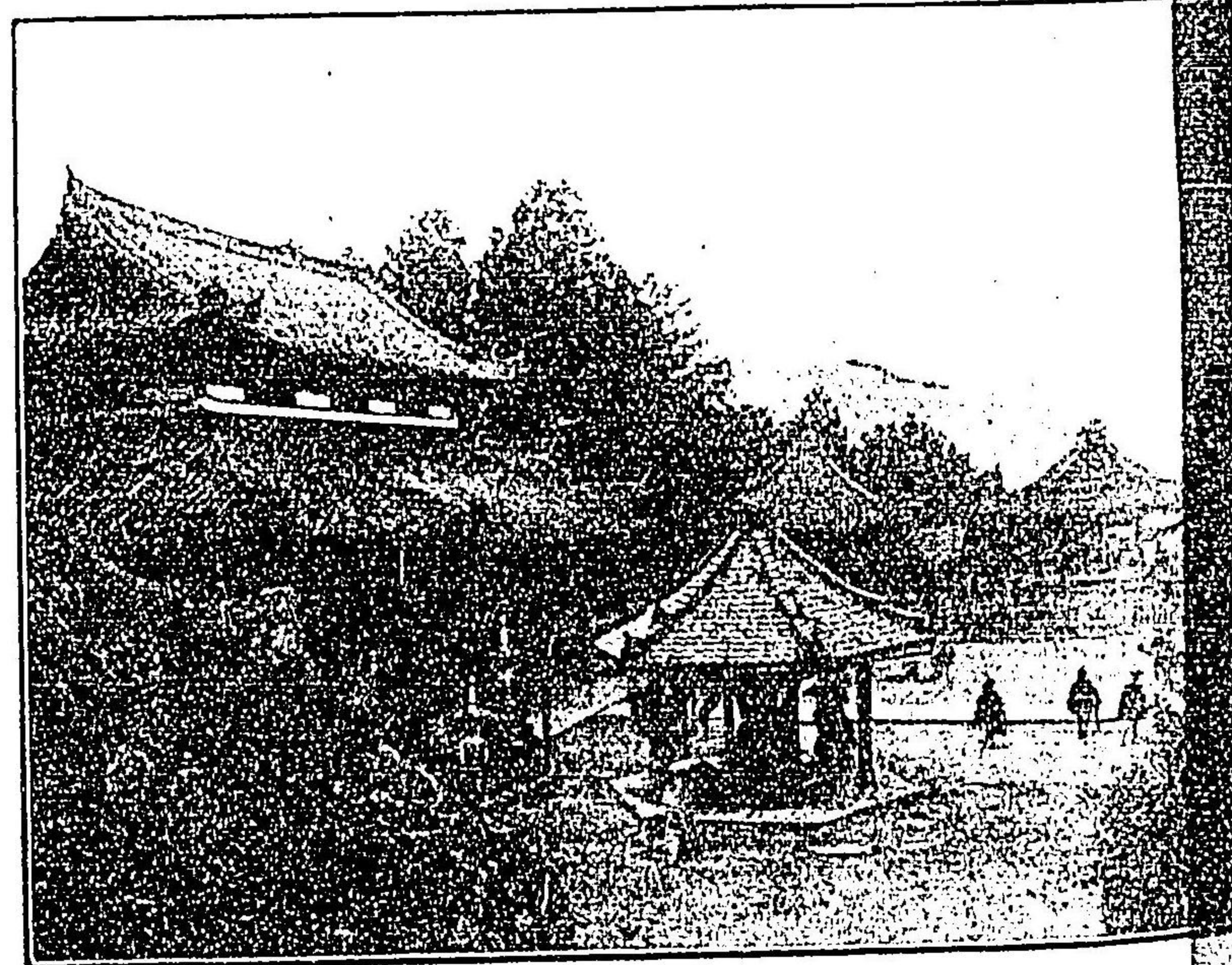


奈 瓦 猿 澤 池





石山寺

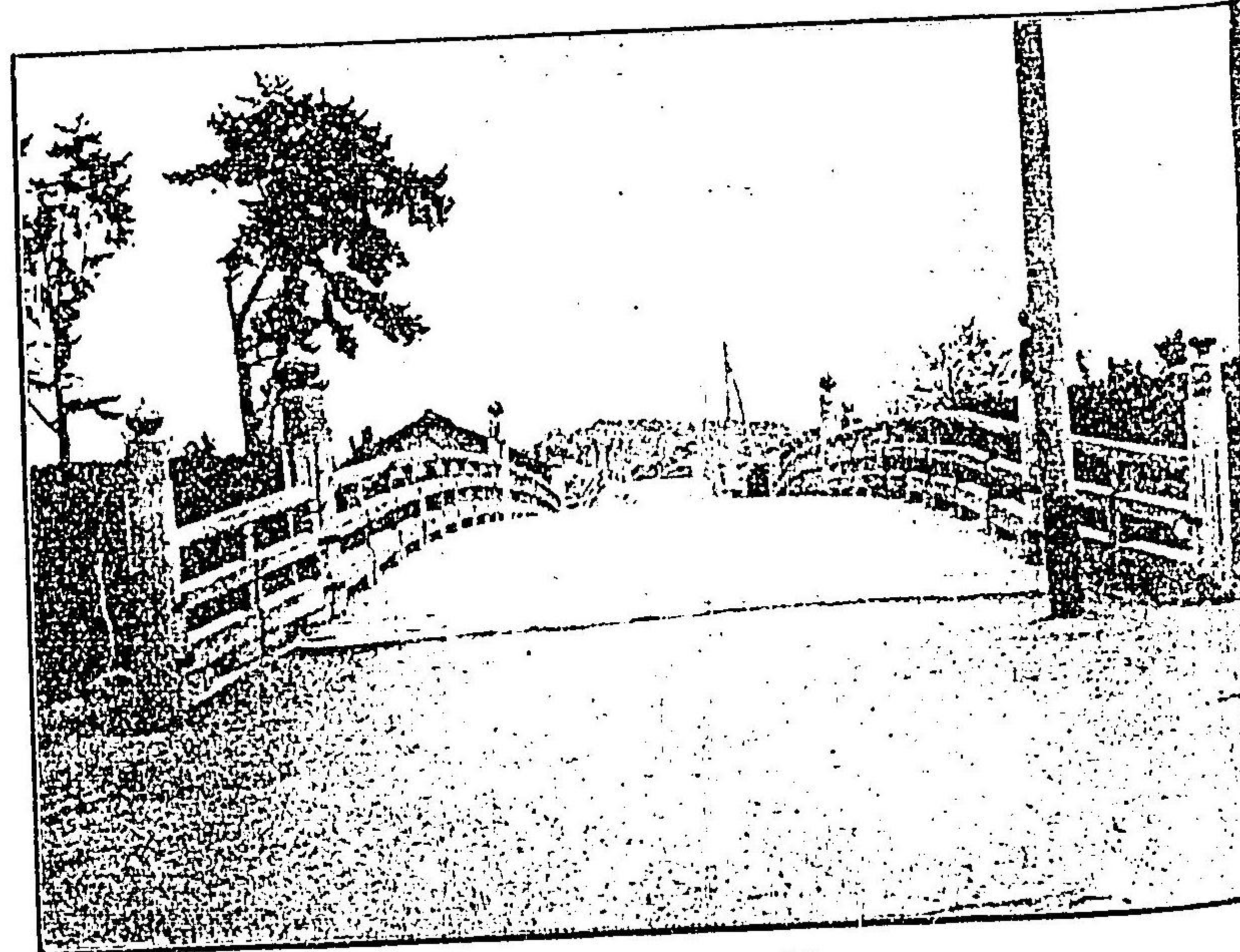


三井寺





松崎唐



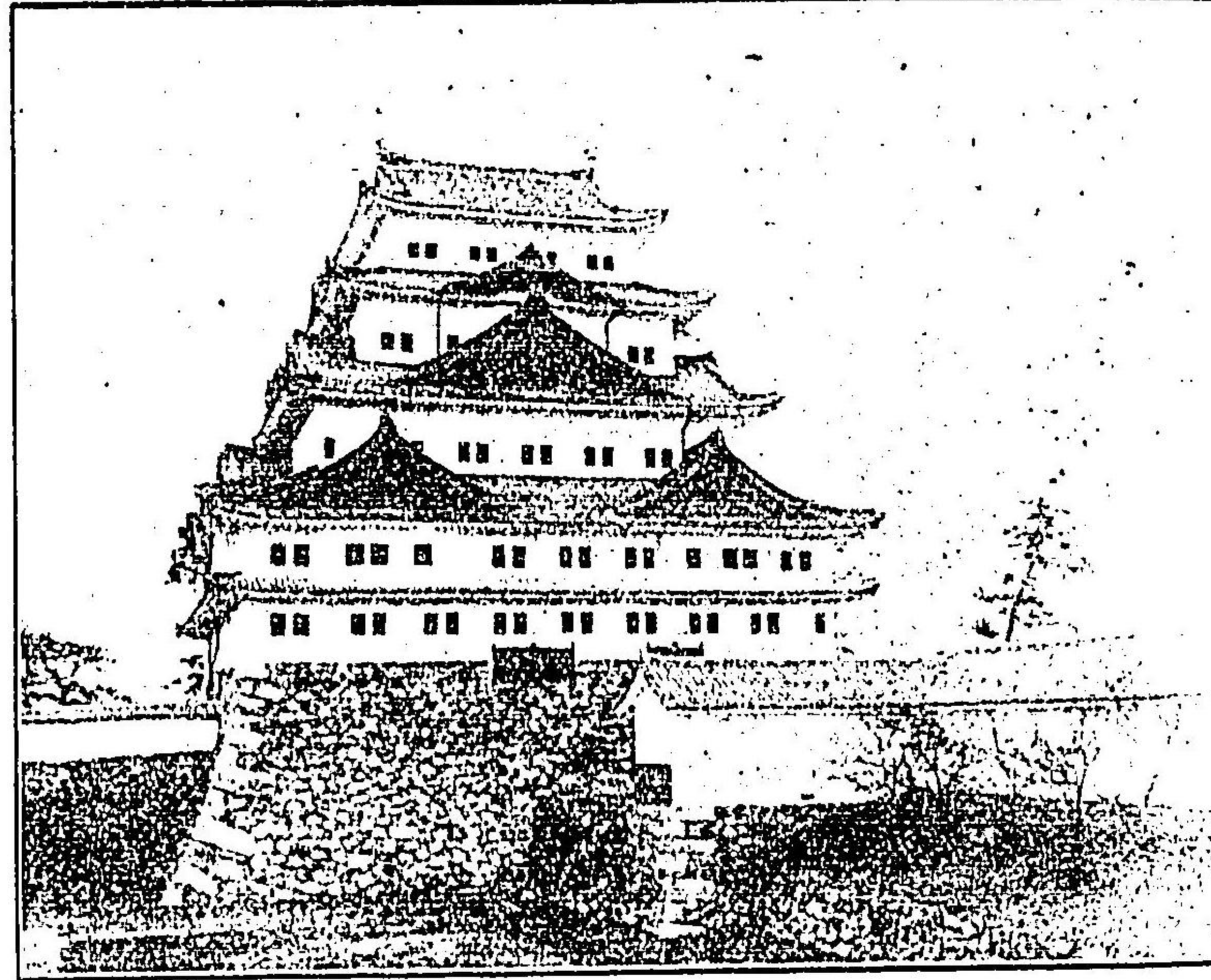
橋田瀬



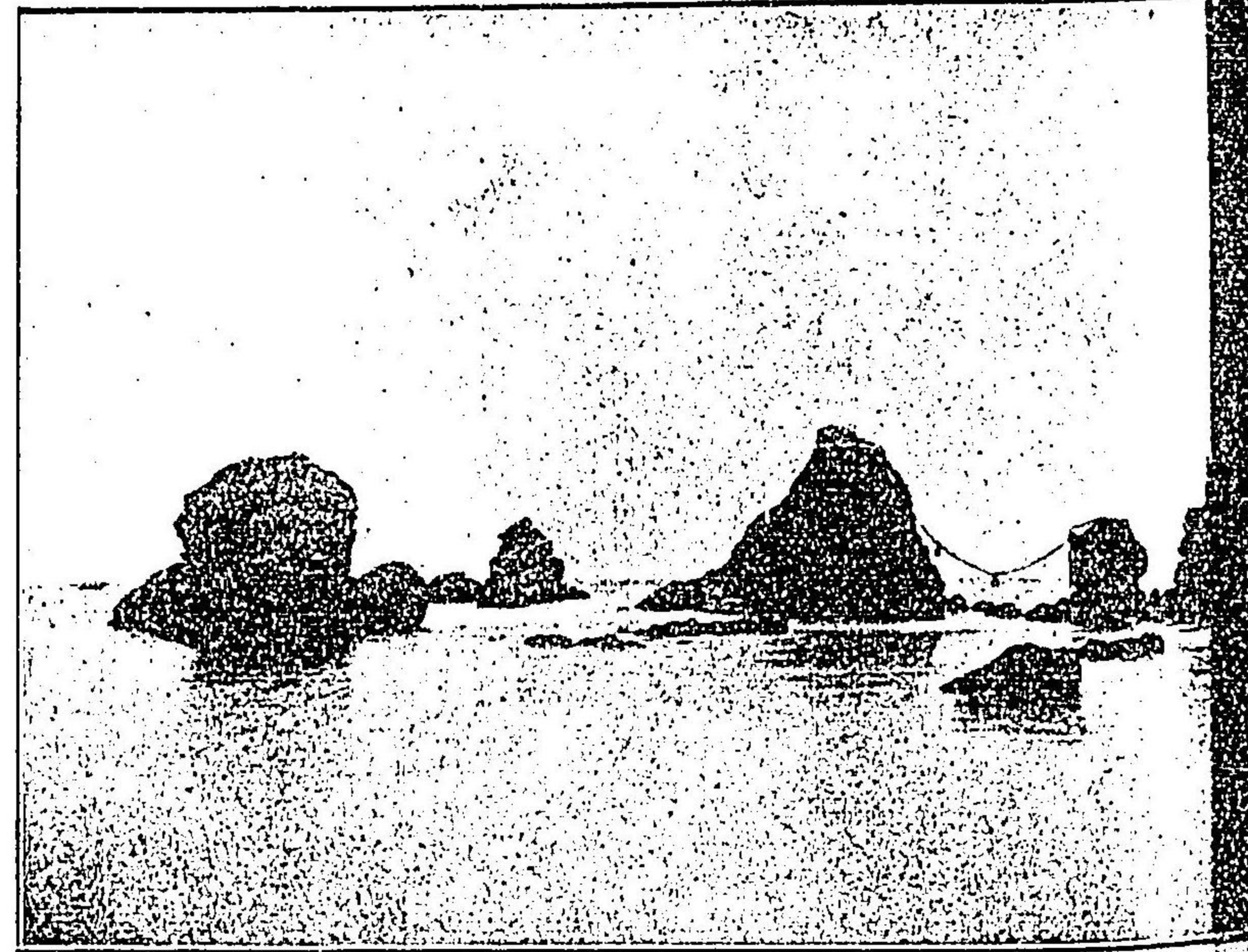


銅鞮川風長



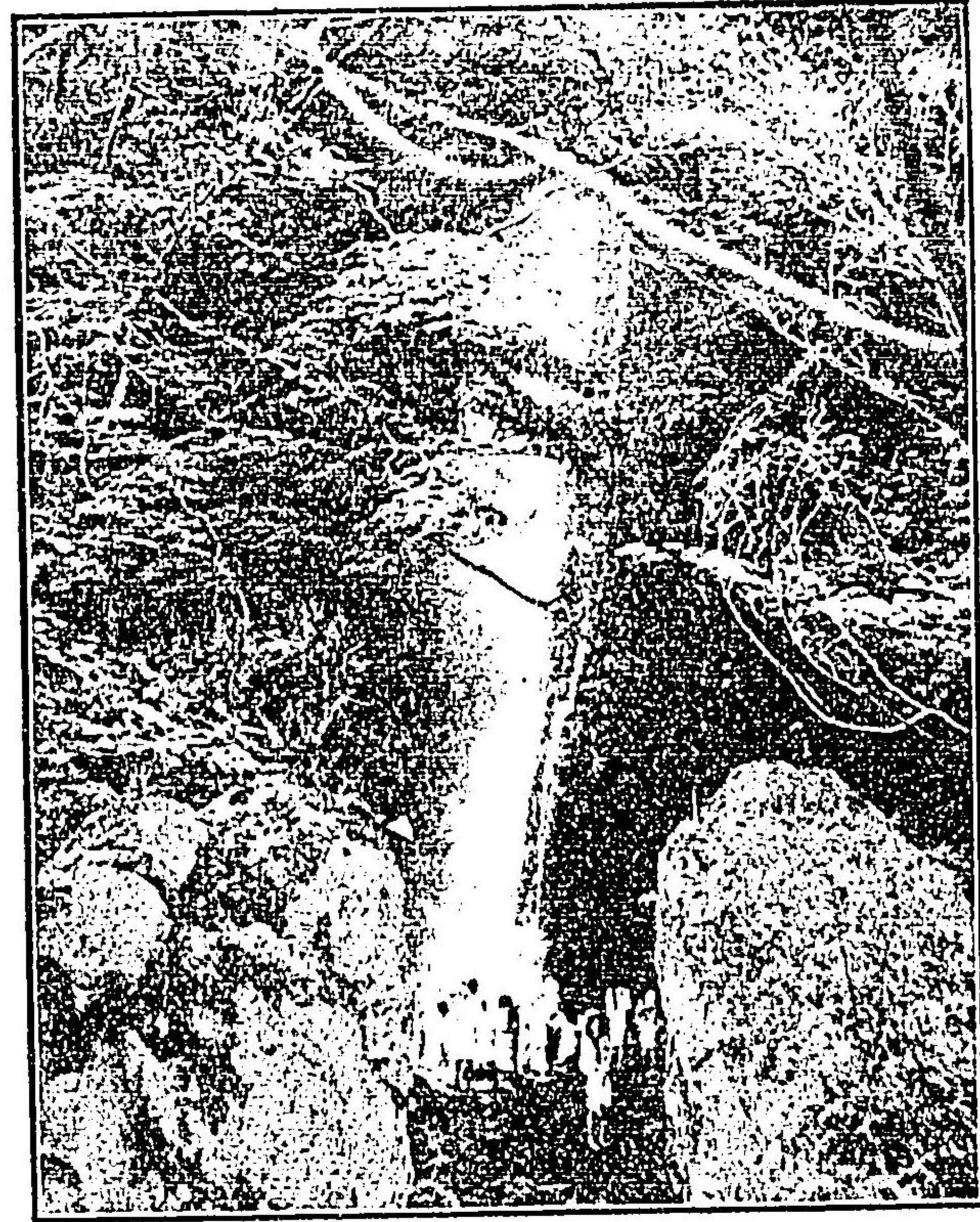


城屋古名

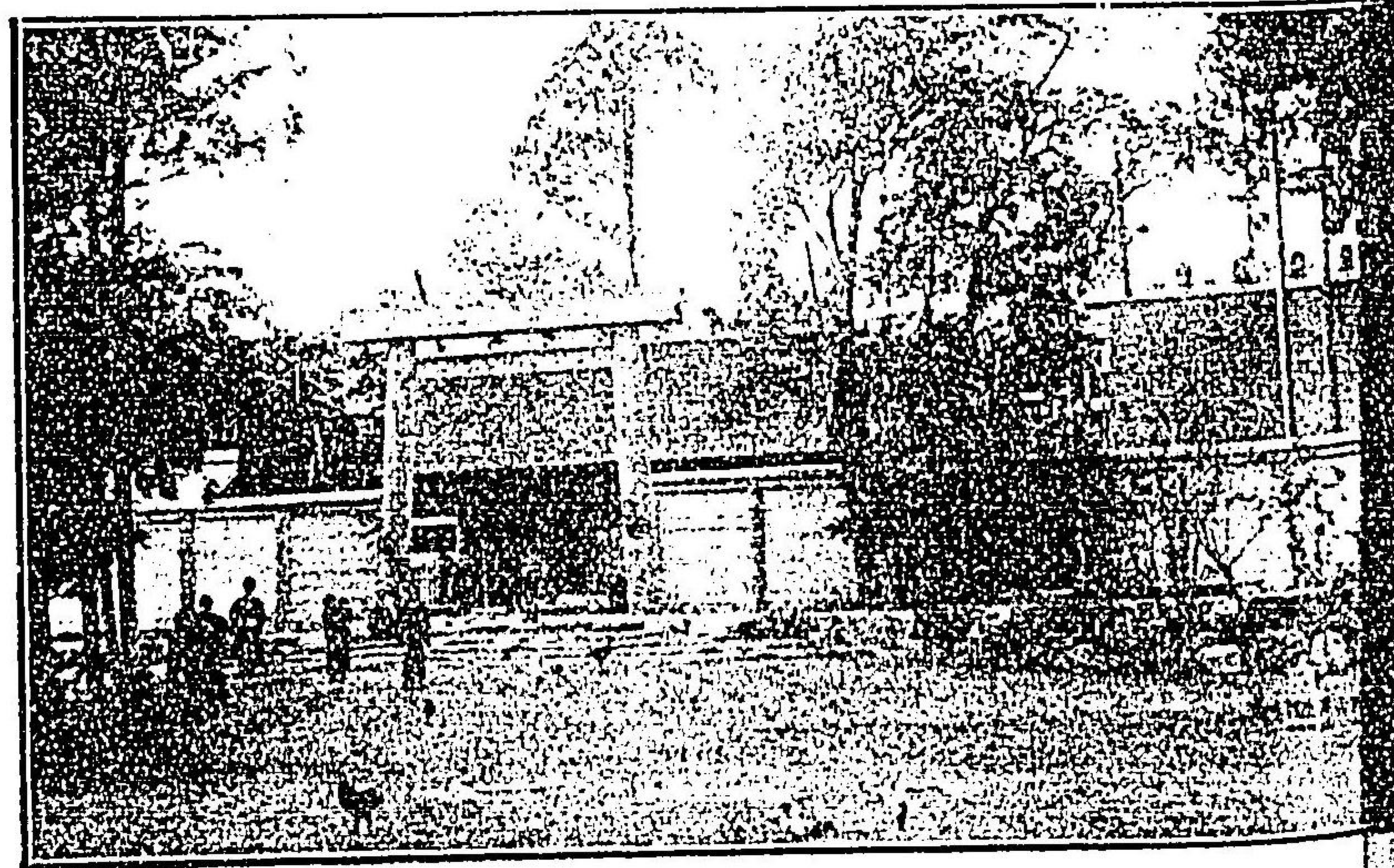


浦見二



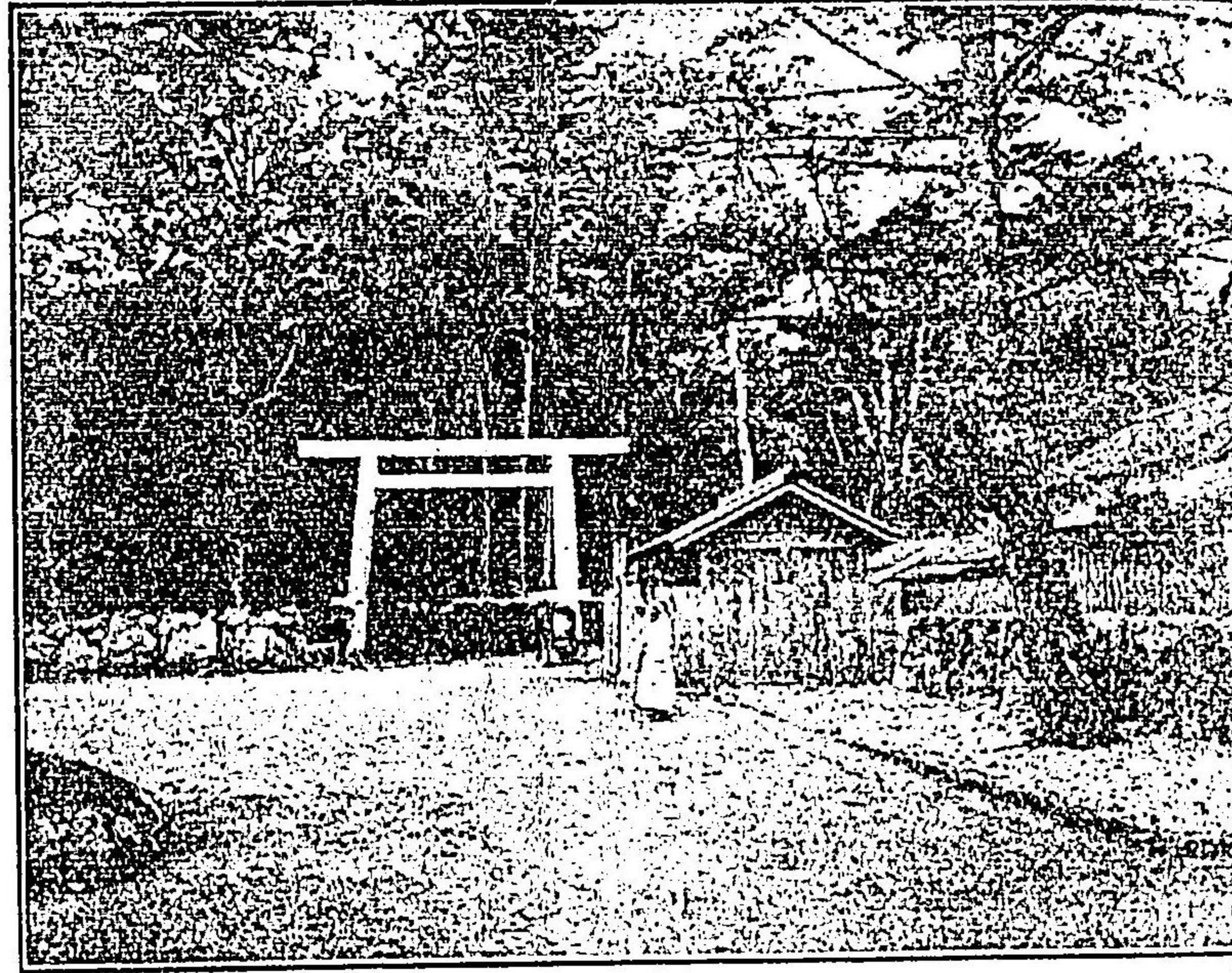


滝老養

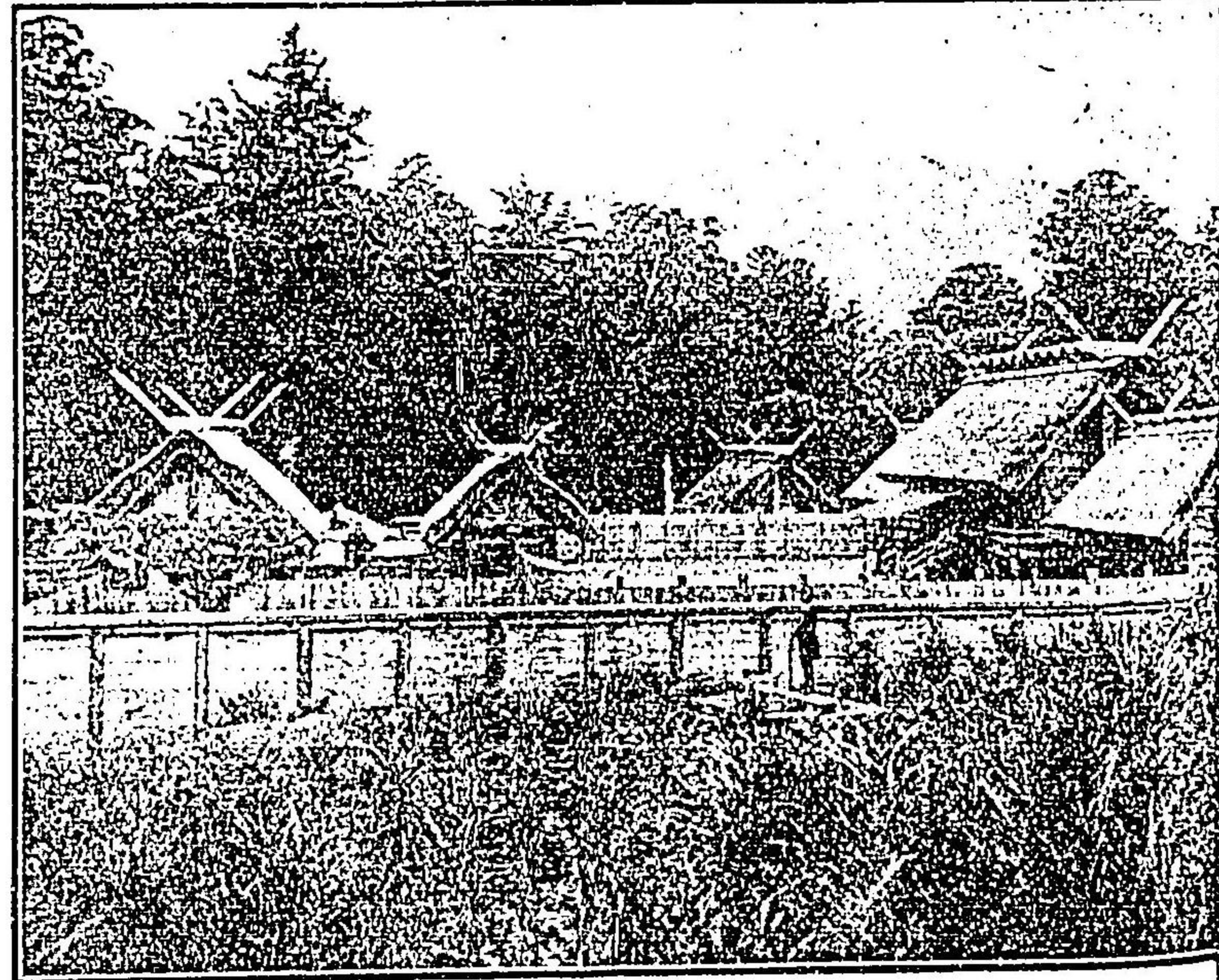


社神田熱



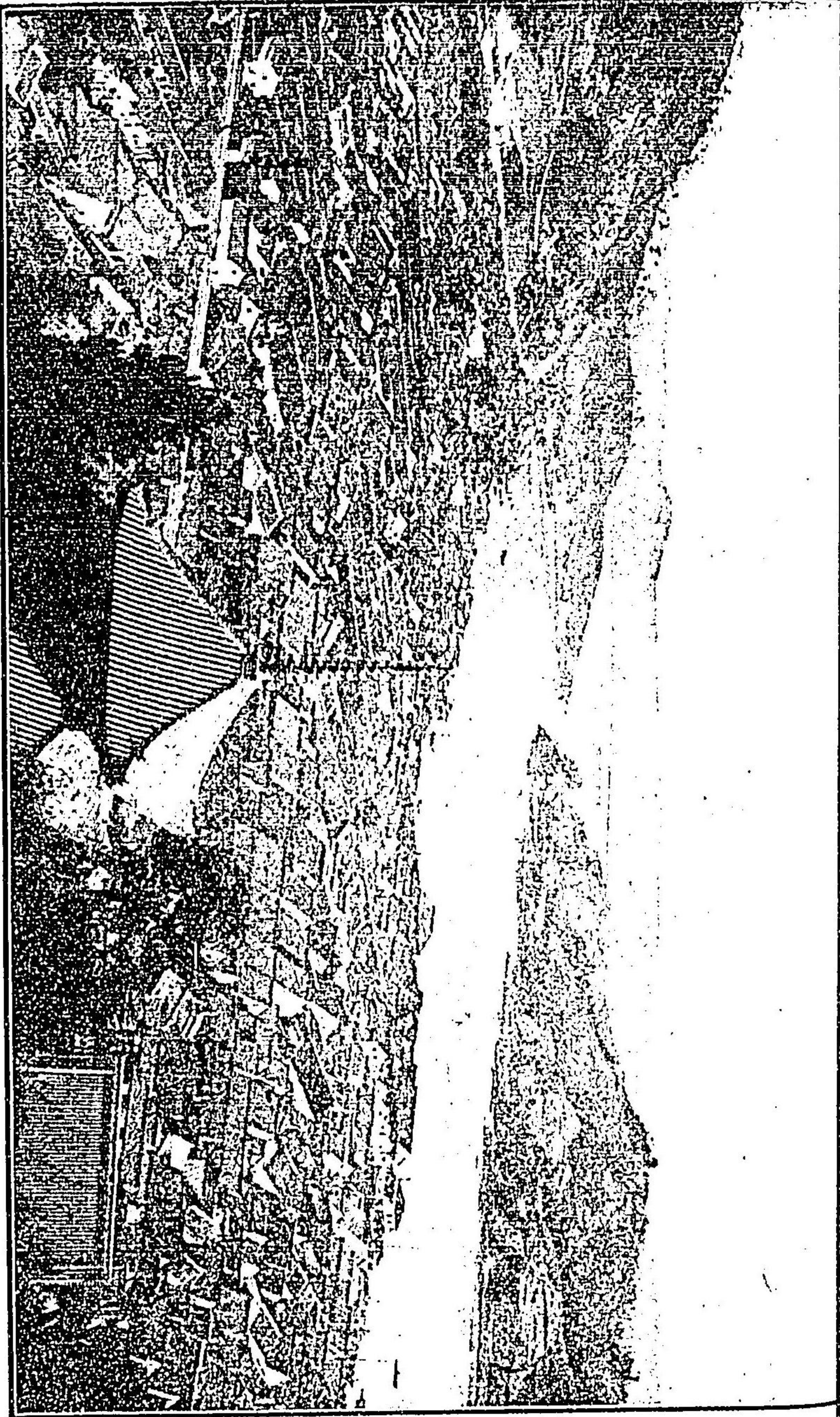


宮 内



宮 外





道 尾



天橋立



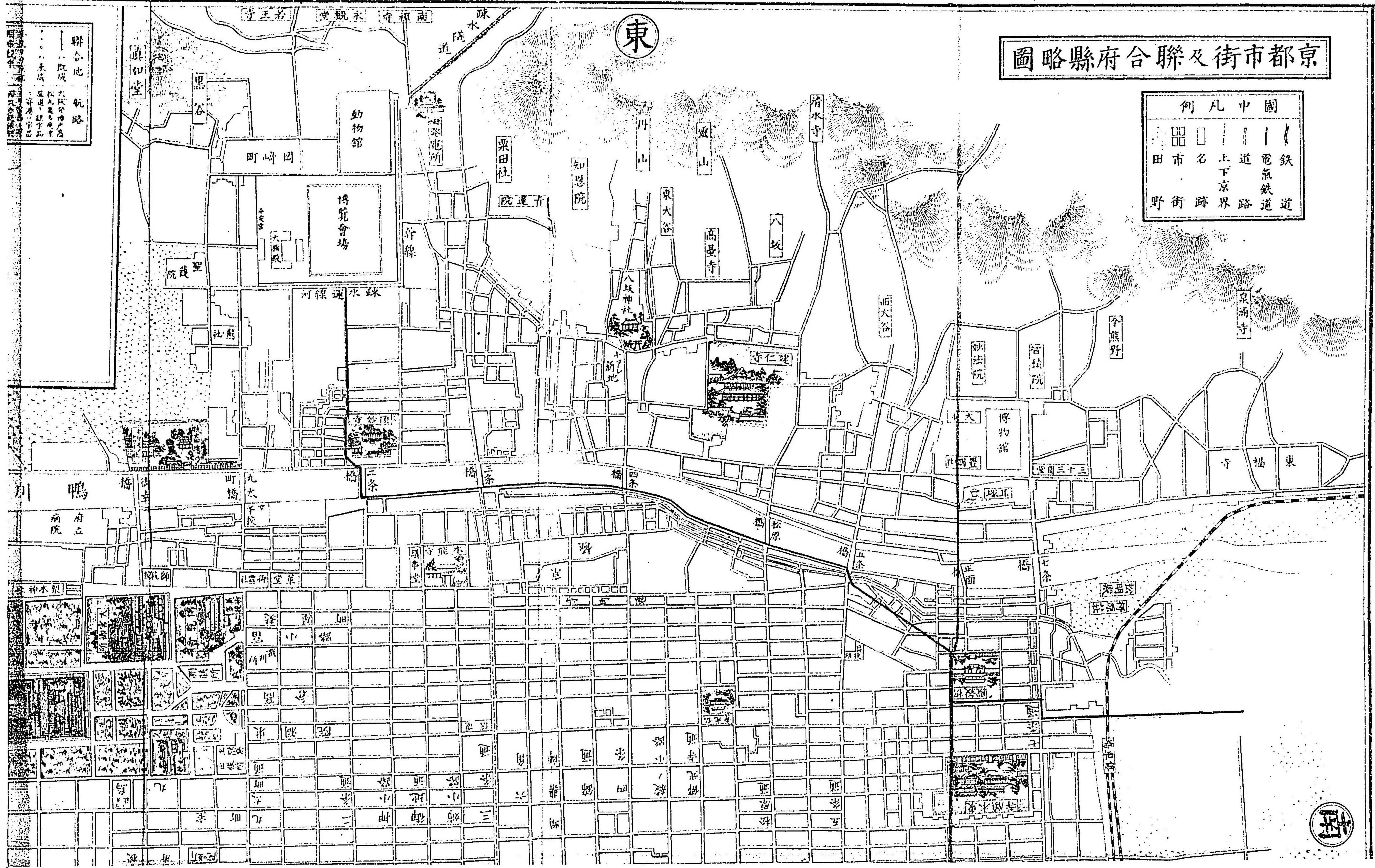


# 京都市街及聯合府縣略圖

圖中凡例

鐵道	電氣鐵道
道路	上下京界
市界	市界
田界	野街

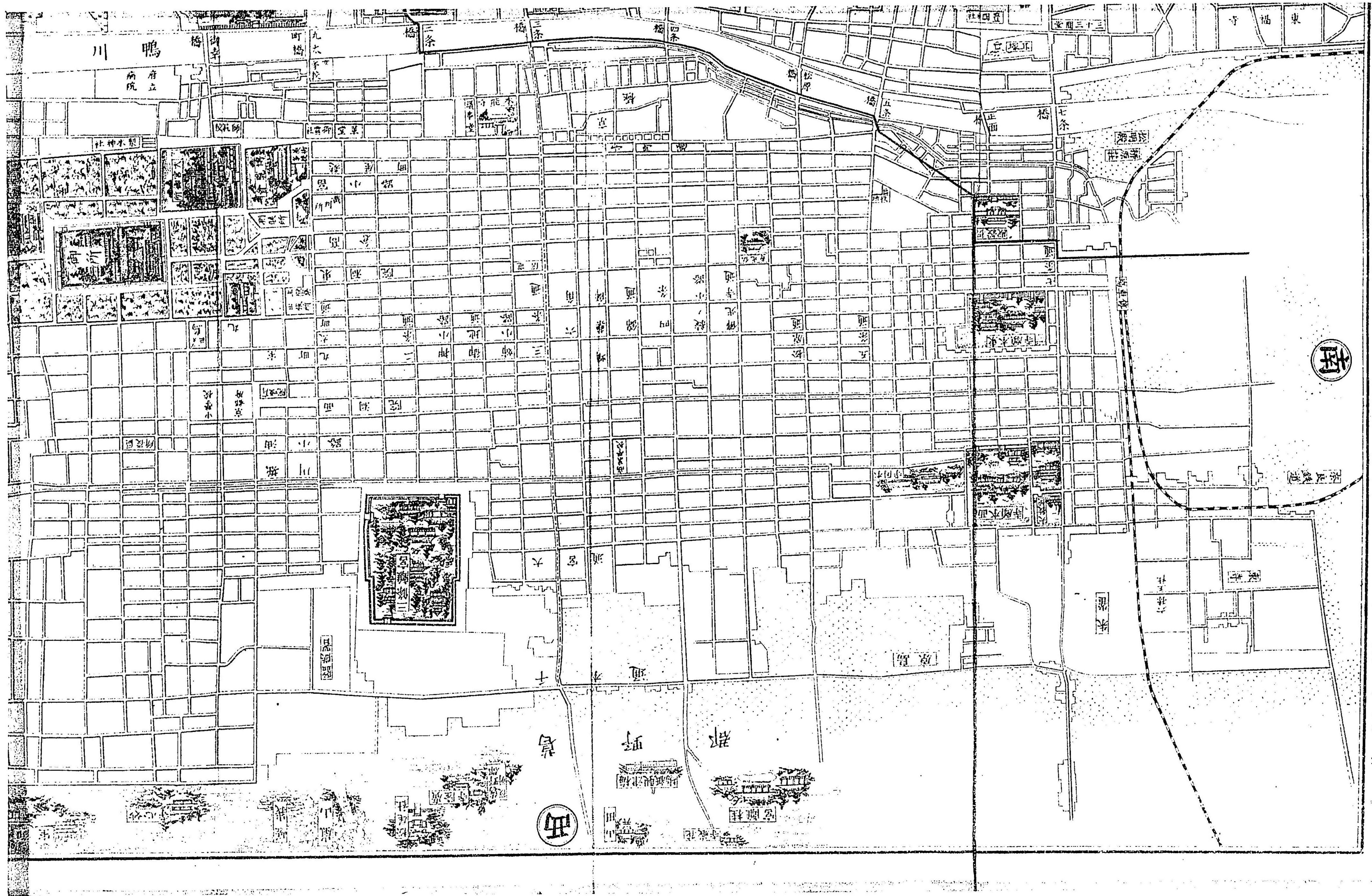
聯合地 航路  
 一 既成  
 二 未成  
 三 航路  
 四 航路  
 五 航路  
 六 航路  
 七 航路  
 八 航路  
 九 航路  
 十 航路











南

西

川鴨

府立病院

東福寺

東福寺

東福寺

東福寺

東福寺

東福寺

東福寺

東福寺

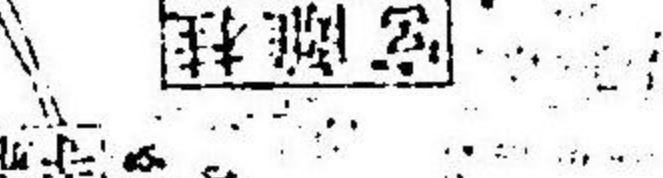
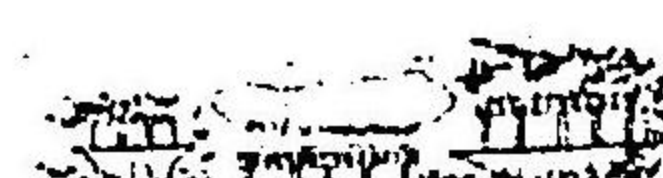
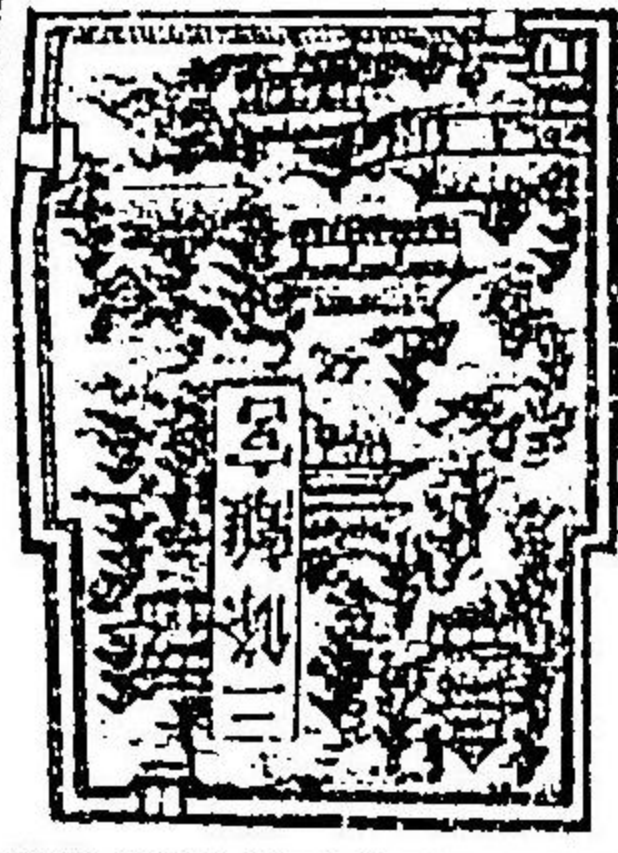
東福寺

東福寺

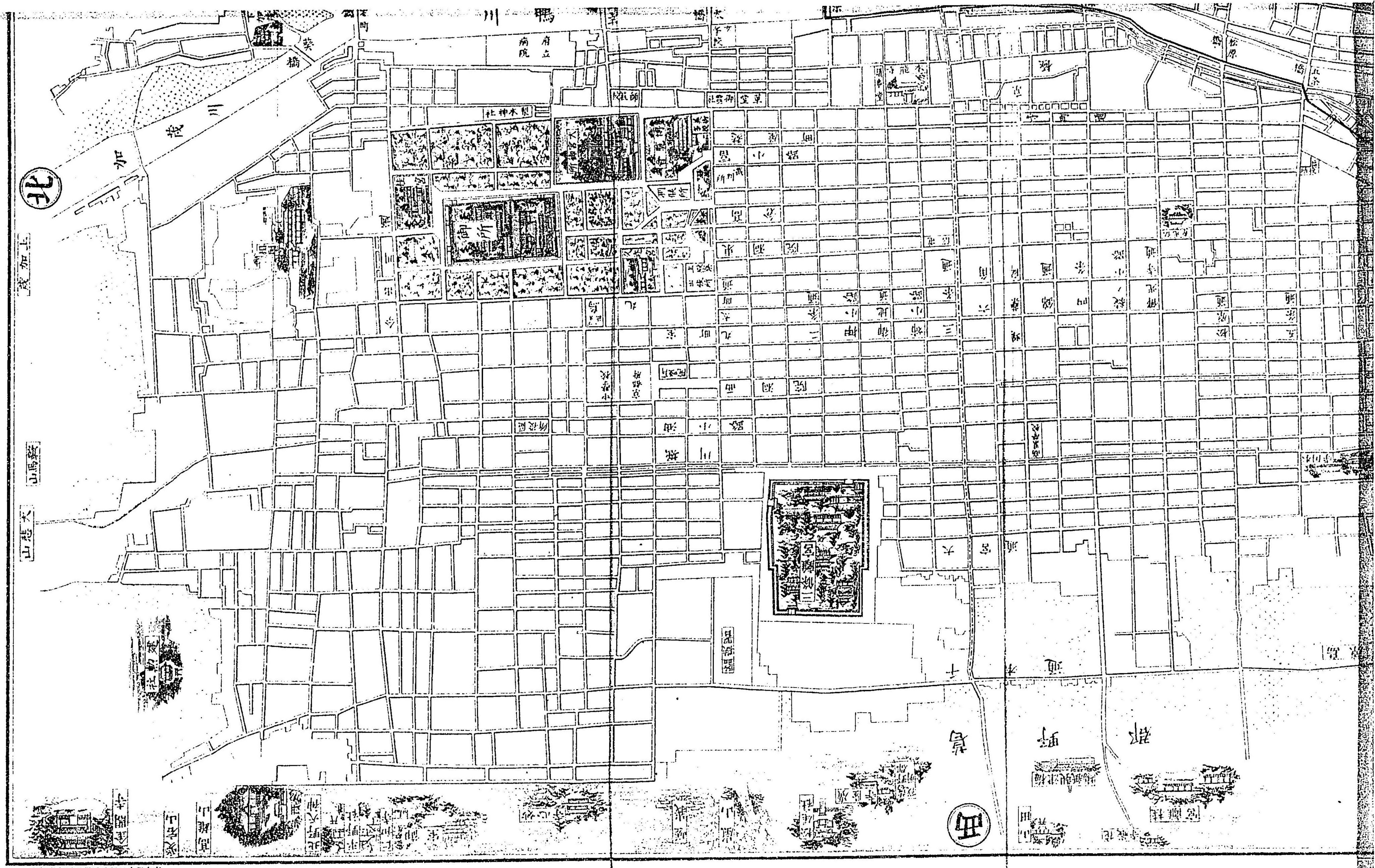
東福寺

東福寺

東福寺

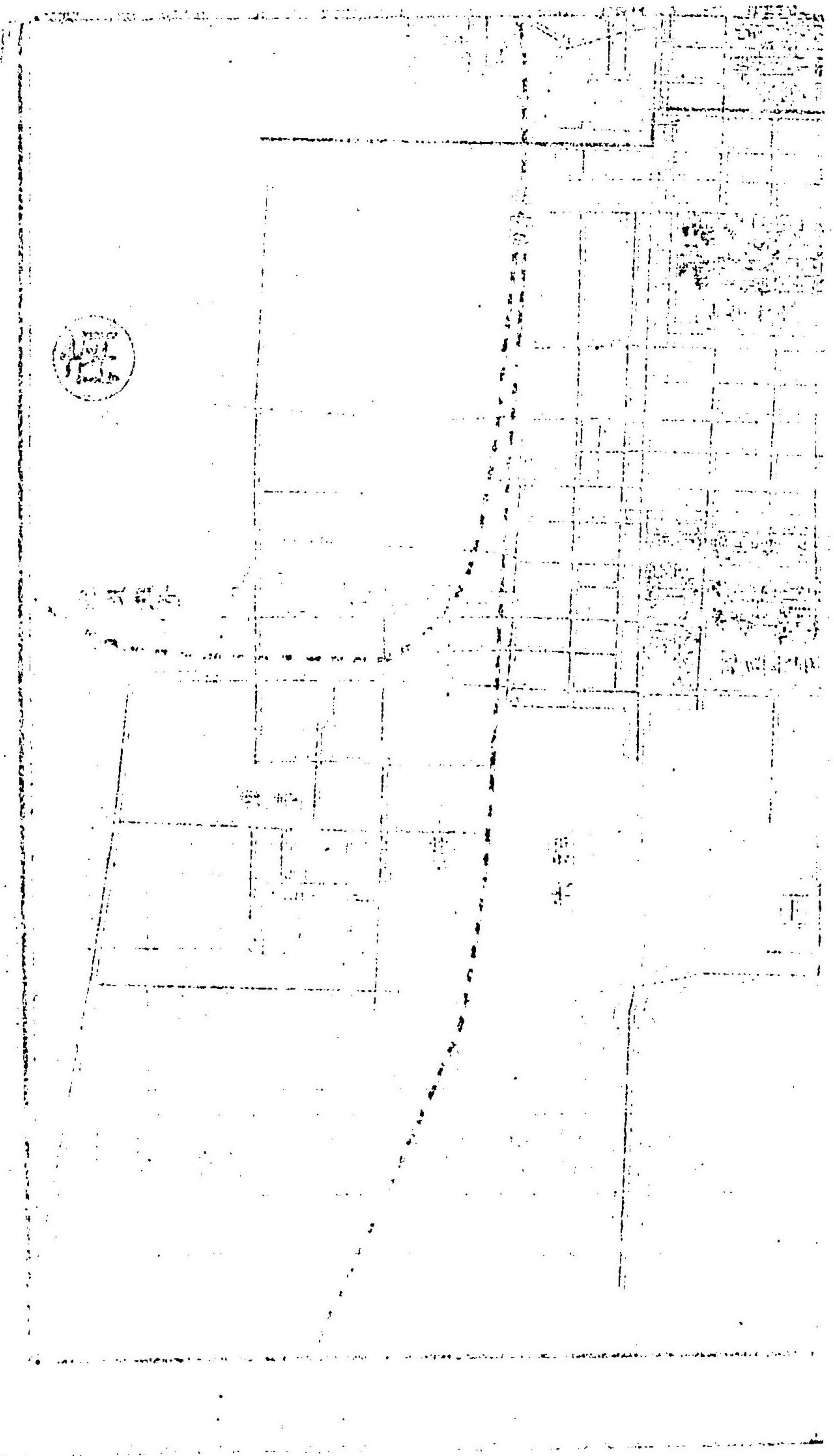






京都府京都市上三條区河原町





寫眞銅版口繪目次

目 次	
京都御所(紫宸殿)	東福寺通天橋
平安神宮(大極殿)	稻荷神社
第四回内國勸業博覽會	東本願寺
二條離宮	本願寺派本願寺
三條大橋	本國寺
四條橋	北野神社
圓山全景	平野神社
八坂神社	大德寺
都 囀	金閣寺
祇園祭禮	妙心寺
知恩院	嵐 山
清水	御室仁和寺
豐國神社	高 雄
三十三間堂	梅宮神社
	松尾神社
	粟生光明寺
	長岡天神
	平等院鳳凰堂
	伏見觀月橋
	男山八幡
	黃檗山萬福寺
	西大谷
	東大谷
	六角堂
	新京極
	南禪寺
	疏水インクライン
	永觀堂



若王子神社	大秦廣隆寺	奈良猿澤池
黑谷光明寺	嵯峨釋迦堂	石山寺
眞如堂	安藝嚴島	三井寺
吉田神社	岡山後樂園	唐崎松
銀閣寺	讚岐金刀比羅神社	瀬田橋
上加茂	播州舞子濱	長良川鵜飼
下加茂	神戸布引瀧	名古屋城
島原	大坂天王寺	二見浦
五條橋	住吉神社	養老瀧
本願寺大學寮	大阪城	熱田神社
同志社	奈良春日神社	内宮
東寺	奈良大佛	外宮
佛光寺	大和長谷寺	尾道
		天橋立

眞寫銅版口繪目次終

本編目次

1	次	目	頁數
		京都市總說	一
		京都御所	五
		御苑地	五
		仙洞御所	六
		平安神宮	六
		紀念殿	八
		第四回内國勸業大博覽會	一〇
		三條大橋	一〇
		中央部：上京	一一
		矢田地藏	一三
		天住寺	一三
		本能寺	一四
		妙滿寺	一四
		天主教會堂	一四
		水屋町	一四
		高瀬川	一四
		本誓寺	一五
		草堂	一五
		下御靈社	一五
		梨木神社	一五
		嵐山寺	一五
		清淨院	一七
		本禪寺	一七
		本満寺	一七
		佛陀寺	一七
		十念寺	一七
		阿彌陀寺	一七
		天寧寺	一八
		上善寺	一八
		閑臥庵	一八
		御靈社	一八
		五所八幡	一九
		相國寺	一九
		同志社	二〇
		妙顯寺	二〇
		妙覺寺	二一
		本法寺	二二
		大應寺	二二
		水天寺	二二
		聖靈寺	二二
		瑞光院	二二
		七野社	二三
		妙蓮寺	二三
		報恩寺	二三
		白峯神社	二四
		本隆寺	二四
		四陣	二四
		千本船覽堂	二五
		釋迦堂	二五
		慈眼寺	二五
		淨福寺	二五
		清和院	二六
		轉法輪寺	二六
		立本寺	二六
		五番町	二六
		内野	二六
		晴明神社	二七
		一條戻橋	二七
		護王神社	二七
		二條離宮	二七
		神泉苑	二七



中央部 下京

中央部 下京	二八
瑞泉寺	二八
先斗町	二八
新京極	二八
醫願寺	三〇
齋心院	三一
齋藥師	三一
安養寺	三一
錦天神	三一
金蓮寺	三二
大雲院	三二
淨教寺	三二
聖光寺	三三
五條大橋	三三
七修新地	三三
御影堂	三四
本覺寺	三四
來迎堂	三五
蓮光寺	三五
長講堂	三五
白毫寺	三六
市中山金光寺	三六
市姫神社	三六

洛東部

東本願寺	三六
枳殼邸	三九
七條道場	四〇
七條停車場	四〇
東寺	四〇
羅城門の舊跡	四一
六孫王社	四二
島原	四二
四本願寺	四五
興正寺	四八
本國寺	四八
壬生寺	五一
五條天神	五二
菅大臣社	五二
空世堂	五二
因幡藥師	五二
佛光寺	五三
六角堂	五四
稻荷神社	五四
東福寺	五五
泉涌寺	五七
新熊野觀世音	五八

即成院	五八
劍の宮	五八
新熊野神社	五九
養源院	五九
智積院	五九
三十三間堂	五九
帝國京都博物館	六〇
豐國神社	六一
大佛殿方廣寺	六一
耳塚	六二
妙法院	六二
小松谷正林寺	六四
四大谷	六四
清閑寺	六五
清水寺	六五
經音堂	六七
臨堂	六七
子安觀音	六八
六波羅密寺	六八
六道珍皇寺	六八
宮川町	六八
惠美須神社	六九
建仁寺	六九

目次

安非神社	七〇
八坂塔	七一
庚申堂	七一
招魂社	七一
靈山正法寺	七一
高壘寺	七二
双林寺	七四
女御田	七四
東大谷	七四
長樂寺	七五
安養寺	七五
知恩院	七五
將軍塚	七九
栗田青蓮院	七九
植髮御影堂	八一
圓山公園	八一
八坂神社	八一
祇園新地	八三
四條大橋	八四
四條大橋	八五
四條河原の納涼	八五
檀王法林寺	八六
頂妙寺	八六

要法寺	八六
妙傳寺	八六
栗田神社	八六
御嶽堂	八六
熊野神社	八七
聖護院	八七
滿願寺	八七
琵琶湖疏水運河	八八
雨禪寺	九〇
金地院	九一
永觀堂	九一
若王子神社	九二
光雲寺	九二
靈鑑寺	九二
談合谷	九二
安樂寺	九二
法然院	九三
如意ヶ嶽	九三
黒谷光明寺	九三
眞如堂	九五
大興寺	九六
迎稱寺	九六
東北院	九六

吉田神社	九六
百萬遍	九七
千榮寺	九八
銀閣寺	九八
將軍地蔵	〇〇
北山御坊	〇〇
金福寺	〇〇
詩仙堂	〇〇
圓光寺	〇〇
曼珠院門跡	〇〇
雲母坂	〇〇
叡山	〇〇
修學院離宮	〇〇
赤山社	〇〇
寶幢寺	〇〇
御蔭社	〇〇
八潮天神社	〇〇
魚山勝林寺	〇〇
淨蓮院	〇〇
魚山三千坊	〇〇
音無の瀧	〇〇
古知谷阿彌陀寺	〇〇
寂光院	〇〇



目次

北加茂川	一〇四
加茂御祖神社	一〇五
松ヶ崎水清寺	一〇六
松ヶ崎妙泉寺	一〇六
三宅八幡	一〇六
岩倉寶相院	一〇六
大慈山定峯寺	一〇七
鞍馬寺	一〇七
由岐神社	一〇八
寶船神社	一〇八
大悲山圓通寺	一〇八
御菩薩池	一〇九
加茂別當神社	一〇九
岩屋山金峯寺	一〇九
棧敷ヶ嶽	一一〇
正傳寺	一一〇
北西	一一〇
今宮神社	一一〇
大徳寺	一一一
舟岡山	一一一
建勸神社	一一三

鏡石	一一三
金剛寺	一一三
平野神社	一一五
北野神社	一一五
上七軒	一一六
掃笠山	一一七
龍安寺	一一七
等持院	一一八
妙心寺	一一八
法金剛院	一二二
双の岡	一二二
御室仁和寺	一二二
五智山	一二四
梅尾山高山寺	一二四
横尾山西明寺	一二五
高雄山神隱寺	一二五
廣澤池	一二六
大澤池	一二七
大覺寺	一二七
清涼寺	一二七
五大堂	一二八
三塔	一二八

金性院	一二九
八宗論池	一二九
祇王寺	一二九
三寶寺	一二九
靜息院	一二九
愛宕神社	一二九
月輪寺	一三〇
水尾山寺	一三〇
小倉山二尊院	一三〇
長明神社	一三一
定家卿の山莊	一三一
常寂寺	一三一
野の宮	一三一
天龍寺	一三二
臨川寺	一三二
鹿王院	一三四
小督寮	一三四
法輪寺	一三五
嵐山	一三五
車折神社	一三六
太秦廣隆寺	一三七
木島神社	一三八

目次

西南	一三九
長福寺	一三九
梅宮神社	一三九
松尾神社	一四〇
月讀社	一四〇
明智坊の像	一四〇
西芳寺	一四一
淨住寺	一四一
桂離宮	一四一
西山御坊	一四一
大福寺	一四一
大原野神社	一四二
勝持寺	一四二
長岡の舊都	一四三
四岩藏金藏寺	一四三
西山三結寺	一四四
西山善養寺	一四五
小巖山十輪寺	一四五
粟生光明寺	一四六
長法寺	一四七
奥海印寺	一四七
楊谷彌音	一四七
乙訓寺	一四八

向日神社	一四八
眞經寺	一四八
師海印寺	一四九
長岡天満宮	一四九
天王山	一四九
寶寺	一四九
千利休の茶亭	一五〇
離宮八幡宮	一五〇
男山神社	一五〇
遊	一五一
光福寺	一五二
鷲尾堂	一五二
福田寺	一五二
吉祥院	一五二
寶相寺	一五三
戀塚	一五三
安樂壽院	一五三
城南神社	一五四
北向不動院	一五四
法傳寺	一五四
寶塔寺	一五四
桓武天皇陵	一五五
藤森神社	一五五

東南	一五六
盤染	一五六
欣淨寺	一五六
伏見町	一五七
巨椋地	一五八
榎本八幡	一五八
六地藏	一五八
安祥寺	一五九
毘沙門堂門跡	一五九
諸羽神社	一六〇
牛尾山法嚴寺	一六〇
元慶寺	一六〇
田村將軍塚	一六一
大石良雄の舊跡	一六一
兩本願寺別院	一六一
勸修寺門跡	一六一
隨心院門跡	一六一
醍醐寺	一六二
三寶院門跡	一六四
田養の地蔵	一六四
一言寺	一六四
黄檗山萬福寺	一六四
日野樂師	一六五







漆器	二〇六
銅器及金器	二〇五
清水燒	二〇五
栗田燒	二〇五
陶磁器	二〇五
引磁器	二〇五
紫染	二〇五
紺染	二〇四
受染	二〇四
中形紺染	二〇四
紅染	二〇四
絲綢諸色染	二〇四
茶染	二〇三
幽禪染	二〇三
染物	二〇三
刺繡	二〇三
木綿織	二〇二
天鵝絨織	二〇二
博多織	二〇二
縮緬織	二〇二
羅子織	二〇一

團扇、扇子	二〇六
銅七寶燒	二〇六
既弄器	二〇六
絲組物	二〇七
金銀箔及金銀絲押箔	二〇七
外國輸出品	二〇七
商工業組合	二〇八
神社	二〇八
寺院	二〇九
官衙學校公會其他	二〇九
銀行及會社	二〇九
文人墨客	二〇九
大阪府	二一三
大阪市	二一四
高麗橋	二一五
大阪城	二一五
三大橋	二一六
網島	二一六
櫻の宮	二一六
造幣局	二一七

天満の天神	二二七
中島公園	二二七
大融寺	二二七
北の新地	二二八
堂島	二二八
津村御堂	二二八
離波御堂	二二八
座禪神社	二二九
新町	二二九
緋咲市場の魚市	二二九
阿彌陀夕池	二二九
天保山	二三〇
心齋橋	二三〇
難波新地	二三〇
道頓堀	二三〇
千日前	二三〇
高津神社	二三〇
生國魂神社	二三一
桃山	二三一
四天王寺	二三一
天王寺公園	二三五
茶臼山	二三五
阿部野神社	二三五

一心寺	二三六
住吉神社	二三六
堺	二三六
大島神社	二三七
四條堰神社	二三七
箕面山	二三七
奈良町	二三八
春日神社	二三九
春日山	二四〇
三笠山	二四〇
手向山神社	二四〇
三月堂	二四〇
二月堂	二四一
三味堂	二四一
東大寺	二四一
正倉院	二四二
興福寺	二四三
猿沼池	二四三
般若寺	二四三
月夕瀨	二四四
松尾寺	二四五

金剛山寺	二四五
藥師寺	二四五
唐招提寺	二四五
四佛寺	二四六
石上神社	二四六
大和神社	二四六
法隆寺	二四七
龍田川	二四七
龍田神社	二四八
信貴山兜沙門天	二四八
廣瀨神社	二四八
三輪神社	二四八
長谷寺	二四八
談山神社	二四九
榎原神社	二四九
吉野山	二五〇
金峯山寺	二五一
吉水神社	二五一
如意輪寺	二五二
竹林院	二五二
大峯山	二五二
兵庫縣	二五三
神戸市	二五三

生田の森	二五三
布引の瀧	二五四
諏訪山	二五四
淡川神社	二五四
廣嚴寺	二五四
福原	二五五
和川の岬	二五五
有馬温泉	二五五
摩耶山	二五七
須磨浦	二五七
舞子瀨	二五八
明石	二五八
尾上の松	二五八
高砂の松	二五八
曾根の松	二五八
姫路城	二五九
香駕山	二五九
城寄温泉	二五九
岡山縣	二六〇
岡山市	二六〇
後樂園	二六〇
蓮昌寺	二六一

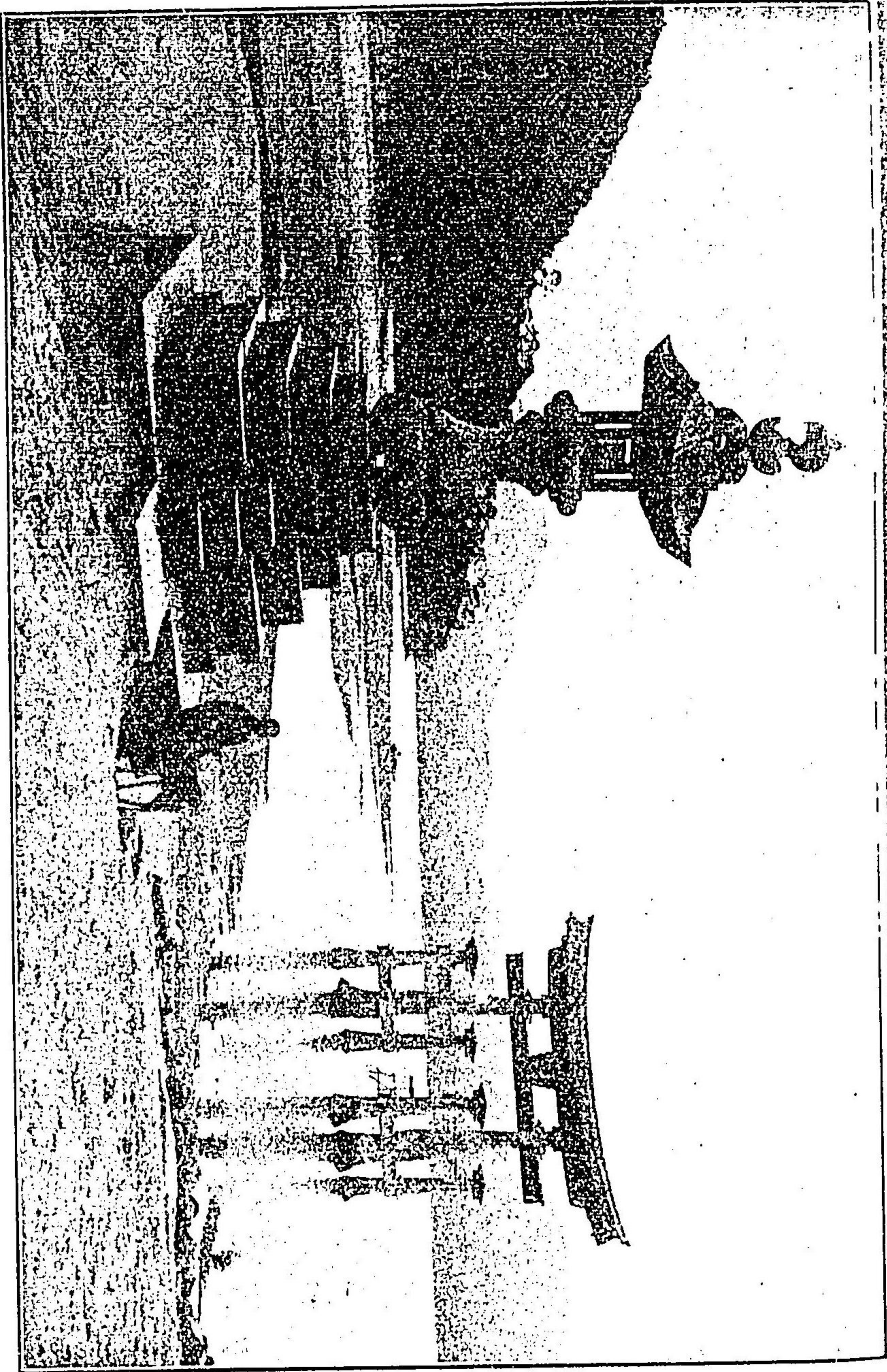


宗忠神社	二六一
吉備津神社	二六二
金乃神社	二六二
四大寺	二六二
<b>廣島縣</b>	
尾道	二六四
瀬戸内海の船場	二六四
廣島市	二六五
吳軍港	二六六
嚴島	二六六
<b>香川縣</b>	
高松市	二六七
白峯	二六八
丸龜	二六八
多度津	二六八
金刀比羅神社	二六八
琴平町	二六九
<b>東部</b>	
<b>滋賀縣</b>	
大津	二七〇
琵琶湖	二七〇
三井寺	二七一
高觀音	二七二
磯仲寺	二七二
栗津ヶ原	二七二
瀬田橋	二七三
石山寺	二七三
唐崎の松	二七四
比叡山	二七四
延暦寺	二七五
日吉神社	二七七
四教寺	二七七
來迎寺	二七八
堅田淨御堂	二七八
白鬚神社	二七八
比瓦山	二七八
草津	二七九
三上山	二七九
錦織寺	二七九
長命寺	二八〇
永源寺	二八〇
多賀神社	二八〇
彦根	二八一
竹生島	二八一
都久夫須磨神社	二八一
寶嚴寺	二八一
餘吾湖	二八一
<b>岐阜縣</b>	
岐阜市	二八二
稻葉山	二八三
岐阜公園	二八三
長良川の鵜飼	二八三
大垣町	二八四
養老の瀧	二八四
南宮神社	二八四
關ヶ原古戰場	二八五
<b>愛知縣</b>	
名古屋市	二八六
名古屋城	二八六
名古屋離宮	二八七
東本願寺別院	二八七
大須觀音	二八八
旭麻	二八八
熱田町	二八八
宇治山田町	二九二
豐受大神宮	二九三
島太神宮	二九四
朝熊山	二九五
二見の浦	二九六

熱田神社	二八九
岐清田神社	二八九
<b>三重縣</b>	
津市	二九一
津公園	二九一
阿漕ヶ浦	二九一
船城神社	二九二
尊修寺	二九二
松阪	二九二

京都名勝案内記附聯合府縣目次終



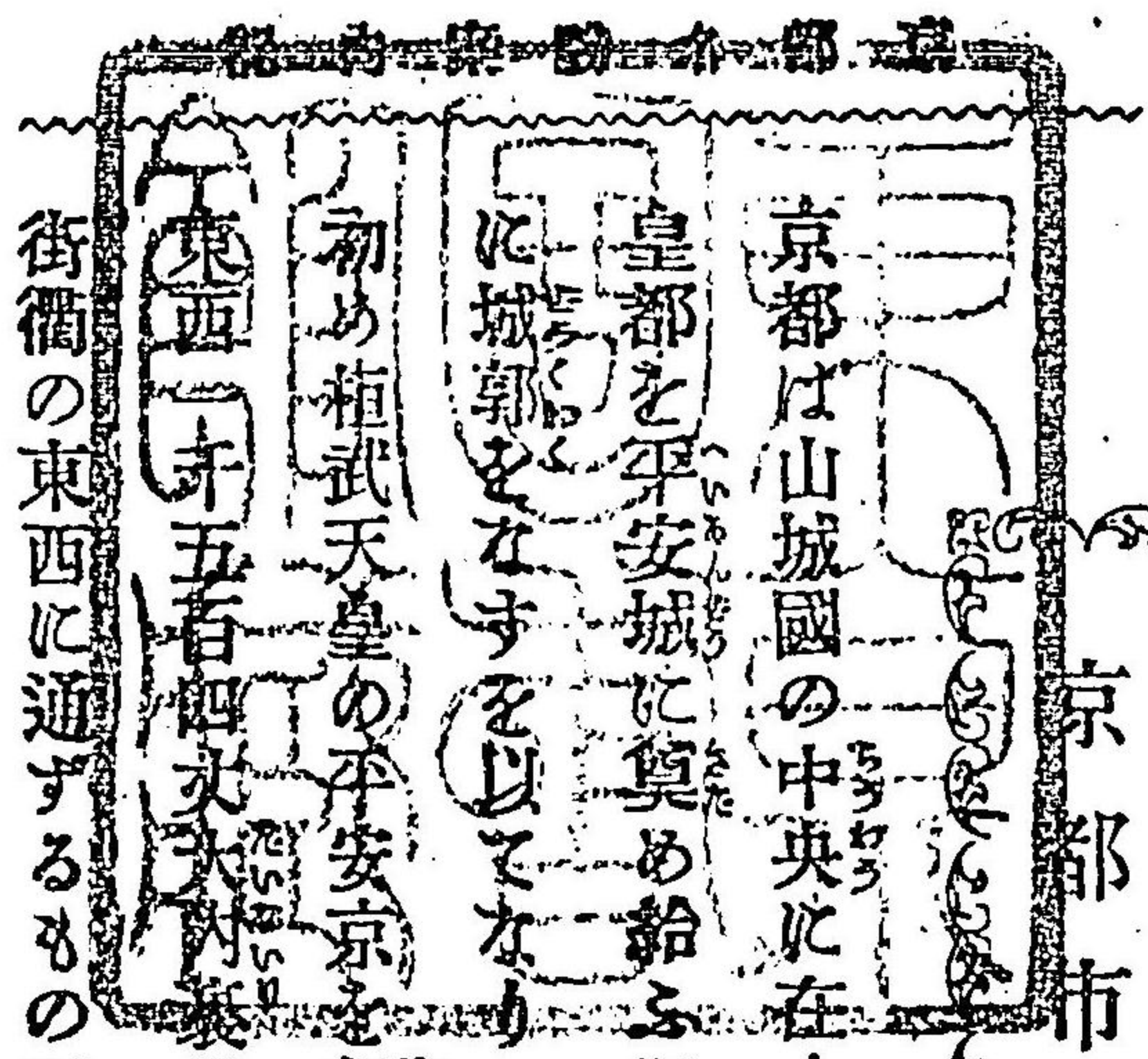


安藝縣島



京都名勝案内記 附聯合府縣

京都市總説



京都は山城國の中央に在り山城は元と山代又は山背に作れり桓武天皇都を平安城に奠め給ふに及び山背國を山城國に改む山河襟帶自然に城郭をなすを以てなり

初め桓武天皇の平安京を經營せしめらるゝや南北一千七百五十三丈東西一千五百四十九丈其北位に在りて南面す皇宮百司其中に在り

街衢の東西に通ずるもの三十八之を九坊に分ち一條より九條に至る同南北に通ずるもの三十二朱雀大路今の千本通を中にして左右を分ち左を左京といひ右を右京といふ朱雀大路の正面に羅城門あり之を平安



城の正門とす而して街衢整然其規模の宏大なること亦現時の比にあらざりしが其後二三百年を経て右京は荒殘して其勢ひ東北に集り白川一帯には宮殿巨剎相連なり白川鳥羽の兩朝に際して最も其盛を極めしが其後源氏北條氏を経て足利氏に至り兵亂の爲め荒廢せり又一條以北も王代に於ては己に巨室勢家の住地なりしが足利氏覇府を室町に開くに及び諸將の邸館其間に充ち京中第一の盛を極めしも應仁亂後に至り是亦た荒殘せり其後天正十八年豊臣秀吉京都の封疆を定め東は京極今の寺町通西は朱雀今の千本通及紙屋川、北は紫野、南は九條までを京都の封疆とす天正以降又た幾變遷なきにあらざれども曾て著るしきことあるを見ず但七條以南の田圃に化し轉じて京極以東鴨川を越て幾多繁華の市街を造り中古所謂京白川の地も市部に編入せられ復び昔日の繁昌を見んとするに至れり

現時の京都は東西凡二里南北凡一里半餘戸數七萬人口三十餘萬あり之を上下の兩京區に分てり三條以北を上京區といひ三條以南を下京區といふ桓武奠鼎より今明治二十八年に至るまで一千一百年時世の變遷は明治遷都を見るに至りしと雖も京都の大號は依然として之を改められず國家の大禮ある登極の儀大嘗の典に至りては必らず之を京都に行はせらるゝと定めらるる長くも皇室が如何に京都を重ぜらるゝかを推し奉る可きなり嗚呼萬世一系の帝國にして千載不遷の舊都あり内外古今實に其比を見ざるの名都といふ可きなり左れば名勝古跡の夥たゞしき京都附近に若くものなく地として歴史の關係を有せざるなく物として學藝の考證を資せざるなし又世界最  
 大宗教たる佛教各宗の本山は概ね此地にあり名山巨剎の藏する世界有數の寶亦實に少なからず之に加ふるに山水優美花木靚妍到處に



人目を喜ばしめざるなく美術工藝の淵藪として西陣織物、刺繍、緞、染物、陶磁器、銅器及金銀器、漆器、團扇、七寶焼、絲組物、金銀箔及金銀絲押箔等を重要物産とし其他一々之を枚擧するに遑わらざるなり蓋し天然の美は人工の精と相須て京都を造るを知る可きなり而して文人墨客の諸大家多く此地に閑棲するあり内外人の京都に來遊するもの年一年に多きを加ふるの勢ひとなれり想ふに繁華にして閑雅、閑雅にして繁華なる所の大都會は京都を措て他に之を求む可らざるなり嗚呼京都は實に我日本帝國の名都たるのみならず實に世界隨一の名勝地といふ可きなり今京都より全國重なる各地方に至る道路の距離を掲ぐれば左の如し

東京へ百卅里卅三丁○大阪へ十三里餘○神戸へ廿三里餘○岡山へ五十四里卅一丁○廣島へ百里餘○奈良へ十里廿七丁○大津へ二里

廿五丁○津へ廿五里餘○名古屋へ卅六里○岐阜へ廿九里○高松へ六十六里

京都御所

外郭は東は寺町より西は烏丸迄南は丸太町より北は今出川に至り面積廿五萬餘坪あり其中央の内郭は即ち禁闕なり禁闕の正門は南門にして別に唐門、日之御門、公家門あり紫宸殿は更に宮垣を遶らし承明、日花、月花の三門より其階下に通ず殿前に左近櫻右近橘あり清涼殿、清所、常御殿其他の宮殿連比して森嚴莊麗なり現今の御所は安政二年の御造營に係れり

御苑地

御所の外郭にして維新以前は諸親王を始め縉紳の邸第あり俗に之を公卿屋敷と唱へしが明治十一年夏之を開て御苑地となしたり仙洞御所、久邇宮邸、桂宮邸、主殿寮出張所、京都博覽會場、京都測候所、白雲神社、宗像神社等皆な苑内に在り



仙洞御所

往時上皇の宸居なり昔日の宮殿大半廢墟となりたれど

林泉幽邃にして雅趣多し京都博覽會開場中は特に拜觀を許さる

平安神宮

官幣大社にして祭神は桓武天皇なり上京區岡崎町に

鎮座す吉田黒谷聖護院の森は後を掩ひ疏水運河は前を擁して流る

遠くは比叡愛宕の山より近くは東山の翠巒滴るが如し境内一萬六

百餘坪本殿は南面にて檜皮葺なり一面に白川砂を敷き其左右には

庭園を設け瀑布あり又池あり花卉木石の布置其妙趣を盡せり拜殿

は有名なる紀念殿を以て之に充つ紀念殿の記事は下條に在り

抑も桓武天皇は英邁の雄資を懷抱せられ奠鼎の地は形勢に據り規

撰を大にせざる可らざるを察し玉ひ四神擁護の靈地山河襟帶の形

勝を擇び京都の地盤を畫し新京を經營せしめらる爾來歷聖相承け

明治維新に至り國勢一變して帝都を東京に遷させられたりと雖も

京都なる大號を改めず尙ほ國家の大典たる登極、大嘗等の式は必

ず之を京都に於て行はせらるゝと定めらる萬世一系の帝國にし

て千載不變の帝京あるは之を中外古今に求むるも平安京の外復他

にあるとなし今茲明治廿八年は桓武天皇が延暦十五年正月朔始め

て大極殿に御し正朔の賀を受けさせ玉ひてより一千一百年是に於

てか京都市民は平安遷都千百年紀念祭を舉行し天皇の神靈を奉祭

して其聖德鴻業を追賀し此千百年間に發達したる事業を表彰し帝

國の隆運を祝せんとし之を全國の同志に促がしたるに紀念祭協賛

會なるもの相踵で起り全國朝野の有志靡然として之に賛同し其寄

附金無慮二十五萬餘圓に達するに至れり是に於てか協賛會は明治

廿七年一月十三日を以て平安神社創立を出願して同二月十日開屆

けられ同五月卅一日社格并に神號下賜を出願せしに同七月二日平



安神宮と稱し官幣大社に列する旨仰出されたり恩賜の二萬五千圓及び其他有志の寄附金都合五萬圓を以て本社の保存金とす

紀念殿

平安神宮の拜殿にして大極殿に模擬し造營したるものなり

抑も大極殿は桓武天皇が最も願念し玉ふ所たりしを以て紀念祭協賛會は本殿を模造し以て奉祝せんとしたるに事長くも聖聽に達

し金二萬圓を下賜せられたり爾來明治廿六年十一月一日を以て起

功し廿八年二月廿五日に至りて竣功せり金銅の鵝尾は燦爛として

人目を眩し碧瓦金礎は丹朱の楯梁楹柱と相映じて實に是れ洛中の

一偉觀なり正面の入口を神門といふ應天門に擬して之を造れり高

六十四尺の樓門にして其全形は大和法隆寺の趣を存せり全躰は丹

を塗り壁は白堊を用ふ屋蓋は碧瓦にして棟上の鵝尾は南都唐招提

寺金堂の鵝尾より脱化し來りたるものなり樓上は椽を廻らし椽に

朱欄を用ひたり門より卅三間にして一帯の石階あり之を龍尾壇と

いふ壇に朱欄あり二ヶ所の入口を設く袖勾欄を附せり壇より北廿

五間即ち是れ大極殿なり廣袤は東西百十尺南北四十尺にして面積

百廿二坪土壇五の上に建つ之を往古の大極殿に比すれば其半に

及ばすと雖も亦是れ莊嚴の一大建築なり中央を身舎とし五十二の

丹楹整列す天井は板を用ゐずして凡て橢圓形の化粧垂木を露出し

床は瓊瑤を四半に割合せたり其構造簡素にして繪様なく彫刻なし

組物式は南都唐招提寺金堂と髣髴たり全部丹を以て塗り屋蓋は碧

瓦を用ひ棟の兩端には金銅の鵝尾燦爛として耀けり殿の左右に歩

廟あり東西に走ると七十尺折れて南下すると九十尺廊の中央は連

子を以て劃し其兩側を歩行す可し廊の終極に高樓あり東を蒼龍と

いひ西を白虎といふ屋の四隅に小樓あり中央又別に一樓あり手縁



織巧にして大極殿の粗大と相對し却て一種の妙配合をなし人をし  
て轉た延曆の昔を追想せしめぬ

第四回内國勸業大博覽會 平安神宮の南に在り琵琶湖疏水運河其  
前を擁して流る面積凡八萬坪之を第四回内國勸業大博覽會場とす  
抑も内國勸業大博覽會は明治十年を以て始めて之を東京上野公園  
地に開き爾來三回悉く同所に開設せられたるが京都市は平安遷都  
千百年紀念祭を舉行するに際し之と同時に第四回内國勸業大博覽  
會をも京都に開設せられんとを申請せしに政府之を容れ帝國議會  
亦大多數を以て可決し茲に明治廿八年四月一日より一百日間之を  
京都市上岡崎町に開設することゝなれり

陳列館の總坪數は八千八百四十六坪工業館四千二百坪 機械館九百坪  
動物館六百坪 農林館千四百坪 水産館五百四 美術館八百十 盆栽陳列所凡三百坪 等此

して出品點數は二十餘萬を超へ之を第三回に比すれば三分一以上  
の増加なりといふ又同博覽會の入場券は平日五錢、日曜日七錢、  
土曜日三錢の三種なり

三條大橋 京都三大橋の一にして長五十六間幅四間半餘天正十八  
年豐臣秀吉小田原征伐の時初めて之を架設せり欄干の撫寶珠は皆  
紫銅にして其數十有八今尙之を襲用せり此橋は京都各街の起點に  
して里程元標の在る所なり橋の東西には數十の旅店あり橋上の眺  
望最も風致に富む炎暑には橋下に涼棚を設け酒茶を嚮き晝夜納涼  
の客を絶つとなし今も同地より各地に至る里程を掲ぐれば大略左  
の如し

八坂神社	十一丁廿三間	東大谷	十五丁	圓山	十五丁
智恩院	七丁	南禪寺	十二丁	高臺寺	十一丁
靈山	十八丁	若王子	十七丁	黒谷	十九丁



永観堂	十六丁	眞如堂	二十二丁	銀閣寺	三十丁
鹿ヶ谷	廿六丁	栗田	六丁	長樂寺	十丁
清水寺	廿二丁	四六谷	二十丁	吉田神社	卅三丁
日野薬師	二里十九丁	ダイゴ寺	三里九丁	四條橋	六丁餘
新京極	六丁	二條離宮	二十一丁餘	平野神社	一里二十丁
金閣寺	一里廿三丁	北野神社	一里十六丁餘	妙心寺	一里十八丁
仁和寺	一里廿八丁餘	天龍寺	二里十二丁餘	あらし山	二里十丁
梅ノ宮	一里卅四丁餘	梅ノ尾	三里十丁	高雄	三里
月輪寺	三里十四丁	愛宕神社	四里六丁餘	廣澤	二里十丁
二尊院	二里十八丁	松尾神社	二里十二丁餘	太秦	一里十七丁
柳谷	四里三十丁	長岡天神	三里廿八丁	三鈿寺	三里廿二丁
桂離宮	二里五丁	粟生光明寺	三里	上サカ	二里十九丁餘
向日町	三里二丁五十六間	寶寺	四里十二丁	因幡やくし	二十二丁
本願寺	二十七丁	佛光寺	十九丁	本願寺	二十三丁
東本願寺	二十三丁	七條停車場	卅一丁餘	大佛	十四丁
日吉神社	三十三丁	豊國神社	二十二丁	帝國博物館	二十四丁
建仁寺	十丁	泉涌寺	一里餘	東福寺	一里二丁
稻荷	一里十一丁	藤の森	一里廿八丁	御香宮	二里十五丁
宇治	四里十六丁	三室戸	三里廿五丁	平等院	三里十八丁

中央部 上京

水輪	三里	城南神社	二里二丁餘	黄檗	三里九丁
男山八幡宮	五里三十丁	巨塚湖	三里廿五丁	伏見驛	二里十八丁
京都御所	二十二丁餘	京都府	二十丁	裁判所	十四丁
相國寺	廿八丁	護王神社	廿二丁	建勳神社	一里十七丁
大徳寺	一里十八丁	白峰神社	一里二丁餘	療病院	十六丁餘
梨本神社	十八丁	下御靈	十二丁餘	今宮神社	一里九丁餘
下加茂神社	卅一丁餘	上加茂神社	一里廿五丁	上御靈	二十五丁餘
修學院離宮	一里廿八丁餘	貴船神社	三里廿九丁	大原野神社	三里十七丁
比叡山	三里餘	鞍馬山	三里廿三丁	大徳山	八里十三丁

矢田地蔵 浄土宗、金剛寺と號す寺町三條北に在り本尊地蔵は満

米上人の作なり本堂の前に夕親薬師を安置す

天性寺 浄土宗、矢田地蔵の北隣に在り中將姫作の織姫觀音及び

中將姫自作の像を安す



本能寺

日蓮宗、天性寺の北に在り開基は日像上人にして初め六角の南、油小路の東に在り今の元本能寺町といふ是れなり天正十年織田信長が明智光秀に弑せられたる舊地なり織田信長の塔あり又什寶に宗祖日蓮上人の題目曼陀羅あり

妙満寺

日蓮宗、寺町二條南に在り開基は日什上人なり當寺に導成寺の鐘あり俗説に姪女清姫なるもの僧安珍を慕ひ來りて蛇となり纏ひしものなりと謡曲に在りて世の知る所なり此鐘元と紀州牟婁郡導成寺に在り天正年中當寺に移せり

天主教會堂

河原町三條北に在り天主教會堂にして洋風の建築宏壯にして一偉觀なり

木屋町

二條以南三條以北一帯の地をいふ席貸、旅店等多く樓々鴨川に臨み東山に對せり門前は高瀬川浴々として流れ真に瀟灑の

巷なり

高瀬川

加茂川の分流にして中世内裏修築の時材石運搬の爲め角倉了意が開鑿せし所の運河なり二條橋下より分れて木屋町筋を南下し竹田に於て再び加茂川に合し又分れて伏見の西を流れ淀川に入る其通船を高瀬舟といふ伏見より京都に達するには流水淺くして且急なるを以て綱を船舳に結び數人の舟夫陸上より之を曳く其音調奇異之を高瀬の曳船といふ

本誓寺

高田御坊といふ眞宗專修寺派の別院なり河原町二條上る處に在り堂は豊太閤の北政廳の化粧殿にて繪畫は狩野永徳の筆なり

萱堂

天台宗、行願寺といふ寺町通竹屋町に在り本尊十一面觀音は開祖行圓上人が靈夢の告により加茂の槻木を以て刻む所也上人



常に革かわの服を着せしより都下呼よで革上人かわじゆんとなし遂に革堂かわどうと稱せり  
下御靈社しもごりやうしゃ 草堂くさどうの北に在り祭神は早良親王さうらみこと、伊豫親王いよみこと、藤原吉子ふじのこ、  
文屋宮田麿ふぢみやのたまり、橘逸勢たちばなのはやし、藤原廣嗣ふじのひろつぐ、吉備大臣よこべのちゆうじん、火雷神等くわらいじんにして貞  
觀五年始めて祭祀する所なり京都に三個の御靈社を鎮座し名けて  
上御靈社かみごりやうしゃ、中御靈社なごりやうしゃ、下御靈社しもごりやうしゃといふ上下同一神かみごりやうしゃに於て中御靈社  
は寺町通廣小路にありて其神輿かみごりやうしゃの旅所なりしが明治初年絶滅して  
今は唯町名にのみ残れり例祭は五月一日を御出ごいでといひ同月十八日  
を祭日とす

梨木神社なしのきじんしゃ

京都御所の東、寺町廣小路に在り別格官幣社にして贈

右大臣三條實萬卿を祀れり

盧山寺ろさんじ

四宗兼帶天合、律、淨土、真言にて本尊藥師佛は聖德太子の作開基は

慈惠大師中興は住心上人什寶に法然上人自筆の撰擇集あり又親鸞

上人自筆の四句の文あり

清淨華院じやうじやうけげん

淨土宗鎮西派にして四本寺の一なり開祖は法然上人中

興は慧照國師えいしやうこくしなり當寺に身代地藏みかたじざうといふ地藏あり參詣多し

本禪寺ほんぜんじ

日蓮宗、開基は日陣上人應永十三年に草創す

本満寺ほんまんじ

日蓮宗、開基は日秀上人にして應永年中近衛道嗣の別業

を寺となせり舊地は新在家しんざいかに在り祖師堂に安する日蓮上人の像は

丹波芹生村山籠より掘出したるものにて靈驗赫著同宗の信徒常に

參詣す

佛陀寺ぶつたじ

淨土宗西山派、朱雀太上皇御落飾みくしやくの所なり

十念寺じゆんねんじ

淨土宗西山派、什寶に一休和尚自筆の佛ぼつ鬼軍圖一卷及

び足利將軍家諸士念佛講の人名帳あり

阿彌陀寺あみだじ

淨土宗、織田信長信忠の墳ほか及び本能寺に於て忠死の臣



數名の墓あり又た方丈に信長信忠の坐像を安ぜり

天寧寺 曾洞宗京都三ヶ寺の一、寺町鞍馬口に在り元和中松平

伊賀守勝重の建立にして開基は祥山吉和尚なり

上善寺 淨土宗、開基は春谷盛信上人なり本尊阿彌陀佛は行基普

薩の作、當寺に藏する善光寺如來畫影は化人の筆なりと傳へ後柏

原帝敝覽ありて勅願所不斷念佛道場の宣旨を賜へり

閑臥庵 禪宗、開基は黃檗六代千呆和尚中興は伯珣和尚なり境内

に曙櫻あり

御靈社 鞍馬口に在り祭神は下御靈社の條下に記載したれば茲に

贅せず此地は上出雲寺の故墟なりしを以て或は出雲寺御靈とも稱

す寺町清荒神に鎮座せし和光明神、三社明神を明治初年に合祀し

十三社の神と稱せり

五所八幡 上御靈の境内に在り筑前の大分、肥前の千栗、肥後の

藤崎、薩摩の新田、大隅の正八幡以上之を五所の別宮と號す遠境

なるを以て後柏原帝勅して此地に遷し玉へるなり

相國寺 臨濟宗五山の第二にして萬年山相國承天禪寺と號す今出

川の北烏丸の東に在り永徳三年足利義滿勅を奉じて建立せり義滿

僧妙葩を開山とす妙葩之を辭し其師夢窓國師を推て之が始祖とな

し自から其第二世たり山門を圓通閣といふ門内に池あり功德池と

いふ池に架したるを天界橋といふ法堂は無畏堂といふ本堂なり慶

長十年豊臣秀頼之を建立す本尊は釋迦佛なり祖塔は夢窓國師の像

を安す文化四年恭禮門院舊殿を賜ふて此に移せるなり方丈は後水

尾帝の舊殿なりしが天明八年炎上し文化四年其舊形を變ぜずして

再建す二層塔は承應二年後水尾帝の敝旨を奉じ建立する所にして



其御念持佛大日如來并に御齒髮を納む故に御齒髮塔といふ天明八年炎上したるも御物には恙なかりし現在の建物は萬延元年再建に係れり寺域二萬六千餘坪老松緑深ふして境内禪味に富む足利家の塔所あり義滿以下累代の牌を安ぜり又東征戦亡の碑あり戊辰の役に於る薩藩五百廿四名の姓名を碑背に勒す西郷隆盛の筆蹟なり其他塔頭松鷗軒には法然水、同普廣院には定家卿墓等の舊跡あり

同志社 基督教の傳道、同主義の教育擴張の目的を以て明治八年新島襄が米國傳道會社保護の下に於て創立する所なり相國寺門前に在り公會堂、豫備學校、新榮館、久留久神學校、普通學校、同志社大學、女學校、看病婦學校、病院等を設け専ら外教の布教に盡力せり

妙顯寺 日蓮宗、寺の内小河の上に在り開基は日像上人にて西洞

院二條南に在り後醍醐帝の勅願所たりしが天正年中今の地に移れ

り當寺は洛陽に於て日蓮宗弘通最初の寺なり什寶中黄金の釋迦佛

立像長三寸蜀錦の曼陀羅及經一丸の曼陀羅は日蓮上人の揮毫なり

妙覺寺 日蓮宗、新町頭に在り日實上人の開基なり昔日像上人當

宗弘通の時小野妙覺といふ者宿を施し遂に宗旨を信仰し居宅を以

て寺となしたるの故を以て妙覺寺といふ其地は衣棚二條南なり天

正廿一年今の地に移れり祖師堂には日蓮日朗日像三師の像を安ず

日蓮像の面貌は自作餘は日像の所作中に骨舍利を藏む十羅刹堂

は飛驒の匠たくみが所造にて古へ博多盧山寺の一堂なりといふ香芳石塔

は日蓮上人の所作なり上人叡山に在りし時横川香芳谷花光坊にて

作り中に一穴を彫て一部一卷自書の法華經を收め法華弘通を祈れ

り久しく山門に在りしが後ち當寺に移れり收むる所の經長三寸許



狩野古法眼以下累代の墓は皆當寺に在り

本法寺 日蓮宗、妙覺寺の西南に在り開基は日親上人 法義の爲め苦難に堪し人なり

り世に錮冠日親といふなり方丈の庭に日親說法石あり

大應寺 天台眞言禪兼學、妙覺寺の西に在り當地に初め悲田院と

號するあり亡滅年久し其跡に當寺を建立せり境内に後花園帝御火

葬所あり

水火天神 上京天神園子にあり菅公を祭る

興聖寺 禪宗、小川の北天神の辻子に在り開基は虛應和尚なり當

寺に安ずる達磨像は藤堂高虎の寄附にして顔威妙相世に比類なし

と稱す

瑞光院 堀川頭に在り淺野彈正第宅の舊址にして淺野内匠頭及家

臣の塔一基 大石良雄以下四十六名の姓名を列記すあり什物に大石良雄の畫像辭世の詩歌

書翰等あり

七野社 大宮通の北端に在り昔染殿皇后の祈願に依り奈良の春日

明神を勧請したるものにして爾後又伊勢、石清水、稻荷、加茂、

松尾、平野の六神を合祀し櫻谷神社と稱し往昔紫野、蓮臺野、北

野、平野、内野、神明野、上野の地社領たりしを以て七野社の名

あり

妙蓮寺 日蓮宗、報恩寺の西北に在り開基は日像上人洛陽に於て

當宗寺院最初の所なり日像上人初め往來の衢に立て宗義を説く爰

に西洞院五條北に酒家あり柳屋といふ法を聽受して遂に宅の後園

に庵室を造り上人を住ましむ世人之を稱して柳寺といふ法義漸く

流布し寺院を増益し改めて妙法蓮華寺と號せり後世大宮通四條南

に移り妙蓮寺と改む柳寺の舊縁を取り山號を卯木山といふ後ち又



再轉して今の地に移れり什物に日蓮上人筆の法華曼陀羅あり祈雨の本尊と稱す

報恩寺 淨土宗知恩院末寺にして小河の西上立賣の北に在り開基は不詳明應年中舟橋の地に草創し天台淨土兩宗兼學にて法音寺と號せしが中興西蓮社慶譽上人淨土の一法となし報恩寺と改む什物中興聖菩薩の所持せし佛牙舍利及興聖菩薩の袈裟、舍利殿の鐵燈臺等當寺に藏せり

白峯神社 官幣中社、今出川通飛鳥井町に在り崇徳、淳仁の兩帝を祀れり崇徳帝の靈は明治元年九月此地に社殿を新營して讚岐國より遷坐し奉り同六年十月に至り淳仁帝を合祀し奉れり

本隆寺 日蓮宗、知惠光院五辻の北に在り開基は日眞上人なり祖師堂の前に日像上人筆の法華題目の石塔あり

西陣 京都北西部落の總稱にして堀川以西一條以北の地をいふ應

仁の亂細川勝元の軍は室町覇府の東に屯す故に之を東陣といひ山名宗全の軍は西に營せり故に之を西陣といふ是れ西陣の名の由て起る所以なり日本第一の織物産地にして其名は海の内外に轟けり工藝の淵藪富國の根源實に此地に在りといふも可ならんか

千本焔魔堂 引接寺といふ千本通の北端に在り本尊は焔魔大王にして定朝の作なり大念佛は文永年中如輪上人の始むる所にして壬生狂言と一對の觀あり

釋迦堂 大報恩寺といふ焔魔堂の西に在り

慈眼寺 曹洞宗、京都三ヶ寺の一、出水七本松の東に在り慶長年

中佐々成政の建立にして大雲永瑞和尚の開基なり

淨福寺 淨土宗、一條通千本の東に在り本尊阿彌陀佛は弘法の作



なり

清和院

感應寺と號す七本松通一條の北に在り本尊二軀あり一は

聖觀音弘法作一は地藏菩薩一演僧正の作にして地藏菩薩は清和帝御等

身の像なりといふ

轉法輪寺

淨土宗、一條の西七本松に在り櫻町帝の御宇宮中より

命あり寶曆四年尾州の關通上人の建立する所なり

立本寺

日蓮宗、七本松通正親町の西に在り開基は日像上人にし

て祖師堂に安置する日蓮上人の像を胃の御影といふ縁起ある靈像

なり又た庫裏に藏むる寶塔は天竺傳來と稱して有名なり

五番町

遊廓なり

内野

上古大内裏の時皇城の内なるを以て名く其實は大内野なり

一番町より七番町まであり

清明神社

葭屋町一條上る處に在り阿部清明を祭れり

一條戻橋

一條通堀川に架するものにして古來著名の橋なり

護王神社

別格官幣社、祭る所は和氣清麿の靈なり此社は當初護

法善神社と稱し高雄神護寺に屬せしが維新後別格官幣社に列し護

王神社の神號を賜ひ其後今の地即ち烏丸通中長者町に遷座せり

二條離宮

舊二條城なり永祿十二年織田信長之を城く萬曆十年明

智光秀之を燒きしが慶長七年德川氏再び之を城けり維新後京都府

廳となりしを明治九年宮内省の所屬となり二條離宮と稱せらる規

摸宏大ならずと雖も莊麗無双なり

神泉苑

二條離宮の南に在り桓武以來天子御遊の仙地なりしが荒

廢に屬して舊蹟絶滅せんとしたるを元和の頃筑紫の僧覺雅なる者

官に請ふて其一部を修補し眞言宗の靈場を開けり今の神泉苑即是



れなり池あり之を法成就池といふ池中に三島あり一は善女龍王を  
祭り一は二重塔を築き一は辨財天を祭れり小野小町が此苑にて和  
歌を咏じ雨を祈りたるは人口に膾炙する所なり

中央部 下京

瑞泉寺

浄土宗西山派、三條小橋東に在り開基は三空桂叔和尙に

して豊臣秀次の母堂瑞龍院が秀次追福の爲建立せし所なり文祿年  
中秀次高野山に於て自殺す秀吉其首を三條大橋の下河原に梟け其  
前にて幼子并に卅四人の侍女を斬て同穴に埋たる悪道塚は即ち此  
所にして塚は堂前に在り其側に石塔を立て侍女の法名を双書せり  
先斗町 鴨河と高瀬川に挟まれ三條南一丁目より四條に通ずる遊  
廊なり寛曆年間川端夷川に吉祥院と云へる寺あり其境内に十數軒

の茶店を設けて茶汲女を置き陰然遊廊の姿をなせしが一旦嚴禁の  
後寛政十二年十二月遊廊を免許せられ島原より茶店一軒に遊女二  
名宛を移し二條新地と名稱せり(二條新地は第三高等中學校設置  
の際立退を命せられ今は無し)其後天保十三年官命に依り島原に  
移り嘉永四年十二月十二日許されて再び遊廊となり鴨河西岸に出  
店を設け遊女三分の一を移したるは即ち此地なり殊に其東側は東  
山に對し鴨河に瀕する勝地なれば四時共に繁昌し現今祇園新地に  
亞げる遊廊となれり、年々興行せし鴨河跡は祇園新地の都踊に  
相對する美觀なりしも近時中絶せしかば今年之を再興せんとの議  
起れり

新京極

寺町の東二十歩許三條通より四條通まで南北に通じたる  
一帯の地にして榎村正直府尹たりし明治初年開通せし所なり當時



一坪の地價些に五十錢にて買收し後ち價格を定め人民に拂下げ特に奉還士族には半額を以て拂下たり其後種々計畫する所ありて終に繁華の地となり現今二百金を以て一坪の地所に換ゆるに至り東京の淺草公園、大坂の千日前と同じく京都熱關第一の地なり百貨輻湊商賈咫尺地を爭ふ諸興行物あり飲食店あり遊人織るが如く殆んど晝夜の別あることなし壺中の別天地山水の閑逸に飽くもの來て此境に遊ぶも亦一興ならん

**誓願寺** 淨土宗西山派、新京極に在り本尊阿彌陀佛は天智帝の勅願に依て作る所なり靈告により春日明神の作と稱す佛面の内に天智帝朱書の六字の名號あり又腹内に五臟六腑の經絡を備へり堂燈の南無阿彌陀佛は一遍上人の筆にて謠曲に残りて世に有名なり堂寺は天智帝の草創にて元大和に在りしが平安遷都の後當國乙訓郡

**誠心院** 俗に和泉式部といふ御堂關白道長の草創なり和泉式部尼となり此寺に住すと傳ふ式部の塔あり

**蛸藥師** 新京極圓福寺境内に在り永福寺と號す本尊は石彫の藥師にて傳教大師の作なりといふ養和年間叡山北谷より二條室町に遷せしが後又今の地に移れり蛸藥師といふは寺内の僧老母を養ふ病の爲め蛸を食せんを望む僧人をして之を求め篋に入來らしむ蓋を開けば藥師經にして蛸にあらざりしと而して母の病は藥を用ひずして癒たるより世に傳へて蛸藥師と稱すとかや

**安養寺** 蛸藥師の南に在り惠心僧都の妹安養尼の建立にて淨土宗西山派なり本尊阿彌陀佛は春日の作、此本尊華臺八葉の蓮華を倒まにす是即ち女人胸中の蓮華倒まに在り之を表示し女人引接の相



を現はし玉ふなりと

錦天神

時宗の一寺院に屬せしが維新後神佛分離の時より佛寺の

所屬を脱したり新京極に在りて繁華の中央なれば賽人堵の如し當社古は河原左大臣融を祭りしが中古より菅神を勸請せり

金蓮寺

時宗、四條道場といふ新京極に在り當寺に安ずる親戀の

地藏は運慶の作にて鳥部山に在りしを中古移せしものなりといふ

大雲院

浄土宗鎮西派、寺町四條南に在り開基は聖譽貞安上人織

田信忠追福の爲めに之を建立す信長信忠の回向塔あり又た巨賊石

川五右衛門の墓あり大雲院とは即ち信忠の法號なり

淨教寺

浄土宗鎮西派、大雲院の南に在り當寺は始め東山に在り

燈籠臺と號し小松内府重盛の草創なり後世東洞院高辻南に移し又

今の地に移せり佛壇内外の畫圖は惠心僧都の筆なり

聖光寺

浄土宗鎮西派、寺町綾小路南に在り開基は良阿上人なり

五條大橋

今の五條通は古の六條坊門にして今の松原通は即ち古

の五條通なり五條大橋は元今の松原橋の處に架せり豊太閤大佛建立の時今の處に移してより六條坊門を五條橋通といひしが遂に五條通と單稱するに至れり欄干には紫銅の擬寶珠左右に十六本あり橋上の眺望佳絶なり

七條新地

五條の南、高瀬川の兩岸に沿ふ遊廓あり寛政二年十二

月島原より出店せしは現今の地にあらむ七條二の宮町、三の宮町にして當時大に繁昌せしが天保十三年十二月卅日島原へ立退を命ぜられ嘉永四年十二月再び遊廓となるも往時の盛大を見ず是に於て河内屋、尾張屋、笹鶴屋等同業者に卒先し女藝者八十名娼妓七十名を率ひて高瀬五條下る東岸岩瀧町、波止土濃町、八ッ柳町



早尾町、聖眞寺町へ移轉し尙ほ宮川町へ出店を設けたり是より續々此地に移りて其地五條に接近せるも猶ほ七條新地と稱し西岸平居町、南京極町は之を橋下と呼び全然區域を異にせしが明治十八年八月合併して七條新地と總稱せり

御影堂

新善光寺と云當寺は昔し眞言宗にて最初建立は東洞院三

本木に在りしが屢ば移轉して天正年中今の地に移れり新善光寺と號するは初め安ずる所の本尊信州善光寺本尊摸形の故なり其本尊今は寺家善光庵に安せり御影堂と稱し時宗に改めたるは一遍上人の徒王阿上人當寺の住寺に因あるを以て寺内に寓居せしに上人智徳兼備なりしを以て寺家歸敬し改宗したるによる又當寺の徒扇を折て業とするは平教盛の室尼となりて住し之を始めたりと傳へり

本覺寺

淨土宗、御影堂の西に在り開基は玉翁上人本尊を如法佛

と號す佛工安阿彌至信齋戒して之を造りたるに由る

來迎堂

淨土宗、本覺寺の南に在り本尊阿彌陀佛は崇峻帝の御宇

信州の人本田義助善光寺の本尊を摸して新に鑄造せんとするの事長くも天聰に達し百濟國の齊明王へ勅書を賜ひ異域に渡航し閻浮檀金七斤を得て歸朝し善光寺の堂前に於て鑄造したる靈佛なり

蓮光寺

淨土宗、來迎堂の南に在り開基は江州西教寺の開山信盛

上人なり始め高野山の萱堂を移し萱堂と號せり中興は玉譽和尚なり本尊阿彌陀佛は安阿彌の作にて負別如來といふ地藏堂は堂の東に在り弘法大師作の石地藏を安ず此所は平家より足利氏初世に至る刑場即ち六條河原といふ是れなりと

長講堂

淨土宗、蓮光寺の南に在り當寺は後白河法皇の創始にて

近くは御菩提の爲め遠くは十方群生の爲め啟聞に觸るゝものは尊



卑を論せず亡魂の名帖を藏め御回向あらんとの御願にて建立せり  
堂の西面に安するを花方観音といふ平家物語にいふ花方御所の持  
尊なり又渡流観音ともいふ縁起あり浄土宗の開基は玉翁上人

白毫寺

律宗、太子堂といふ蓮光寺の前に在り本尊は聖徳太子自  
作の像なり當寺は始め今の知恩院の總門内に在り同院開境の際此  
地に移れり此邊は河原左大臣の六條河原院の在りし所なりと

市中山金光寺

時宗、蓮光寺の東南に在り開基は空也上人なり此  
所は昔大内裏の時諸品を商ふ大市場なりしといふ

市姫神社

同所に鎮座す祭神は筑前の宗像神社に同じ

東本願寺

眞宗大谷派本山なり東六條に在り西六條の本願寺派本  
願寺に對し世に之を東本願寺といふ由緒沿革は西本願寺と同じく  
同寺の條下に詳らかなり當寺草創は宗祖見眞大師より十一世顯如

上人文祿元年十一月に遷化せらるゝや嫡子教如上人其職を嗣ぐ同  
三年之を辭して舍弟准如上人を以て之に代らしむ而して後園に坊  
を造りて退隱す門徒之を敬して御裏と稱す後ち慶長七年徳川將軍  
家康の台命に依り六町四方の地を賜ひ新に當寺を今の地に建立し  
上人をして再び開山十二世の血脉を相續せしむ之を東本願寺とい  
ふ大谷派本願寺是れなり秀忠將軍更に増地を賜ふ即ち枳穀邸是れ  
なり當寺宗派の弘通四海に洋溢して貴賤の門徒遠近に周滿し寺運  
の隆盛なること他に其比を見ざる所なり隨つて堂宇殿閣の莊嚴亦  
餘寺に超越す而して火災に罹ること當寺の如く多きものはあらざ  
るなり天明八年、文政六年、安政五年の四度火災に罹りて焼失し  
元治元年七月兵燹の爲め堂宇及び枳穀邸皆焼失す然れども隨つて  
燒失すれば隨つて新建し新建毎に更に一層の莊觀を加へり以て當



寺の勢力如何を下すに足る可きなり今の兩堂再建工事は海の内  
外に涉りて有名なる建築なり明治十二年を以て兩堂再建を發示す  
るや門徒の寄附金雲の如く數百萬圓の多きに達し大師堂は同二十  
二年五月を以て阿彌陀堂は同二十五年十一月を以て上棟式を行ひ  
同二十八年四月を以て兩堂遷佛式を行ふ筈なるが巍然として雲を  
衝き燦然として眼を奪ふ浴中の寺院其數百を以て算ふ可し而れど  
も東本願寺を見ずんば未だ其大を語る可らざるなり大師堂は伽藍  
造にして南北三十五間、東西三十二間、高二十一間四寸四分にし  
て建坪千八百八十六坪屋瓦十七萬五千九百六十七枚なり阿彌陀堂は  
東西二十一間五尺四寸、南北二十六間二尺四寸、高十五間二尺二  
寸にして建坪六百十三坪四分、屋瓦十萬八千三百二十九枚なり而  
して諸門殿舎等其他工事中に係れり他日完成の後は實に京都の一

大偉觀たる可し而して更に特筆す可き一大工事は當寺の噴水工事  
是なり同工事は琵琶湖疏水を利用し即ち同運河の日岡峠(蹴上)の  
舟溜より鐵管を通じて其水を引き當寺北方の火防地に一大瀆水池  
を設置し平日は以て境内の風致を添え一朝火災の虞あれば兼て兩  
堂其他殿舎の屋上に鐵樋を通じ直ちに其水を流注するの計畫にて  
其工事の大半を竣功せり其費す所は無慮十數萬圓なりといふ又大  
師堂の本尊親鸞上人の像は自作にして此像初め上州麻橋の妙安寺  
に安せしを徳川家康之を當寺に移さしめたるものなり其他靈寶什  
器の夥だしき一々枚擧す可らざるを以て略す毎年十一月廿一日よ  
り廿八日迄一週間祖師忌を營む之を報恩講といふ  
積穀邸 は東殿といふ徳川秀忠將軍より賜ふ所の増地即ち是れな  
り此所は河原院の舊跡にして池水は高瀬川より流れ臨池殿の庭は



小堀遠州の好匠に出で風趣幽邃西本願寺の滴翠園と共に有名の芳園なり

七條道場 時宗、黄臺山金光寺といふ此地は佛工定朝が宅なりしを一遍上人に寄附して寺となしたるなり

七條停車場 七條烏丸通に在り東海道鐵道官線の一大停車場なり京鶴鐵道も第一着手に同所と嵐山の間を布設する筈にして電氣鐵道も又同所を起點とし京都市中及び伏見に向けて聯通せり

東寺 眞言宗、西八條に在り八幡山教王護國寺といふ開祖は弘法大師なり始め桓武帝朱雀門羅城門の東西に伽藍を建立し東寺西寺といふ嵯峨帝の御宇西寺は之を南都の僧守敏に賜ひ東寺は之を弘法大師に賜ふ今の地即ち是れなりと又云ふ遷都の初め大宮の東西に玄蕃寮を置く弘仁以來東鴻臚を東寺となして弘法大師に賜ひ西

鴻臚を西寺となして守敏に賜ふと鴻臚館とは外國より來朝する賓客を止住饗應せしむる所玄蕃寮は其司官の勤仕する殿舎なり寺域凡三萬餘坪門に南大門(樓門)蓮華門(西)慶賀門(東)四足門(北)等あり南大門を入りて金堂、講堂、食堂あり食堂に安置する丈六の千手觀世音開眼の日には宇多法皇の行幸あり又同所に安する毘沙門天は元羅城門の樓上に在りしものなりといふ有名なる五重の塔は金堂の東南に在り塔の北に瓢箪池あり燕子花の名所なり西院は大師堂といふ弘法大師の影法眼康勝作を安置す毎月二十一日の緣日には世に之を東寺の弘法といひ遠近より參詣するもの實に無數なり羅城門の舊跡 東寺内に在りといふは非なり千本通四塚に在り大内裏の南面にして外郭の總門なり近頃大佛の崩門を茲に移して其舊址を表すといふ



六孫王社 清和源氏の祖神にして六孫王經基を祭れり東寺より西  
 北數丁維新以前神佛混合の際は大通寺遍照心院に屬せり此地は經  
 基殿舎の地にして幕後靈廟を建て六孫王權現と崇めしが後ち鎌倉  
 右大臣實朝の後室三位禪尼大檀越となり眞空律師を請じて開山と  
 し戒律三論眞言兼學の梵刹となしたりといふ

島原 日本最初の遊廓なり四畔郊野にして朱雀野と號す上古は瀧  
 臚館の地なり上の町、中の町、中堂寺町、太夫町、揚屋町、下の  
 町の六町あり大門を設けて一廓を成す、此地を遊廓としたる起因  
 は足利義滿の將軍たりし應永年間浪士原三郎左衛門（上の町西南  
 角桔梗屋の祖）林又一郎（大阪新町扇屋の祖）の願に依て九條村に  
 於て傾城町を免許せられ之を九條の里と呼び又た西新屋敷と稱す  
 これ實に遊廓の嚆矢なり後ち將軍義時其現況を目撃して大に取締

の必用を感じ大永八年六月二日目附役竹内新二郎を以て廓中取締  
 傾城別當に補任し以來廓内の面目を一洗す爰に百九十餘年を経て  
 天正十七年五月北は夷川南は押小路西は柳馬場東は寺町を限りて  
 替地を賜はり移轉後これを柳町と唱へたり此地玉城に接近せるを  
 以て慶長七年十一月東は室町西は西洞院南は魚柵北は五條を限り  
 移轉を命ぜらる之を六條柳町と稱す爰に在る事數十年にして徳川  
 家光市内に遊廓の存するは武道廢頽の因なりとし寛永十七年七月  
 十二日葛野郡朱雀野村に於て新地所一萬三千四百五十九坪五合を  
 下賜し直に移轉を命ず是即ち現今の地なり其翌十八年天草四郎等  
 の耶蘇宗徒肥前島原に蜂起し其楯籠る所に一門を構ふ此廓其所に  
 似たりといふを以て鐵れに命名せしが何時しか島原とのみ唱ふる  
 に至れり時に煙賣婦なるもの市中に續出し其弊害云ふべからず明



和五年十一月十六日悉く之を驅捕し一時入牢申付しが其處分に困  
 心寛政二年六月廓中の下婢として煙賣婦一千三百名を下渡し衣食  
 料として銀十五貫目を下賜せらる廓内も亦之れが處分に困難し度  
 々歎願の未同年十二月祇園、二條、北野(今の上七軒)七條の四新  
 地へ貸座敷廿軒娼妓十五名宛を置き天保七年下河原へも出店を許  
 されたり斯て在る事僅に六年にして天保十三年十二月卅日各地遊  
 廓を嚴禁せられ嘉永四年十二月十二日再び之を許されたるも以來  
 漸く衰へ舊時の全盛を見る能はず明治十九年に至り殆んど廢絶に  
 瀕せり各地同業者大に之を惜み廓内營業者に力を協せ頗ぶる挽回  
 に努めしかば近時漸く回復の途につき今や將に絶へなんとせし絃  
 鼓鼙聲を再び耳にするに至れり毎年四月廿一日太夫の道中を催す  
 此日廓内は棧敷を架け塔を設け都下の貴賤群集して立錫の餘地な

西本願寺 眞宗本願寺派の本山なり西六條に在り故に東六條の大  
 谷派本願寺に對して世に之を西本願寺といふ龜山帝の御宇文永九  
 年宗祖親鸞上人 養和元年三月背蓮院慈鎮和尚の門に入り得度建仁元年法然上人の  
 十一月二十八日京都に於て寂す明治九年 吉永の室に入り元仁元年常陸稻田に於て淨土眞宗を開き弘長二年  
 十一月二十八日勅して見眞大師と諡す 季女覺信尼公勅に依り東山大谷  
 今の知恩 院境内に上人の廟堂を建立す此年勅して久遠成實阿彌陀本願寺の  
 號を賜ひ勅願所となる開山の嫡孫如信上人別當職たり而れども上  
 人常に奥州大綱に住せられしを以て覺惠上人を大谷の看職とす其  
 後伏見、光嚴、稱光三帝の勅願所となり延て御歴代の勅願所たり  
 後土御門帝の寛正六年山門の衆徒蜂起して當寺を破却す文明元年  
 運如上人 本願寺中興の祖なり明治十五年三井寺衆徒に倚り大津近松に祖影  
 を安置す文明十二年山科郷に影堂を新建して之を移す天文元年六



角定頼、山門三井の衆徒を誦ひ當寺の佛閣を燼く證如上人眞影を攝州難波に移す石山本願寺是れなり天正八年顯如上人紀州鷺の森に移し同十一年泉州貝塚に居り同十三年攝州中島天満に移り同十九年八月五日今の地に移れり元和二年十二月回祿に罹る同四年之を再建す當寺門跡號は後柏原帝明應九年十月に踐祚し給ひ大永元年三月御即位の禮を行はる應仁の亂後朝廷衰微し踐祚より二十餘年に及で大禮延引せしかば本願寺より御即位の料を奉進す此勸賞として實如上人に紅衣を賜ひ其後證如上人を權僧正に任じ正親阿帝の御宇顯如上人の在世に始めて門跡の號を勅許し給ふ本堂に安置する祖影を骨肉の御影といふ此像は親鸞上人の在世に彫刻して覺信尼公に授與せられし所にして上人滅後茶毘の遺骨を細抹して漆に和し影を潤色せり故に名くどぞ阿彌陀堂、集會所、轉法輪藏、

鐘樓、大鼓樓等あり鼓樓の大鼓は大和西大寺の什物なり鼓樓の大鼓は太秦廣隆寺より移せしものにて少納言信西の銘あり唐門は古豊國社にありしものにて人物走獸を彫刻し莊嚴華美近代の奇物なり虎の間、浪の間、對面所、白書院、黒書院、其他關雎殿、綺春館、永安館、桃仙館等殿舎高閣のた懸しき一々枚擧す可らず滴翠園は集會所の東に在り園内十景あり高樓を飛雲閣といふ昔時豊公聚樂の第にありしを移したるものなりと閣上の畫は霞の富士、中閣の畫は三十六歌仙にして古法眼元信の筆なり下を詔賢殿といふ高樓を繞りて池あり滄浪池といふ龍背橋あり踏花場あり此邊數株の櫻樹を栽ゆ胡蝶亭の傍に夜光石あり池の坡を嘯月坡といひ御湯殿を黃鶴臺といふ醒眠泉は古醒井にして艶雪林には梅花多し青蓮樹は茶亭にして又澆花亭と名く又是れ有數の芳園なり當寺



は東本願寺と共に諸國の信徒實に夥たしく毎年一月十日より同十六日迄一週間祖師忌を營む之を報恩講といふ

興正寺 眞宗興正寺派本山にして西本願寺の南に在り當寺の縁起は大略佛光寺の條下に述べたる如し佛光寺第十四世經豪上人山科本願寺日蓮上人に屬し更に山科に於て一字を草創し舊號を復して興正寺といふ佛光寺元と興正寺といふ詳細は佛光寺の條下に在り此に於て經豪上人の化導海内に弘溢す後ち天正十九年今の地に移れり明治初年澤稱上人本願寺より分離し更に獨立して一本山となれり當寺門跡號は正親町帝御宇第十七世顯尊上人の勅許を被る所なり

本國寺 日蓮宗大本山、松原の南、堀川の西に在り日蓮上人相州鎌倉松葉谷に草庵を結び之を法華堂と名け盛に法華經を弘め題目を稱揚す是れ開宗發軔の道場にて法華精舎の濫觴なり文應元年諸

宗の道俗に破却せられ上人暫く下總に整居す弘長元年三月再び歸り法華堂を修復し宗風を弘む同五月伊豆に謫せらる赦免の後ち同三年七月又法華堂を再興し改めて大光山本國寺と號す文永八年北條時宗の爲めに滅却せられ上人佐渡に謫せらる同十一年佐渡より歸り松葉谷の廢地を其嫡弟日朗に附し甲州身延山に閉居す上人滅後日朗松葉谷に移り本國寺を修造す徳治二年將軍久明親王四町四方の地を賜ひ當寺を再建し將軍家の祈願所とす宗風日々に繁昌せり嘉曆帝當寺を以て勅願所とす貞和元年光明帝の勅に依り相州より帝都即ち今の地に移れり或は云ふ此寺地は昔の六條判官爲義の第址なりと又源義經の堀川館は是れなりとの説あり本堂は元の大密殿にして本尊は中央に法華經日助僧部一字三禮の自筆左に釋迦佛定慶右に多寶佛を安す此建物は始め江州安土城に在りしを大和中納言秀俊の



館に移し秀俊歿後當寺に移せるなりと妙法華院の横額は水戸光圀の筆にて上段の間の書圖は狩野永徳の筆なり祖師堂には日蓮上人の影を安し脇壇には日朗、日印、日靜、日傳の像を安し祖影は上人存生中の脱齒三莖を藏むといふ生御影堂は昔の小客殿なり祖師の影を安す弘安年中日朗上人祖師の影を刻し開眼を請ふ祖師開眼を修して我魂魄を留め置くと染筆し且華押を居らる故に生御影といふ立像釋迦堂は黄金佛の立像釋迦を本尊とす祖師の隨身佛にて當山三個の靈寶中第一の尊像なり清正公堂は加藤清正を本尊とす清正深く日蓮宗を信仰し朝鮮征伐に赴かんとするや當寺の三十番神に祈る所あり且時の山主より引導を受けて出發せりといふ始め紀州侯頼宣の夫人清正の女が父母追薦の爲め石碑を建立せしが今の堂は萬延年中に創立せしものにして清正の遺髪を藏むといふ信者の

養するもの最も多し早禰堂は早禰天女を安す天文五年叡山の衆徒當寺を焼く日助上人靈寶を集め難を避けんとするも烟焰天に漲り咫尺を辨ぜず時に天女庭前の石上に出現して之を守護したりと夫より茲に之を安したりといふ鬼子母神堂、一切經藏、三光堂等其他の建物境内に羅列す鎮守堂は紀貫之作の柿本人麿を安せり此所は入麿塚の在りし所なりといふ庭前に月桂梅、うたゝ、寝の洗水鉢、堀川御所の沓脱石、烏帽子石等あり境内東西二丁南北六丁塔頭三十有餘落中有數の巨刹なり毎年十月十二日祖師の會式を執行す

壬生寺 眞言、律兼學開基は三井寺の快覽大僧都にして中興は圓覺上人なり島原遊廓より北十丁許、本尊は地藏尊なり世に有名な壬生狂言は愚癡蒙昧の輩を菩提の道に入らしめんとする方便にて圓覺上人を創始したるものにて毎年五月十四日より同廿四日



まで種々の猿樂をなす所謂壬生の大念佛是れなり

五條天神

天使社と稱す桓武帝遷都の初平安城鎮衛の爲め造營し

給ふ所にして松原通西洞院に在り少彦名命を祭る醫道の祖神なり

菅大臣社

同町に在り菅原是善の館址にして菅原道實降誕の地

なりといふ

空世堂

天祿三年の草創にして開基は空也上人なり蛸薬師堀川東

に在り壬生寺より七八丁當寺にも踊躍念佛あり俗に之を空也念佛

といふ

因幡薬師

平等寺と號す松原通烏丸東に在り眞言宗なり本尊薬師

佛は立像六尺二寸往昔橘行平勅により因幡國一宮に參詣す靈夢

に感して海底より光明赫奕たる薬師佛を得たり其地に堂を造りて

豆葉寺と稱し又座光寺と改む行平歸洛するに及て薬師佛も入來し

たる等種々の奇瑞ありしと傳ふ

佛光寺

眞宗佛光寺派の本山なり佛光寺通高倉に在り順徳帝御宇

建曆二年宗祖親鸞上人山科に一寺を創立し眞正寺と號す上人之を

其上足眞佛上人に附與せらる後醍醐帝の御宇元應元年當寺を澁谷

に移す同帝當寺本尊阿彌陀佛の奇瑞に感あつて勅して眞正寺を

改め佛光寺となさしむ又當寺を以て一向專修の棟梁たる可き繪旨

を賜ふ然るに文明年中當寺十四世經豪上人山科本願寺蓮如上人に

屬す此時塔頭四十八坊ありて四十二坊は之に隨順し山科に於て新

に一字を草創し舊號に復して眞正寺と稱せり今の眞正寺派眞正寺

是なり是に依り他の六坊經豪上人の舍弟經譽上人を立て、當寺第

十四世の血脈とす其後豊太閤大佛殿建立に就て當寺を今の地に移

せり當寺門跡號は後土御門帝御宇寛正六年十三世光教上人の勅許



を被る所なり本堂には親鸞上人自作の影を安す阿彌陀堂の本尊阿彌陀佛は慈覺大師の作にて親鸞上人の安置佛なりといふ

六角堂 頂法寺と號す六角通鳥丸東に在り聖德太子の開基にして天台宗に屬せり本尊如意輪觀音は淡路國岩屋浦の海中にて獲たる一寸八分の金銅像なり太子七生の持尊佛なりと傳ふ太子奇夢に感じて此地に堂宇を造營して之を安置す堂の形六角なるを以て六角堂といふ東門入口に圓形凹狀の石あり之を臍石といふ往時京都の中心を測りてこれを設けしといふ現今の石は近年据付し物なり

洛東部

稻荷より東山を経て八瀬大原古知谷に至る

稻荷神社

官幣大社、東福寺の南に在り祭神は倉稻魂命、素盞鳴

命、大市比賣命の三神なり元明帝の御宇和銅元年二月午の日倉稻

魂命始めて稻荷山三の峯に垂跡し玉ふ今の社地のて其所に鎮坐せ

しが延喜八年藤原時平社殿を修造せり永享十年足利義教山上三の

峯より今の地に遷座し奉れり境内廣潤神殿莊麗にして世に之を伏

見の稻荷と稱し四方の賽入日夜絶ゆるとなし社の後山を稻荷山と

いふ攝末社は峯巒溪谷の間に在り之を願拜すると里程一里餘俗に

之を御山巡りといふ例祭は毎年五月七日神輿五基伏見街道より五

條橋を渡り九條の御旅所に神幸あり又二月初午の日は貴賤の參詣

するもの夥たしく臨時瀛車を發するに至る當日は當社の神影現

の日なるが故なりといふ

東福寺

臨濟宗五山の一なり北は泉涌寺、南は稻荷に接せり南北

二門あり北門は伏見街道二橋の南にして南門は三橋の傍に在り

開基は聖一國師にして願主は關白九條道家なり建長七年の建立に



係れり洪基を南都の東大寺に亞き盛業を同興福寺に取るの意を以て號して東福寺と名く寺域五萬九千餘坪堂塔伽藍は巍々として城内に連なりしも明治初年の失火に佛殿、方丈其他大半を燒失したるは惜みても尙ほ餘りあり左れど有名なる通天橋は幸ひに其災ひを免かるゝを得たり橋は南北に架す橋上に廊あり額に普明國師の筆なり梁の文に大檀越太閤大相國秀吉公藝州安國惠瑜昇建慶長二丁酉三月日とあり其西橋を臥雲橋といふ橋下を洗玉澗と名く紅葉の勝地を以て其名高し世に通天の紅葉といふ是れなり常樂庵は開山の昭堂なり普明院と號す通天の北に在り佛殿は磚にして中央に聖一國師の像を安す欄門の額は無準の筆、閣を三佛閣又は傳衣閣といふ佛殿の額は後光明峰寺の筆、中央壇上の額は持明帝の宸筆なり當寺の什寶中毘殿司の涅槃像は絶倫の名畫なり

又同筆の五百羅漢像、二十八祖像、觀音三十三身相三十三幅等其名什少なからず又た庵内庫裡に秘藏する黄金の寶塔は奇代の名品とて天下に喧し

泉涌寺 禪、眞言、天台、律四宗兼學、伏見街道一橋の北に在り當山は最初弘法大師の開基にして法輪寺と號せり文德帝の御宇齊衡三年左大臣藤原緒嗣神修上人の爲め再建し宗を改めて仙遊寺と號す順德帝の御宇建保六年俊柄律師之を中興して四宗兼學となし泉涌寺と改めたり當時は泉山御陵といひ四條帝を權輿とし後土御門帝以後御歴代の帝陵皆な其後山に在り故に帝室の御對遇他に異なるもの多し寺域四萬四千五百餘坪東北に山を負ひ老松翠深ふして俗塵の襲來するものなし中門に掲る東山の額は張即之の筆佛殿には彌勒、釋迦、阿彌陀の三佛を安す共に運慶の作なり釋迦堂は



後水尾帝の御建立にて今の本尊は黄檗山隱元が彼土より將來の佛像なり之を三平の釋迦と稱するは三平山の檜木を以て造れるが故なり觀音堂の本尊は玄宗皇帝の作にて楊貴妃追福の爲め其容貌を摸して造り玉ふものにて洛陽三十三番の一なり舍利殿の本尊は佛牙の舍利にして二重の金塔に安せり開山堂には俊枋律師の像を安ず掲る所の泉涌寺の額は張即之の筆なり靈明殿には四條帝の宸影及び御歴代の尊牌を安す其額は後西院帝の宸翰なり

新熊野觀世音 本尊は弘法大師の作にして西國十五番の札所なり即成就院 那須與一宗高の建立にて本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なり初め伏見御香宮の近傍にありしが桃山城築造の時藤ノ森の北三丁の所に移り再轉して新熊野觀音堂内に雜居す

劍の宮 新熊野より泉涌寺に至る路傍に在り祭神は白山權現

新熊野神社 智積院の南三丁、祭る所は紀州熊野權現にして後白

川法皇の勸請なり額は照高法親王の筆なり

養源院 天台宗、三十三間堂の前に在り淺井長政菩提の爲め其男

清伯僧正の建立する所なり血天井は豊臣氏滅亡の紀念物として桃

山より移せしものなりといふ今猶血痕斑々たり

智積院 眞言宗、養源院の東に在り豊太閤の子息弄若君早世す寺

を此地に建て、墓所寺とし祥雲院と號せり妙心寺南化和尙住職せ

り後ち之を妙心寺に移し其跡を智積院と稱す是より先天正十三年

秀吉紀州根來寺を滅し眞言宗覺鑊派の斷絶したるより新義の徒愁

訴する所あり乃ち此地を賜ふて智積院と號す本尊は不動明王にし

て興教大師の作なり

三十三間堂 天台宗、蓮華王院と號す帝國京都博物館の南に在り



始め鳥羽上皇此地に三十三間堂を建て得長壽院と名け一千一鉢の  
 觀音を安じ玉ふ後ち後白河上皇又三十三間堂を建て一千一鉢の觀  
 音を安じて蓮華王院と號せり深草帝の寶治二年兩寺とも回祿に罹  
 り後ち龜山帝の文永二年再建あり其際二寺を合併して一寺となし  
 獨り蓮華王院を存せるなりと或はいふ鳥羽上皇得長壽院を造營す  
 後ち改めて蓮華王院と號すと兩説孰れか是なるを知らざれども今  
 の三十三間は龜山帝の再建たるを疑ひなし堂は南北六十六間あり  
 二間毎に一柱を立てたるを以て三十三間堂といふ本尊は千手觀音  
 八尺にして康慶の作、二十八部衆四尺は同壇上に千手觀音一千鉢  
 は堂内左右に安置せり蓮慶滿慶の兩作なりと云洛東隨一の古刹也  
 帝國京都博物館 豐國神社の南隣に在り城内方百間即ち一萬坪に  
 して建坪總數九百餘坪古器物陳列室七、繪畫室九、彫刻室一其他に

して其建築は明治新建築中完全無比と稱し其工費豫算は十六萬八  
 千餘圓悉皆帝室費より御支辨あり明治二十五年六月より起工せし  
 が本年十月に至らざれば竣功せず開館は蓋し明治二十九年一月な  
 らんとす

豐國神社

別格官幣社、大佛殿の南隣に在り豊臣秀吉の靈を祀る

始め慶長四年秀吉に豐國大明神の神號を下賜せられしが徳川氏に  
 及び之を廢せられ一基の石塔婆を方廣寺内に存せしを明治十年別  
 格官幣社に列し新に今の社祠を營めり社の背後東山の峯嶺を阿彌  
 陀ヶ峰といふ小松谷の南峯に在り豊太閤の遺骸を葬れる所なり

大佛殿方廣寺

天台宗、天正六年豊臣秀吉の創立にて昔は佛殿樓

門其他頗る偉觀を極めしが慶長七年回祿に罹り同十五年豊臣秀頼  
 之を再建す寛文二年本尊盧舍那佛丈三六の銅像を改めて木像とせ



り寛政十一年七月又々雷火の爲めに烏有に歸し爾後本尊の大佛亦た半像となれり撞鐘堂の鐘は長一丈四尺徑九尺二寸厚一尺にして豊臣秀頼の鑄造せし所なり東福寺の僧清韓の銘あり鐘面に國家安康の句あり徳川家康以て己れを咒詛したりとなしたるは歴史上に著名なる事實たり門前巨石を疊み封境を築く結構の雄偉なる尙ほ當年豊公の造營を追想せしむるに足る境内に萩園あり是亦た都下名勝の一に居れり

耳塚 豊國神社門前に在り豊太閤の朝鮮を征伐するや諸將敵の首級を獲るもの幾萬或は取り或は剝り鹽藏して日本に送りたるを埋めたる處なり

妙法院 叡山三千坊の一にして叡山に在りしが法親王在住となるに及び入阪の地に移り小阪殿又は綾小路宮と稱せり豊太閤大佛殿

建立に付妙法院法親王其事務を管せらるることとなり照高院法親王之を避けられたるより其宮地に移りしものなりと本堂には普賢菩薩を安置す庫裏梁行十三間餘は院内第一の建物にて豊太閤の建立なり千僧供養の舊物なりといふ大書院は梅の間と稱し元和五年東福門院入内の時の御殿を下賜せられたるものなり護摩堂（本尊不動明王）天堂（本尊大黒天傳教大師作）聖天堂（本尊歡喜天慈覺大師入唐將來の品）等あり開祖は中興の故を以て行眞法皇（後白河帝）を仰ぎ奉る妙法院林泉は小堀遠州の作にて別に奇巧を弄せずして妙趣あり殿舎の襖繪其他は狩野家其他名家の筆に成れり什寶は代々法親王在住なりしを以て重器甚だ多かりしも維新の當時散逸したるもの少なからず宸翰最も多く豊太閤の遺物亦六十餘種あり就中後白河後鳥羽二法皇の御消息及光格帝の漢文捺印の御尺牘は實



に有数の絶品なり

宸殿しんでんは元治年間三條公等七卿都落みやこぢやくの舊跡なりしが維新後毀壞して存せず措む可し近年紀念碑建設の計畫あり又積翠園は今は荒廢したれど老樹陰翳ちうじゆいんうつたいせうぼんた苔石盤陀たいせきばんたたり豊國神社大道を開き阿彌陀峯に達する計畫あり此地を以て公園の如くする筈なり東山亦一名勝を添ふるに至らん

小松谷正林寺

淨土宗、馬町の東に在り開基は惠空上人にて月輪

關白兼實并に法然上人の舊跡あり

西大谷にしおほたに

五條阪の上に在り本願寺派本願寺の廟所なり慶長年中今

の知恩院境内より此地に移したるものにて舊地の號を取り大谷と稱せり抑も本願寺の號は此親鸞上人の廟所に賜へる勅號にして阿彌陀佛弘誓くせいの名目を取ると諸宗に超えたる寺院なり佛堂を勝久寺

と號す見真大師けんしんたいしの廟は山上に在り門前に蓮池あり架するに目鏡橋を以てす又櫻楓二樹に富むと雖も殊に蓮花れんくわを以て名あり

清閑寺せいかんじ

眞言宗、清水寺の西南に在る幽邃ゆうすいの境なり延曆年中紹繼

法師草創す始めは天台宗なりしといふ其後荒廢したるを一條帝の

御宇佐伯公行再興す本尊千手觀音は菅公の作なり高倉帝及其愛妃

小督局こすくろくの塔あり歌の中山なかやまとは清閑寺の事なり

清水寺

法相眞言兩宗兼學、清水阪しみずさかの東に在り有名なる靈場なり

當寺は往昔木津川きはつがわの上大和國に在り僧延鎮異人行殿居士に値遇し代て其草庵に往すると五年の後ち延曆二年阪上田村麿の奈良の京を出でし出獵するに會す田村麿大に信心渴仰の思をなし翌年佛閣を造立せり後ち桓武帝の御宇延曆三年帝都を長岡ながおかに移されたる時靈告により今の地に田村麿の居宅を移し本尊を安やすじて北觀音寺と



號す今の田村堂是れなり延暦十二年長岡より平安城に遷都あり田村磨に殿舎を賜ひ敕して觀音堂を造營せしむ又平城帝の御宇大同元年田村將軍に紫宸殿を賜ふて清水寺に移用ひ伽藍となさしむ故に今に至る迄此堂の形は紫宸殿の模形なり本堂は懸崖に架して南面し前に舞臺を設く世に有名なる清水の舞臺是れなり本尊十一面四十臂千手千眼の觀音は他人の作なりと傳ふ脇士は勝軍地藏及勝敵毘沙門天は延鎮の作にて田村磨東夷征伐に靈驗ありたる靈像なり今尙箭痕諸所に印せりといふ奥の千手堂は延鎮法師住房の跡なり千手觀音を安す千手堂の傍に阿彌陀堂あり瀧山寺と號す法然上人念佛三昧開闢の處也釋迦堂は阿彌陀堂の北に在り又本堂の西に朝倉堂あり其西を田村堂とす兩堂の北に月照上人の碑あり田村堂の西に法華三昧堂あり一切經并に諸國三十三所の觀音を安す又三

重の塔あり桓武帝の建立なり塔の西を西門といふ西門の東北に隨求院あり本尊は豐臣秀吉の持尊なり豐太閤幼少の時之を砂中に得たる靈像なり後ち關白となるに及で此堂を建立し之を安置す此所に於て當寺の什寶を觀覽せしむ惡七兵衛の書簡、同爪形の觀音、其他を陳列す音羽の瀧は本堂より石階を下ると七十一段の處に在り瀧の上に龍神を鎮在す最も避暑に適せり當寺は管に來養者の群詣するのみならず雅となく俗となく四時遊蹤を絶つとなく苟くも京都に遊ぶものは足此地に至らざるものなし

經書堂 來光院と號す清水產寧阪に在り聖德太子の草創なり小石を集め道俗に法華經及大乘經を書かしめ自他得益の種因を授け玉ふ善巧方便の舊蹟なり本尊太子十六歳の相は自作の像なり

姫堂 經書堂の前に在り運慶作の三途河老婆を安す